
矢白別演習場周辺

まちづくり構想

(基本構想資料編)

目次

1	まちづくり構想に係る補助要件等について	2
1-1	まちづくり支援事業等の趣旨	2
1-2	補助対象となる地方公共団体	2
1-3	まちづくり構想策定支援事業の採択	2
2	矢臼別演習場周辺まちづくり構想(基本構想)策定に係る住民参加機会	3
2-1	矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民アンケート調査について	3
2-2	矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会について	53
2-3	平成27年度矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民大会の開催状況	65
2-4	矢臼別演習場周辺まちづくり構想(基本構想原案)に係る町民意見の公募について	77
3	矢臼別演習場周辺まちづくり構想策定に係る庁内組織	85
4	矢臼別演習場周辺まちづくり構想策定に係る関連した会議	89

1 まちづくり構想に係る補助要件等について

1-1 まちづくり支援事業等の趣旨

「まちづくり支援事業等は、主として航空機騒音問題への対応策の一つとして実施するものであって、主に自衛隊等の航空機の離陸、着陸等の頻繁な実施により生ずる音響によって周辺地域の住民の生活や事業活動が著しく阻害されている場合において、地方公共団体が、住民の需要及び防衛施設の存在、自然環境、歴史、文化等の地域の特性を踏まえつつ、その障害の緩和に資する施設の整備を通じて防衛施設の存在を前提としたまちづくりを行う場合に、国がその費用の一部を補助し、防衛施設の存在に対する住民の理解を深めることで、防衛施設とその周辺地域との調和を図るものである」（平成24・防地周8756・事務次官通達・別1頁）と定義されています。

1-2 補助対象となる地方公共団体

「まちづくり支援事業等による補助の対象となる地方公共団体は、周辺地域の住民の生活等に与える障害が著しい防衛施設が所在する地方公共団体とし、過去においてまちづくり支援事業による補助を受けたことがあるものを除くものとする」（平成24・防地周8756・事務次官通達・別1頁）と定義されています。

なお、ここで言う周辺住民の生活等に与える障害が著しい防衛施設が所在する地方公共団体とは、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律 第9条第1項に基づき特定防衛施設関連市町村に指定された地方公共団体のことを指しており、別海町は矢臼別演習場が同第2号「砲撃又は航空機による射撃若しくは爆撃が実施される演習場」にあたります。

1-3 まちづくり構想策定支援事業の採択

本事業の採択には、以下の各号(平成24・防地周8756・事務次官通達・別1～2頁)のいずれかに該当する内容であることが必要です。

別海町では、第1号の内容を含めたまちづくりについて、平成29年度中の矢臼別演習場周辺まちづくり構想の策定を目指しています。

- (1) 防衛施設が存在するという地域の特徴を活用し、自衛隊員、米軍人等と防衛施設の周辺地域の住民との文化の交流又は地域における防災等のための活動の促進を企図したまちづくり
- (2) 飛行場周辺において法第5条第2項の規定に基づき国が買い入れた土地の活用を前提としたまちづくり
- (3) 防衛施設周辺の市街地又は市街化しつつある地域の活性化又は住民の生活環境の改善につながるまちづくり
- (4) 前3号に掲げるもののほか、防衛大臣がまちづくり支援等の趣旨に合致するまちづくりとして特に認めるもの

2 矢臼別演習場周辺まちづくり構想(基本構想)策定に係る住民参加機会

2-1 矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民アンケート調査について

■調査の目的

町民からの発意と行動に基づくまちづくりに取り組むため、住民参加機会の一環として、町民の視点から見たまちづくりの課題を明らかにし、総合的な住民要望を確認するとともに、現在建設が計画されている生涯学習センター及び防災食育センター建設に向けた種々の取り組みにおける意義を高めることを目的としました。

また、設問については、別海町民が市街地に対してどのようなイメージを持っているのか、また既存施設や商店街利用の状況、災害に対する備えやニーズ、自衛隊の地域貢献などについてどのような状況になっているのか、意見傾向を把握することを重視しました。

■調査の対象者

18歳以上の別海町民の内、無作為抽出による2,500名

【抽出条件】

平成27年11月1日現在、別海町民として住民記録のある者
平成27年3月31日時点で、満18歳以上の者

【抽出方法】

乱数を用いた抽出番号の生成

発送日3日前に、異動者一覧表による死亡及び転出者を確認し、不足の場合には次点者を繰り上げて対象者としました。

■調査方法

アンケートの送付は、日本郵便株式会社を用いて実施することとし、送付に当たっては、役場指定の角形2号定形外封筒を用い送付しました。

■調査実施期間

調査票の発送時期 平成27年11月20日(金)

調査票の回収期限 平成27年12月28日(月)

■発送数、回収数

アンケート発送数 2,500件 内、有効回収数 868件

アンケート回収率 34.72%

■アンケート調査結果

アンケートの結果は、次頁からの【アンケート調査集計結果】のとおりです。

【アンケート調査集計結果】

(1) 回答者属性

1) 年代と性別

性別は、「女性」が52.3%、「男性」が46.5%と、あまり変わらない。

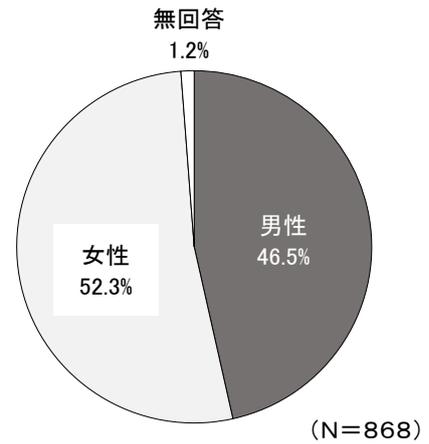


図 2-1 性別

年代は、「60代」が22.5%と最も多く、次いで、「70歳以上」19.6%、「50代」18.8%、「30代」15.8%、「40代」14.5%、「20代」7.4%となっている。

『60歳以上』は全体の4割以上を占める。

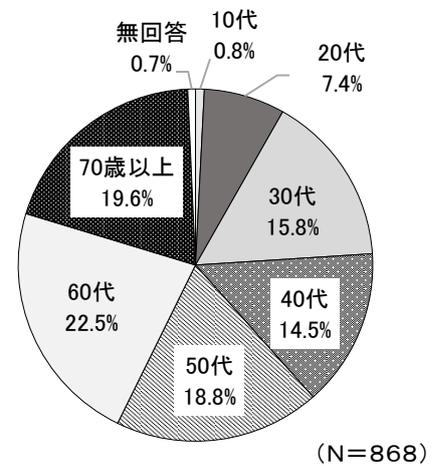


図 2-2 年代別

性年代別では、「60代女性」が11.4%と最も多く、次いで、「60代男性」10.8%、「50代女性」10.6%、「70歳以上男性」10.3%、などとなっている。

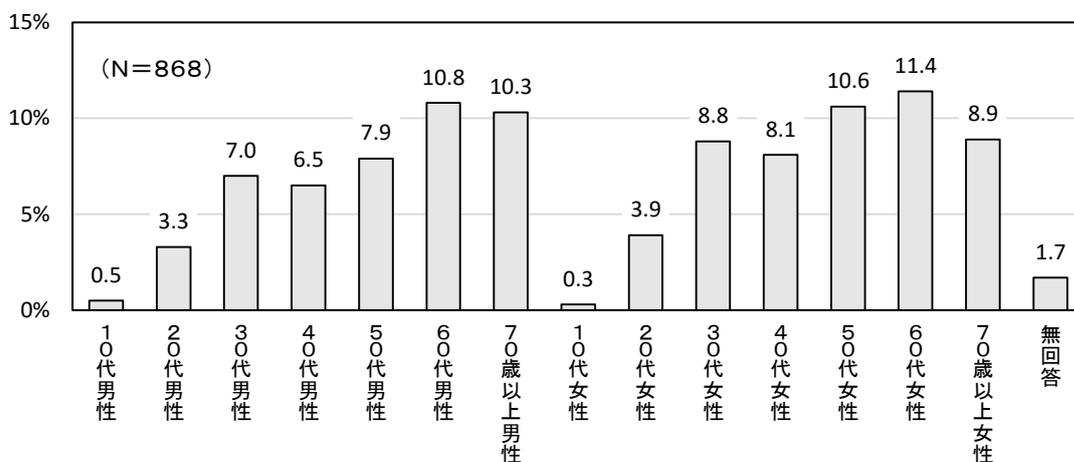


図 2-3 性年代別

2) 職業別

職業別では、「**その他サービス業(公務員含む)**」が23.6%と最も多く、以下、「**農林水産業**」20.6%、「**無職**」20.0%、「**主婦(夫)**」17.2%、「**製造業、建設業**」7.0%などとなっている。

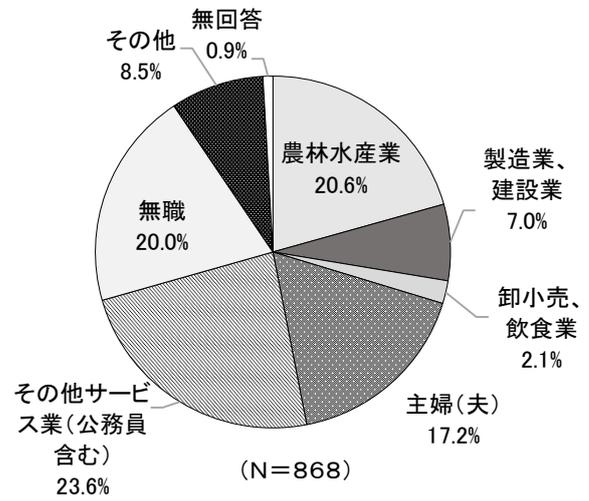


図2-4 職業別

3) 居住歴

居住歴は、「**道内の他の市町村から転入してきた**」が32.4%と最も多く、以下、「**生まれてから、別海町にずっと住んでいる**」27.4%、「**別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある**」24.4%、「**道外の市町村から転入してきた**」14.6%となっている。

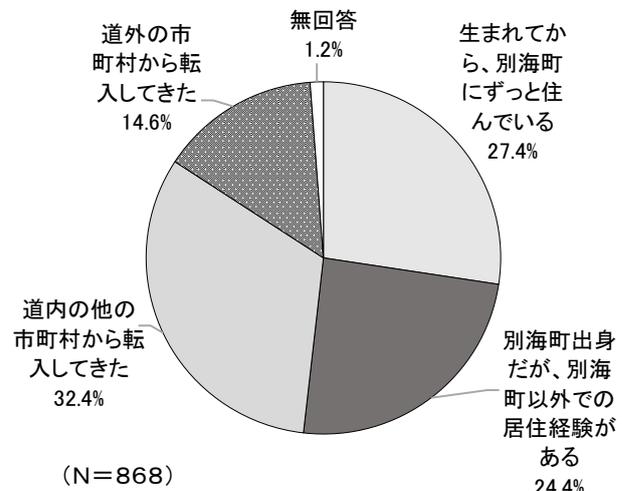


図2-5 居住歴

4) 現居住区

居住区別では「**別海地区**」が4割以上を占め、他地区を大きく上回っている。以下、「**西春別駅前地区**」10.9%、「**尾岱沼地区**」8.5%、「**中春別地区**」「**西春別地区**」ともに6.1%などとなっている。

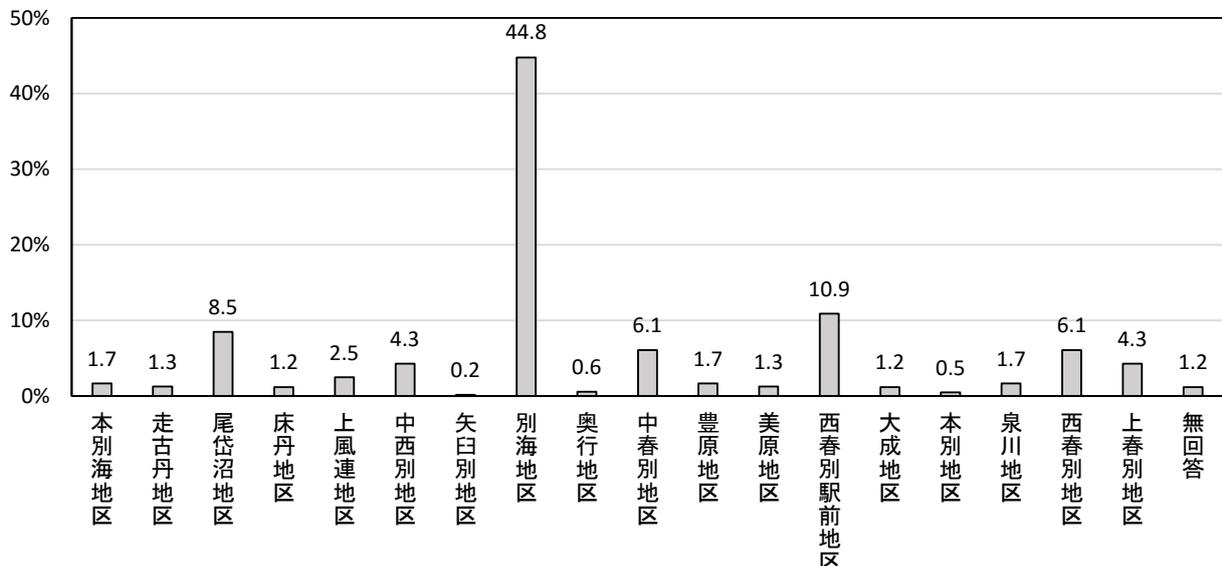


図2-6 現居住区

5) 居住形態

居住形態別では「一戸建持ち家」が7割以上を占めている。以下、「社宅・寮」9.3%、「公営住宅」5.2%、「民間の賃貸住宅（アパート等）」4.5%、「一戸建借家」3.8%などとなっている。

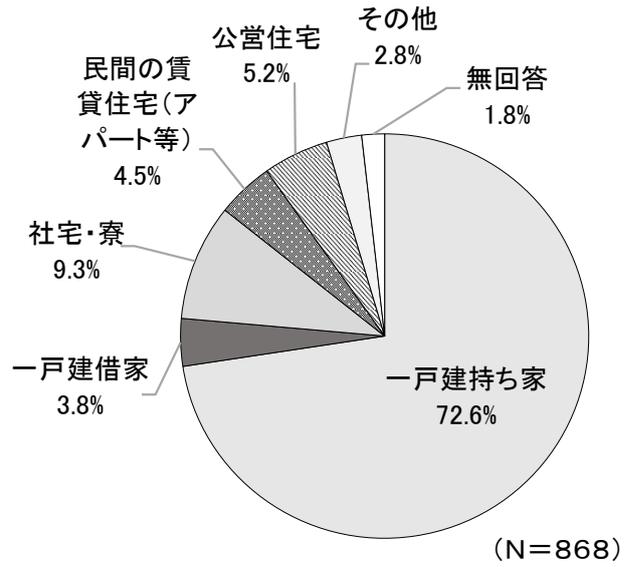


図2-7 居住形態

6) 別海町居住年数

別海町居住年数別では「20年以上」が7割以上を占めている。以下、「20年未満」10.8%、「10年未満」6.1%、「5年未満」4.4%、「3年未満」3.9%「1年未満」1.4%となっており、8割以上の方が『10年以上』別海町に住んでいる。

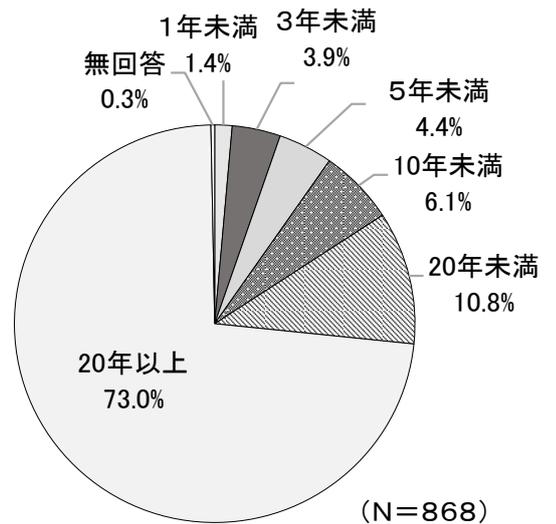


図2-8 別海町居住年数

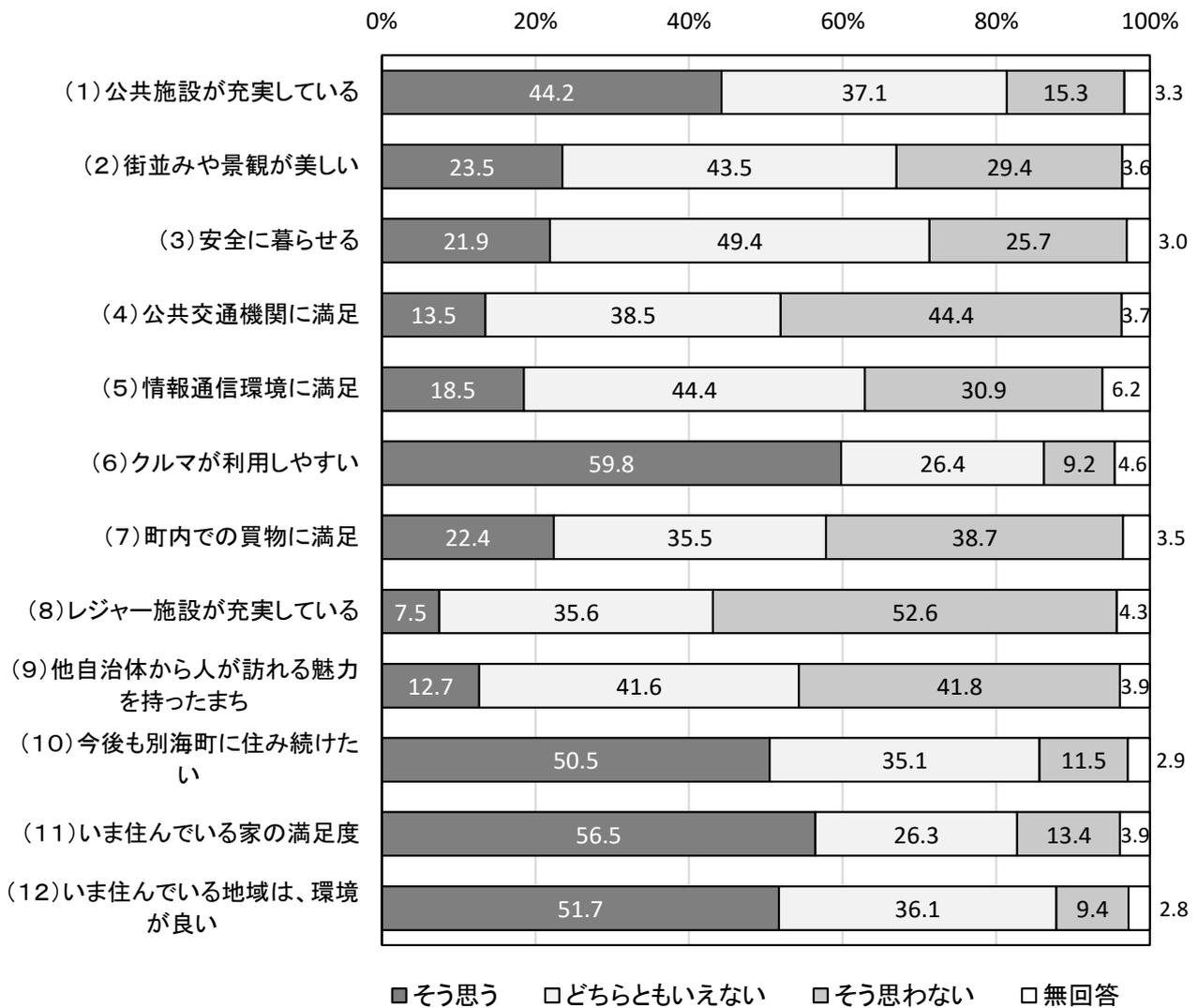
(2) 別海町での生活について

1) 別海町での生活について

次の(1)～(12)の項目について、あなたのお考えに近いものをお聞かせください。
(1つだけに○)

別海町での生活について尋ねたところ、「(1) 公共施設が充実している」「(6) クルマが利用しやすい」「(10) 今後も別海町に住み続けたい」「(11) いま住んでいる家の満足度」「(12) いま住んでいる地域は、環境が良い」の5項目については4割以上の方が「そう思う」と回答しており、特に「(6) クルマが利用しやすい」は6割近くを占めている。

一方、「(4) 公共交通機関に満足」「(8) レジャー施設が充実している」「(9) 他自治体から人が訪れる魅力を持ったまち」の3項目については4割以上の方が「そう思わない」と回答しており、特に「(8) レジャー施設が充実している」は半数以上となっている。



年齢別にみると、「(2) 街並みや景観が美しい」は20代・40代で3割以上の人が「そう思う」と回答している。「(3) 安全に暮らせるまち」は年齢が高くなるにつれて「そう思う」と回答する割合が多くなる傾向がみられる。「(6) クルマが利用しやすい」は全年代で半数以上、「(10) 今後も別海町に住み続けたい」では60代以上で半数以上、「(11) いま住んでいる家の満足度」では30代以上の半数以上が「そう思う」と回答している。

一方、「(4) 公共交通機関に満足」では40代・50代で半数以上、「(5) 情報通信環境に満足」では20代～30代で4割以上、「(7) 町内での買物」では20代・30代・50代で4割以上、「(8) レジャー施設が充実している」では20代～50代で6割以上が「そう思わない」と回答している。

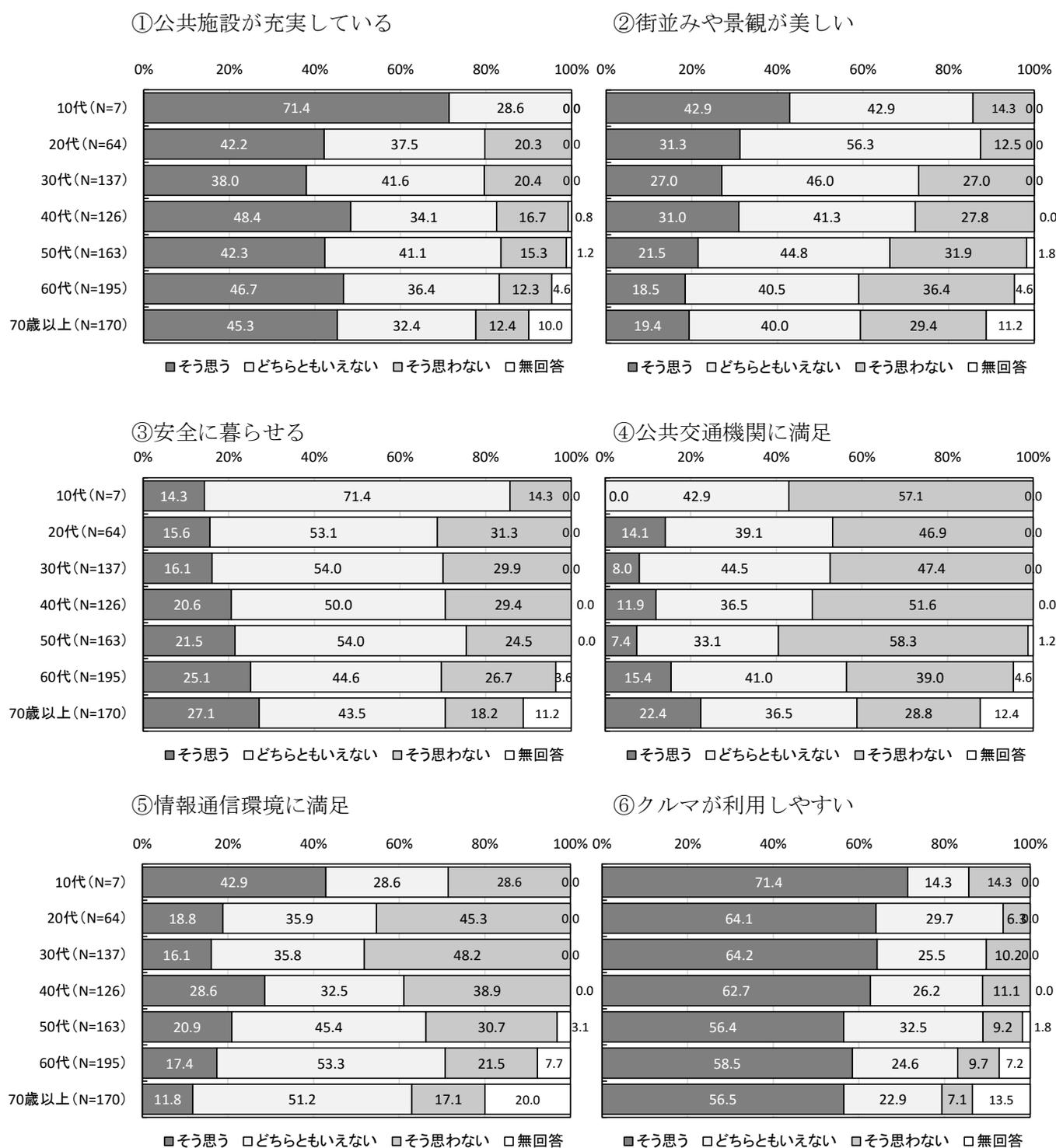
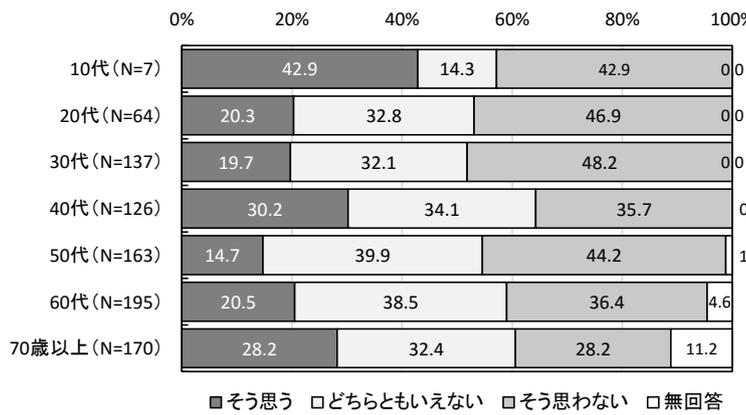
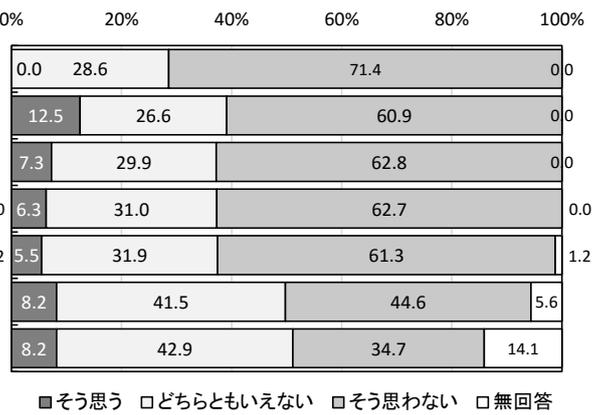


図 2 - 1 0 別海町での生活について (年代別)

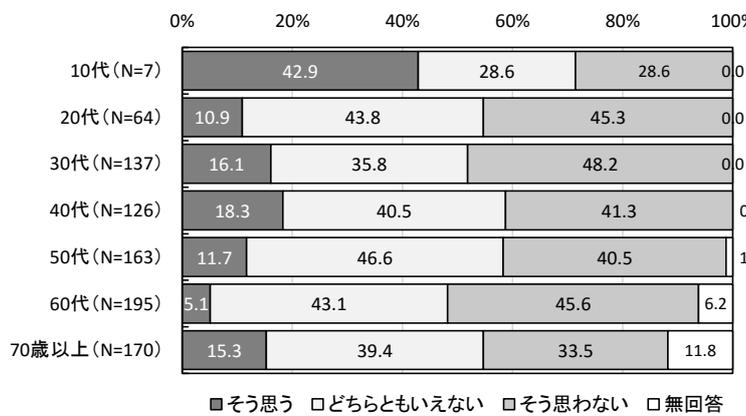
⑦町内での買物に満足



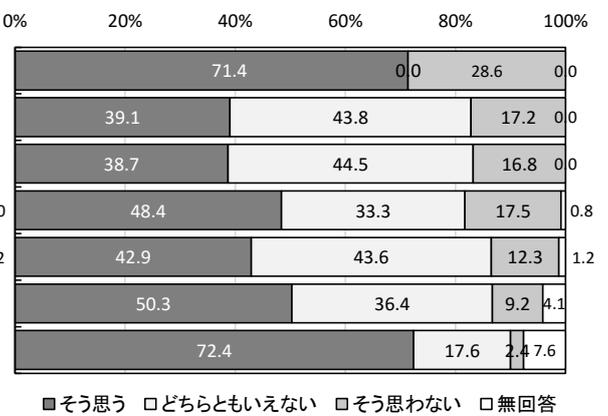
⑧レジャー施設が充実している



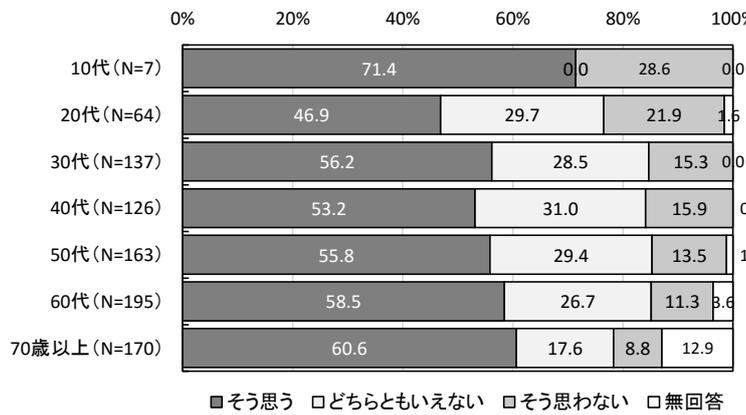
⑨他自治体から人が訪れる魅力を持ったまち



⑩今後も別海町に住み続けたい



⑪いま住んでいる家の満足度



⑫いま住んでいる地域は、環境が良い

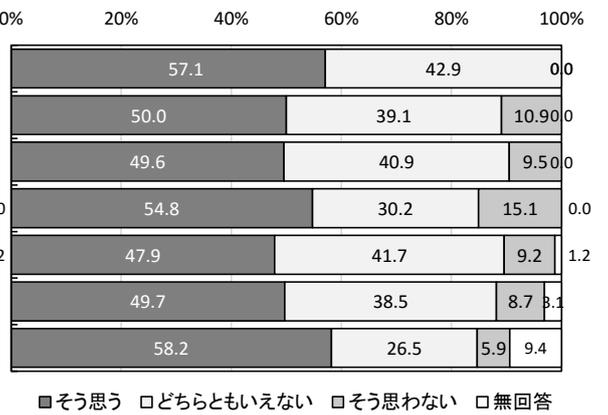


図2-10 別海町での生活について（年代別）続き

(3) 既存施設の利用状況について

1) 中央公民館の利用頻度

3-1 あなたは、中央公民館をどのくらいの頻度で利用しますか。(○は1つだけ)

中央公民館をどのくらいの頻度で利用するかについて尋ねたところ、全体では「行かない」が33.8%と最も多く、「ほとんど行かない」22.0%を合わせた『ほとんど行かない・行かない』は半数以上となっている。

一方、『月1回以上行く』は、14.2%となっている。

これを年代別にみると、『ほとんど行かない・行かない』は20代～60代では半数以上を占めており、特に20代では8割近くの人が『ほとんど行かない・行かない』と回答している。

一方、70歳以上では『ほとんど行かない・行かない』と回答した人が37.7%と他の年代より低く、また『月1回以上行く』が30.6%と他の年代に比べて多くなっている。

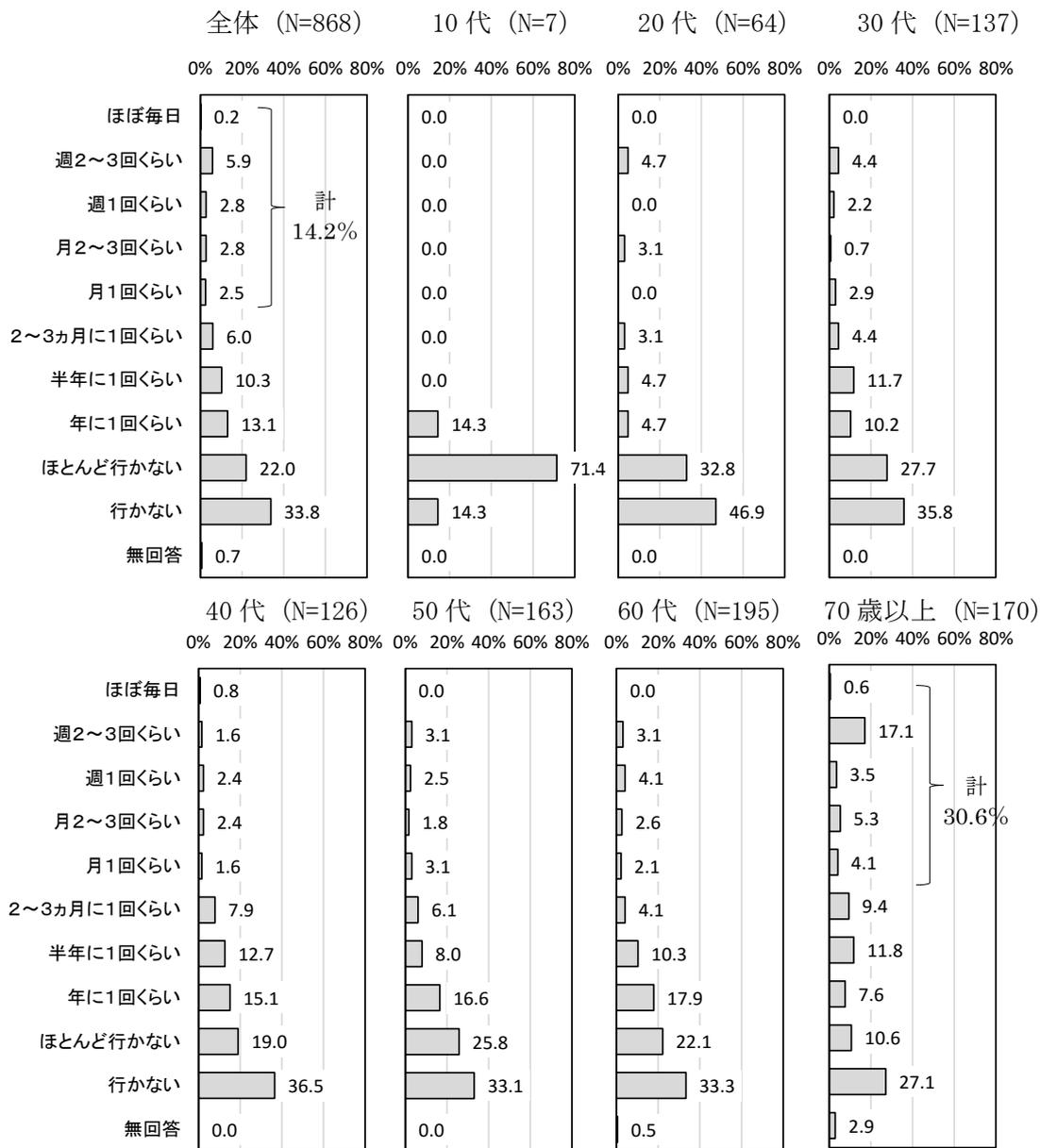


図2-1-1 中央公民館の利用頻度 (全体・年代別)

2) 利用目的

3-2 中央公民館を利用する目的は何ですか（〇はいくつでも）

『年に1回以上』中央公民館を利用すると回答した人に、中央公民館を利用する目的について尋ねたところ、「文化祭や催事などのイベント参加」が43.8%と最も多く、以下、「写真や絵画などの展示会」26.7%、「福祉牛乳の受け取り」21.1%、「コンサートなどの鑑賞」19.5%などとなっている。

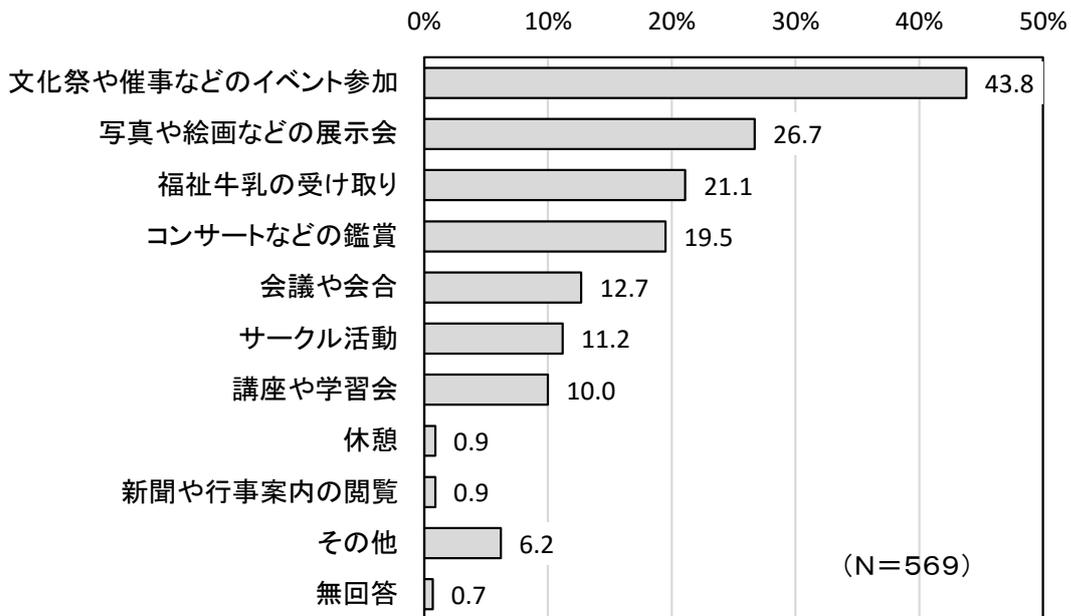


図2-12 利用目的

これを性別にみると、男女ともに「文化祭や催事などのイベント参加」の割合が最も多く、女性は男性より約9ポイント多くなっている。

年代別にみると、30代以上では「文化祭や催事などのイベント参加」の割合が最も多く、3割を超えている。対して20代では「コンサートなどの鑑賞」が20.6%と最も多くなっている。

70歳以上では「福祉牛乳の受け取り」が48.7%と他の年代よりも多くなっている。

居住歴別にみると、いずれも「文化祭や催事などのイベント参加」の割合が最も多く、特に道外の市町村から転入してきた人では6割近くを占めている。

		調査数	コンサートなどの鑑賞	写真や絵画などの展示	サークル活動	休憩	福祉牛乳の受け取り	新聞や行事案内の閲覧	会議や会合	講座や学習会	文化祭や催事などのイベント参加	その他	無回答
		(上段：実数)	(下段：割合)										
全体		569	111	152	64	5	120	5	72	57	249	35	4
		100.0	19.5	26.7	11.2	0.9	21.1	0.9	12.7	10.0	43.8	6.2	0.7
性別	男性	255	39	63	19	3	60	2	50	21	98	16	1
		100.0	15.3	24.7	7.5	1.2	23.5	0.8	19.6	8.2	38.4	6.3	0.4
	女性	306	71	88	44	2	56	3	22	35	146	19	3
		100.0	23.2	28.8	14.4	0.7	18.3	5.1	7.2	11.4	47.7	6.2	1.0
年代別	10代	6	4	2	0	0	0	0	0	0	3	0	0
		100.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	20代	34	7	5	3	1	6	1	4	6	6	4	0
		100.0	20.6	14.7	8.8	2.9	17.6	2.9	11.8	17.6	17.6	11.8	0.0
	30代	88	14	16	7	0	14	0	7	10	33	12	0
		100.0	15.9	18.2	8.0	0.0	15.9	0.0	8.0	11.4	37.5	13.6	0.0
	40代	80	15	22	5	2	9	1	14	7	40	4	1
		100.0	18.8	27.5	6.3	2.5	11.3	1.3	17.5	8.8	50.0	5.0	1.3
50代	109	29	35	10	0	9	0	12	7	53	8	0	
	100.0	26.6	32.1	9.2	0.0	8.3	0.0	11.0	6.4	48.6	7.3	0.0	
60代	129	27	42	10	1	23	2	21	12	48	4	2	
	100.0	20.9	32.6	7.8	0.8	17.8	1.6	16.3	9.3	37.2	3.1	1.6	
70歳以上	119	15	30	27	1	58	1	14	15	64	3	1	
	100.0	12.6	25.2	22.7	0.8	48.7	0.8	11.8	12.6	53.8	2.5	0.8	
居住歴	生まれてから、別海町にずっと住んでいる	154	34	44	19	1	42	1	25	14	64	8	2
		100.0	22.1	28.6	12.3	0.6	27.3	0.6	16.2	9.1	41.6	5.2	1.3
	別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある	151	33	44	11	2	26	0	21	14	68	6	0
		100.0	21.9	29.1	7.3	1.3	17.2	0.0	13.9	9.3	45.0	4.0	0.0
	道内の他の市町村から転入してきた	184	37	43	21	0	40	3	15	18	70	17	1
	100.0	20.1	23.4	11.4	0.0	21.7	1.6	8.2	9.8	38.0	9.2	0.5	
道外の市町村から転入してきた	74	7	19	12	2	8	1	10	11	44	3	1	
	100.0	9.5	25.7	16.2	2.7	10.8	1.4	13.5	14.9	59.5	4.1	1.4	

表2-1 利用目的（性別・年代別・居住歴別）

3) 利用する際の交通手段

3-3 中央公民館を利用する際の交通手段は何ですか。(○は1つだけ)

『年に1回以上』中央公民館を利用すると回答した人に、中央公民館を利用する際の交通手段について尋ねたところ、「自家用車」が84.2%と8割以上を占め、以下、「徒歩」8.8%、「自転車」3.0%、「バス」1.6%などとなっている。

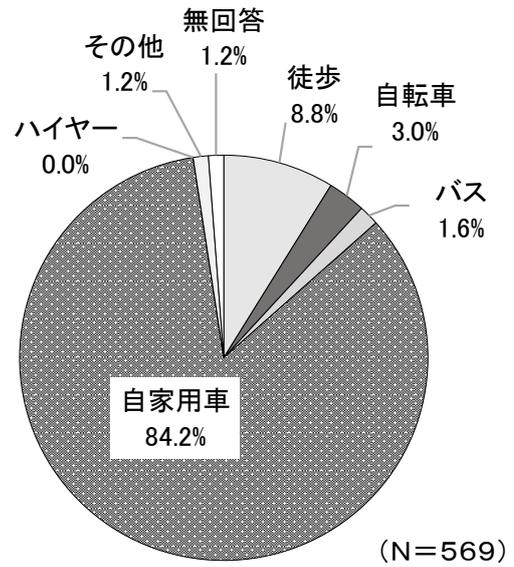


図2-13 利用交通手段

年代別にみると、いずれの年代も「自家用車」が最も多く、7割以上となっている。また、70歳以上では「バス」と回答した人が6.7%と、他の年代よりやや多くなっている。

		調査数	徒歩	自転車	バス	自家用車	ハイヤー	その他	無回答
		(上段：実数)							
		(下段：割合)							
全体		569	50	17	9	479	0	7	7
		100.0	8.8	3.0	1.6	84.2	0.0	1.2	1.2
年齢別	10代	6	1	2	0	3	0	0	0
		100.0	16.7	33.3	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	20代	34	5	2	1	26	0	0	0
		100.0	14.7	5.9	2.9	76.5	0.0	0.0	0.0
	30代	88	3	2	0	82	0	1	0
		100.0	3.4	2.3	0.0	93.2	0.0	1.1	0.0
	40代	80	7	2	0	68	0	1	2
	100.0	8.8	2.5	0.0	85.0	0.0	1.3	2.5	
50代	109	5	1	0	102	0	1	0	
	100.0	4.6	0.9	0.0	93.6	0.0	0.9	0.0	
60代	129	14	4	0	106	0	1	4	
	100.0	10.9	3.1	0.0	82.2	0.0	0.8	3.1	
70歳以上	119	14	4	8	90	0	2	1	
	100.0	11.8	3.4	6.7	75.6	0.0	1.7	0.8	

表2-2 利用交通手段 (年代別)

4) 今後の公民館において充実して欲しい取り組み

3-4 公民館において充実して欲しい取り組みは何ですか。(〇は3つまで)
【学級・講座について】

公民館において充実して欲しい取り組みについて尋ねたところ、「趣味や教養に関する講座」が48.8%と最も多く、以下、「健康・スポーツに関する講座」31.9%、「子どもの習い事や学習などの学校教育を補完する教室」29.7%、「食育や料理に関する講座」19.1%、「子育てや家庭教育に関する講座」18.9%、「地域の防災に関する講座」17.6%などとなっている。

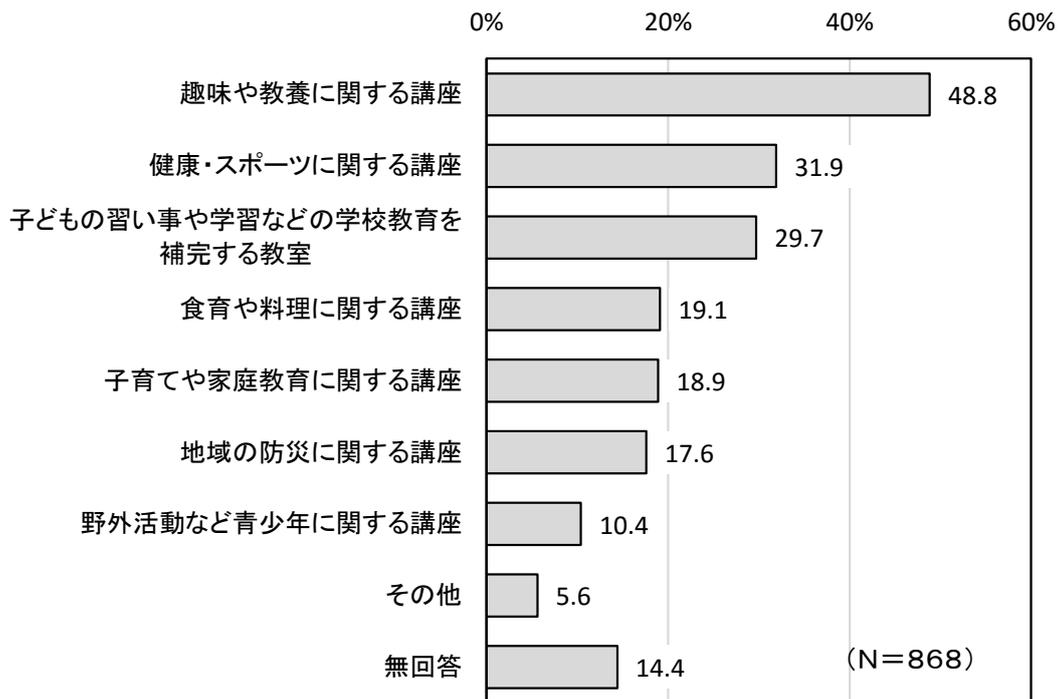


図 2-14 公民館において充実して欲しい取り組み

これを性別にみると、男女ともに「趣味や教養に関する講座」の割合が最も多く、女性は男性より約10ポイント多くなっている。

年代別にみると20代・40代以上では「趣味や教養に関する講座」の割合が最も多く、特に50代では6割を超えている。30代では「子どもの習い事や学習などの学校教育を補完する教室」が48.9%と最も多い。

別海町居住年数別にみると、3年未満及び5年以上では「趣味や教養に関する講座」の割合が最も多く、5年未満では「食育や料理に関する講座」及び「子どもの習い事や学習などの学校教育を補完する教室」が最も多くなっており、子育てに関する講座への回答が多くなっている。また、20年以上では「地域の防災に関する講座」が他の居住年数より多くなっている。

		調査数	趣味や教養に関する講座	健康・スポーツに関する講座	子育てや家庭教育に関する講座	食育や料理に関する講座	地域の防災に関する講座	野外活動に関する講座	子どもを習い事の教室や習い事教室で補完する講座	その他	無回答
		(上段：実数) (下段：割合)									
全体		868 100.0	424 48.8	277 31.9	164 18.9	166 19.1	153 17.6	90 10.4	258 29.7	49 5.6	125 14.4
性別	男性	404 100.0	177 43.8	129 31.9	87 21.5	53 13.1	83 20.5	51 12.6	117 29.0	27 6.7	59 14.6
	女性	454 100.0	242 53.3	144 31.7	75 16.5	110 24.2	67 14.8	38 5.1	140 30.8	22 4.8	65 14.3
年代別	10代	7 100.0	6 85.7	2 28.6	2 28.6	0 0.0	0 0.0	1 14.3	2 28.6	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	27 42.2	20 31.3	22 34.4	17 26.6	10 15.6	5 7.8	19 29.7	6 9.4	3 4.7
	30代	137 100.0	59 43.1	43 31.4	43 31.4	27 19.7	20 14.6	26 19.0	67 48.9	5 3.6	8 5.8
	40代	126 100.0	57 45.2	33 26.2	22 17.5	24 19.0	17 13.5	15 11.9	51 40.5	9 7.1	13 10.3
	50代	163 100.0	98 60.1	64 39.3	27 16.6	36 22.1	31 19.0	10 6.1	46 28.2	8 4.9	17 10.4
	60代	195 100.0	103 52.8	65 33.3	25 12.8	40 20.5	38 19.5	11 5.6	41 21.0	11 5.6	35 17.9
	70歳以上	170 100.0	73 42.9	49 28.8	23 13.5	20 11.8	37 21.8	22 12.9	32 18.8	10 5.9	45 26.5
別海町居住年数	1年未満	12 100.0	5 41.7	6 50.0	3 25.0	4 33.3	2 16.7	2 16.7	5 41.7	0 0.0	0 0.0
	3年未満	34 100.0	18 52.9	9 26.5	8 23.5	5 14.7	3 8.8	2 5.9	14 41.2	3 8.8	4 11.8
	5年未満	38 100.0	14 36.8	12 31.6	13 34.2	16 42.1	3 7.9	5 13.2	16 42.1	2 5.3	1 2.6
	10年未満	53 100.0	23 43.4	17 32.1	14 26.4	11 20.8	8 15.1	6 11.3	20 37.7	4 7.5	4 7.5
	20年未満	94 100.0	51 54.3	29 30.9	22 23.4	18 19.1	9 9.6	12 12.8	33 35.1	5 5.3	12 12.8
	20年以上	634 100.0	311 49.1	202 31.9	104 16.4	112 17.7	127 20.0	62 9.8	169 26.7	35 5.5	104 16.4

表2-3 公民館において充実して欲しい取り組み（性別・年代別・別海町居住年数別）

5) 公民館において充実して欲しい支援

3-5 公民館において充実して欲しい支援は何ですか。(〇は3つまで)
【団体への活動支援について】

公民館において充実して欲しい支援について尋ねたところ、「サークルなどの団体活動に関する指導・助言」が39.1%と最も多く、以下、「ボランティア活動団体に関する指導・助言」27.8%、「各種団体への財政的支援」19.8%、「関連団体や講師などの照会」17.7%、「団体リーダーの育成」16.4%、「NPOなどの市民活動団体に関する指導・助言」13.5%となっている。

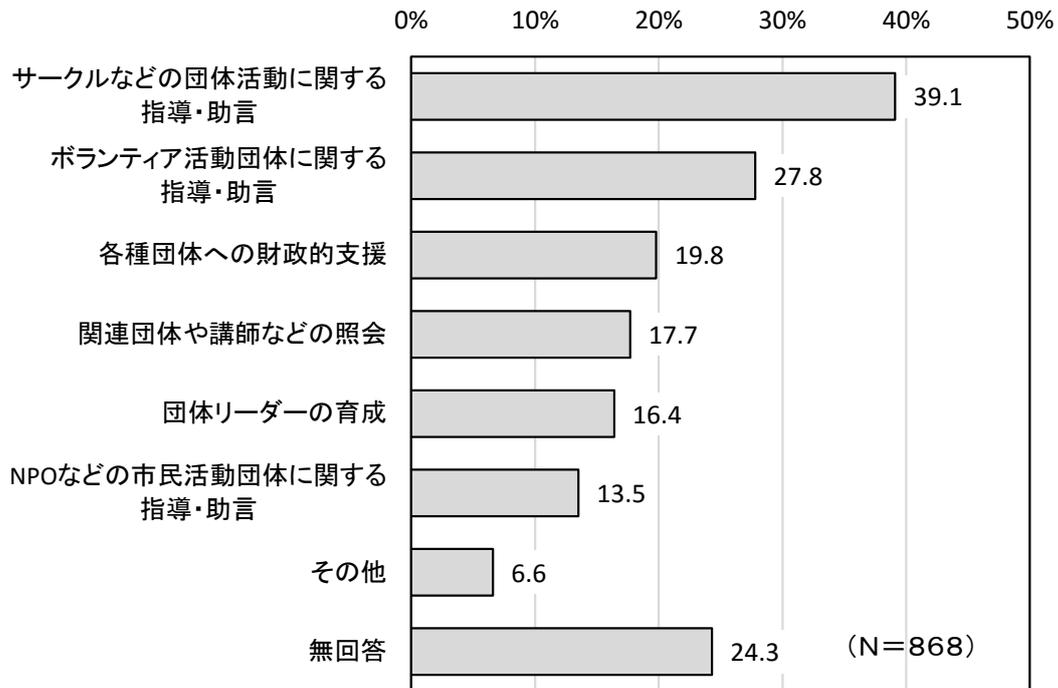


図 2-15 公民館において充実して欲しい支援

これを性別にみると、男女間で差はみられない。

年代別にみると、いずれの年代も「サークルなどの団体活動に関する指導・助言」の割合が最も多くなっている。

別海町居住年数別にみると、10年未満では「ボランティア活動団体に関する指導・助言」の割合が最も多く、10年未満以外の居住年数では「サークルなどの団体活動に関する指導・助言」が最も多くなっている。

		調査数	サークルなどの指導・団体活動	NPOなどの市民活動	ボランティアに関する指導・活動団体	各種団体への財政的支援	関連団体や講師などの照会	団体リーダーの育成	その他	無回答
		(上段：実数) (下段：割合)								
全体		868 100.0	339 39.1	117 13.5	241 27.8	172 19.8	154 17.7	142 16.4	57 6.6	211 24.3
性別	男性	404 100.0	149 36.9	57 14.1	112 27.7	90 22.3	75 18.6	80 19.8	32 7.9	83 20.5
	女性	454 100.0	184 40.5	57 12.6	123 27.1	79 17.4	78 17.2	61 5.1	25 5.5	127 28.0
年代別	10代	7 100.0	7 100.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	22 34.4	8 12.5	17 26.6	11 17.2	6 9.4	8 12.5	9 14.1	11 17.2
	30代	137 100.0	55 40.1	20 14.6	33 24.1	33 24.1	32 23.4	21 15.3	7 5.1	29 21.2
	40代	126 100.0	47 37.3	23 18.3	32 25.4	20 15.9	27 21.4	18 14.3	8 6.3	27 21.4
	50代	163 100.0	76 46.6	29 17.8	52 31.9	25 15.3	37 22.7	30 18.4	11 6.7	30 18.4
	60代	195 100.0	69 35.4	20 10.3	54 27.7	41 21.0	25 12.8	37 19.0	15 7.7	54 27.7
	70歳以上	170 100.0	60 35.3	17 10.0	50 29.4	41 24.1	26 15.3	27 15.9	7 4.1	57 33.5
別海町居住年数	1年未満	12 100.0	5 41.7	5 41.7	5 41.7	3 25.0	2 16.7	2 16.7	1 8.3	0 0.0
	3年未満	34 100.0	17 50.0	3 8.8	4 11.8	2 5.9	6 17.6	6 17.6	3 8.8	9 26.5
	5年未満	38 100.0	17 44.7	4 10.5	9 23.7	6 15.8	6 15.8	5 13.2	4 10.5	8 21.1
	10年未満	53 100.0	15 28.3	13 24.5	18 34.0	5 9.4	8 15.1	3 5.7	2 3.8	15 28.3
	20年未満	94 100.0	41 43.6	9 9.6	27 28.7	15 16.0	25 26.6	14 14.9	8 8.5	17 18.1
	20年以上	634 100.0	242 38.2	83 13.1	178 28.1	140 22.1	105 16.6	112 17.7	39 6.2	162 25.6

表2-4 公民館において充実して欲しい支援（性別・年代別・別海町居住年数別）

(4) 今後の別海町・別海地区の目指すべき姿について

1) 別海地区市街地へ行く頻度

4-1 別海地区市街地には、週または月に何回くらい行きますか。(○は1つだけ)

別海地区市街地をどのくらいの頻度で行くかについて尋ねたところ、全体では「住んでいる・ほぼ毎日」が34.8%と最も多くなっている。

一方「ほぼ行かない・行かない」は1割未満となっている。

これを年代別にみると、どの年代も「住んでいる・ほぼ毎日」が最も多いが、70歳以上は他の年代に比べて低くなっている。

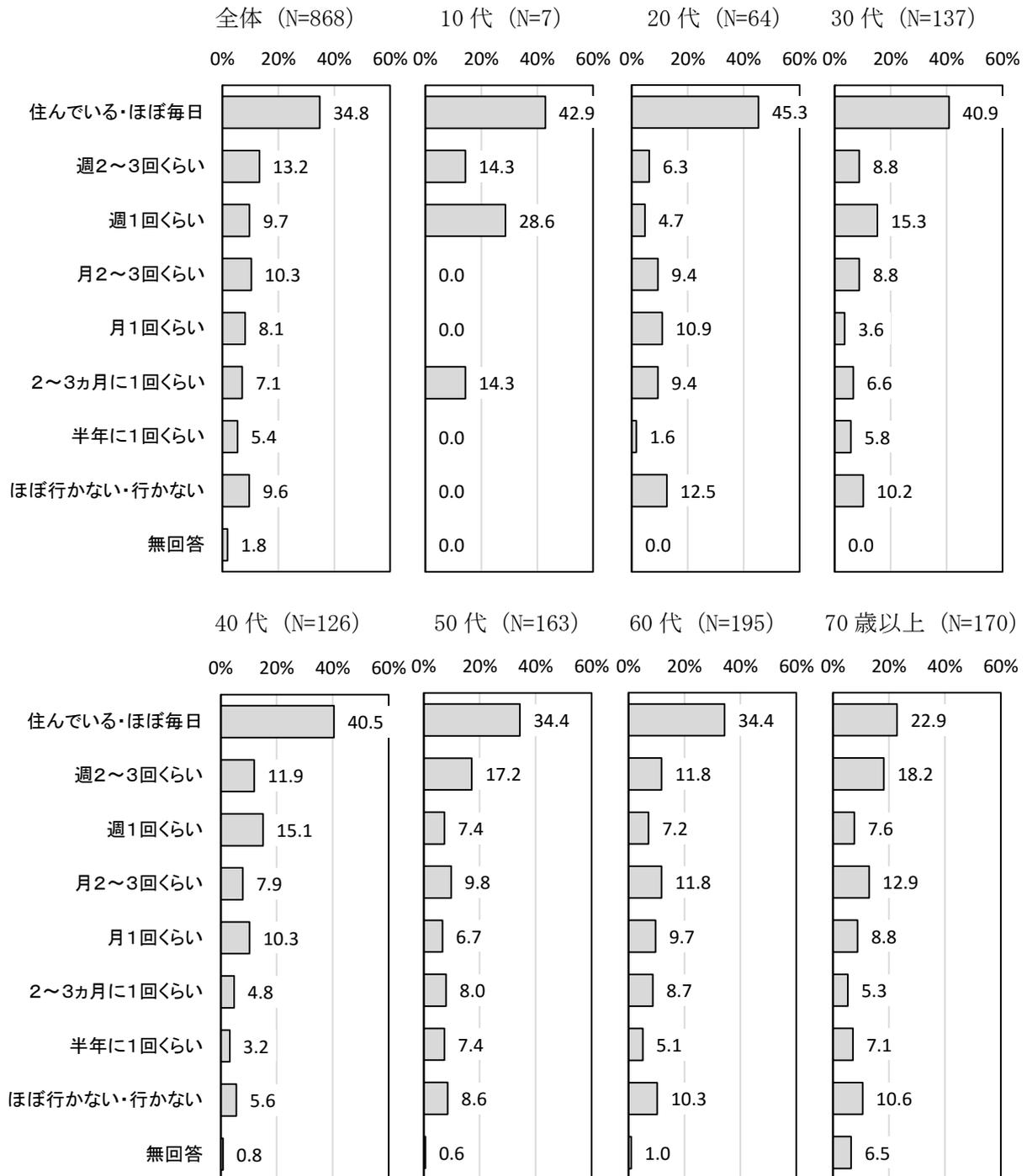


図2-16 別海地区市街地へ行く頻度 (全体・年代別)

居住歴別にみると、「住んでいる・ほぼ毎日」がいずれの居住歴でも最も多い。

一方、道外の他の市町村からの転入してきた人では「ほぼ行かない・行かない」と回答した人の割合が14.2%と他の居住歴よりもやや多くなっている。

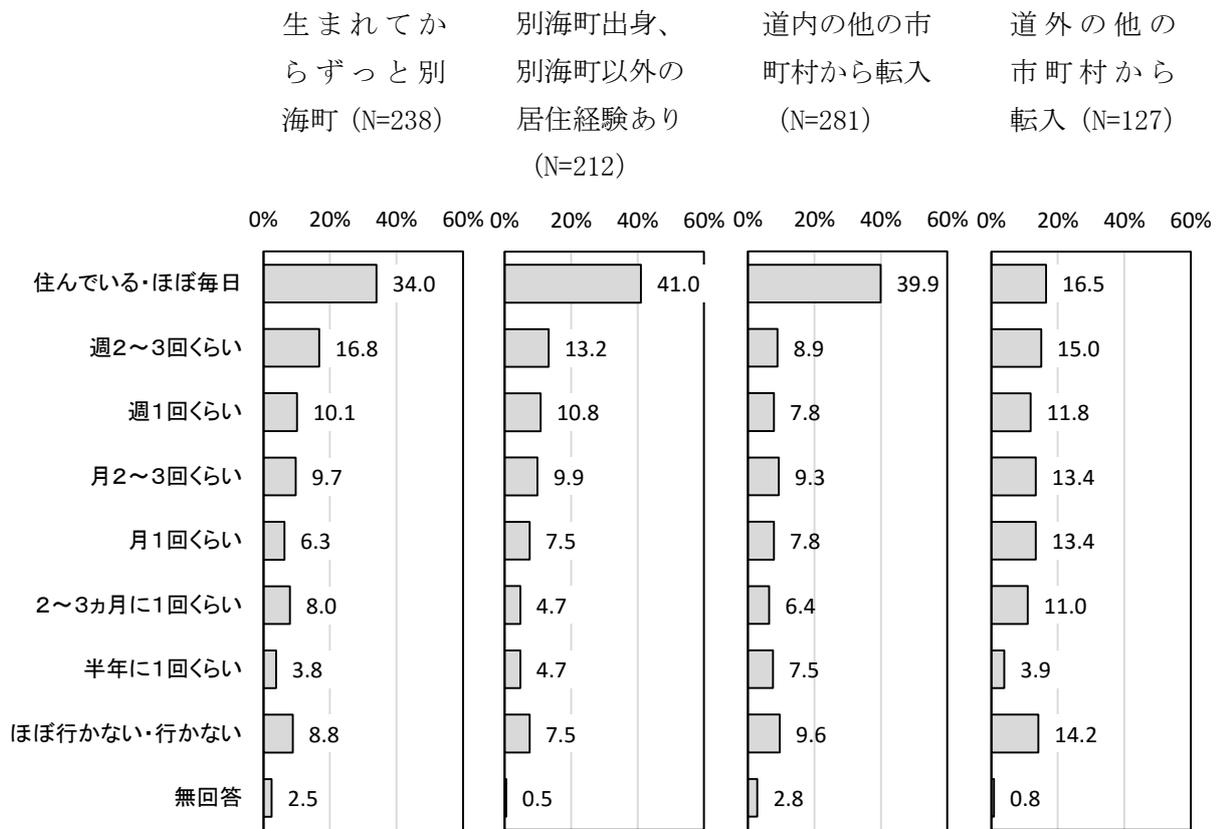


図2-17 別海地区市街地へ行く頻度（居住歴）

2) 別海地区市街地に行く主な目的

4-2 別海地区市街地に行く主な目的を教えてください。(〇は3つまで)

別海地区市街地に行く主な目的を尋ねたところ、「買い物」が68.2%と約7割を占め、以下、「病院や薬局」37.9%、「仕事」20.8%、「郵便局や信金の利用」20.2%などとなっている。

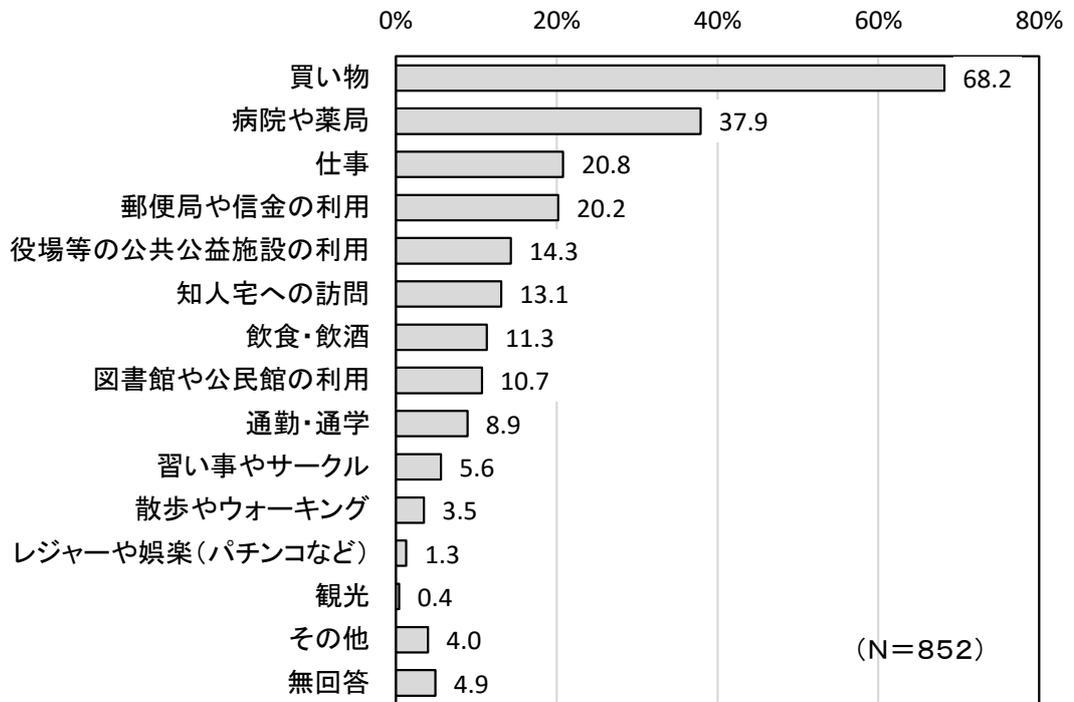


図2-18 別海地区市街地に行く主な目的

性別でみると、男女とも「買い物」が最も多くなっている。また、男性は女性より「仕事」「役場等の公共公益施設の利用」「飲食・飲酒」の割合が多く、逆に女性は男性より「買い物」「病院や薬局」「郵便局や信金の利用」「図書館や公民館の利用」の割合が多くなっている。

年代別でみると、いずれの年代も「買い物」が最も多く、6割以上となっている。70歳以上では「病院や薬局」が他の年代より大きく上回っている。

居住歴別にみると、「買い物」がいずれの居住歴でも6割以上と最も多くなっている。

一方、道外の他の市町村からの転入してきた人では「病院や薬局」「役場等の公共公益施設の利用」「図書館や公民館の利用」と回答した人の割合が他の居住歴の人よりもやや多くなっている。

		調査数	買い物	飲食・飲酒	レジャーや娯楽（パチンコなど）	通勤・通学	仕事	病院や薬局	図書館や公民館の利用	習い事やサークル	観光	散歩やウォーキング	郵便局や信金の利用	知人宅への訪問	役場等の公共公益施設の利用	その他	無回答	
		(上段：実数)																(下段：割合)
全体		852	581	96	11	76	177	323	91	48	3	30	172	112	122	34	42	
		100.0	68.2	11.3	1.3	8.9	20.8	37.9	10.7	5.6	0.4	3.5	20.2	13.1	14.3	4.0	4.9	
性別	男性	396	257	62	9	39	101	140	31	11	1	16	68	43	71	13	19	
		100.0	64.9	15.7	2.3	9.8	25.5	35.4	7.8	2.8	0.3	4.0	17.2	10.9	17.9	3.3	4.8	
性別	女性	446	318	34	2	37	76	174	60	36	2	14	101	67	48	20	23	
		100.0	71.3	7.6	0.4	8.3	17.0	5.1	13.5	8.1	0.4	3.1	22.6	15.0	10.8	4.5	5.2	
年代別	10代	7	5	3	0	0	1	1	1	0	0	0	1	2	0	0	0	
		100.0	71.4	42.9	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	
	20代	64	43	14	2	3	17	22	6	2	2	3	11	6	6	4	1	
		100.0	67.2	21.9	3.1	4.7	26.6	34.4	9.4	3.1	3.1	4.7	17.2	9.4	9.4	6.3	1.6	
	30代	137	97	32	3	24	40	45	14	8	0	3	20	17	14	4	4	
		100.0	70.8	23.4	2.2	17.5	29.2	32.8	10.2	5.8	0.0	2.2	14.6	12.4	10.2	2.9	2.9	
	40代	125	87	14	0	17	42	40	16	8	0	2	26	4	15	6	6	
		100.0	69.6	11.2	0.0	13.6	33.6	32.0	12.8	6.4	0.0	1.6	20.8	3.2	12.0	4.8	4.8	
50代	162	108	17	2	18	38	48	16	7	1	3	32	22	32	6	9		
	100.0	66.7	10.5	1.2	11.1	23.5	29.6	9.9	4.3	0.6	1.9	19.8	13.6	19.8	3.7	5.6		
60代	193	135	13	1	10	32	69	14	13	0	9	45	34	30	9	8		
	100.0	69.9	6.7	0.5	5.2	16.6	35.8	7.3	6.7	0.0	4.7	23.3	17.6	15.5	4.7	4.1		
70歳以上	159	103	3	3	4	7	95	24	10	0	10	37	27	25	4	13		
	100.0	64.8	1.9	1.9	2.5	4.4	59.7	15.1	6.3	0.0	6.3	23.3	17.0	15.7	2.5	8.2		
居住歴	生まれてから、別海町にずっと住んでいる	232	159	20	1	21	43	97	19	9	2	13	43	36	32	7	10	
		100.0	68.5	8.6	0.4	9.1	18.5	41.8	8.2	3.9	0.9	5.6	18.5	15.5	13.8	3.0	4	
	別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある	211	153	28	4	26	61	66	13	11	0	6	53	33	33	5	7	
		100.0	72.5	13.3	1.9	12.3	28.9	31.3	6.2	5.2	0.0	2.8	25.1	15.6	15.6	2.4	3.3	
	道内の他の市町村から転入してきた	273	179	37	5	23	59	95	32	17	0	10	58	28	33	10	17	
	100.0	65.6	13.6	1.8	8.4	21.6	34.8	11.7	6.2	0.0	3.7	21.2	10.3	12.1	3.7	6		
道外の市町村から転入してきた	126	85	10	1	6	13	61	27	11	1	0	17	13	24	12	6		
	100.0	67.5	7.9	0.8	4.8	10.3	48.4	21.4	8.7	0.8	0.0	13.5	10.3	19.0	9.5	4.8		

表 2-5 別海地区市街地に行く主な目的（性別・年代別・居住歴別）

3) 今後、別海地区市街地の機能として必要だと思うもの

4-3 今後、別海地区市街地の機能として必要だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

今後、別海地区市街地の機能として必要だと思うものを尋ねたところ、「地元産品を使ったレストラン・カフェ」が44.8%と僅差で最も多く、次いで、「地元農水産品を買える場所」44.5%、「子どもの遊び場(屋内・屋外)」35.4%、「トレーニングジムや軽スポーツのスペース」27.9%、「芝生広場やベンチ・イスが設置された憩い空間」22.7%などとなっている。

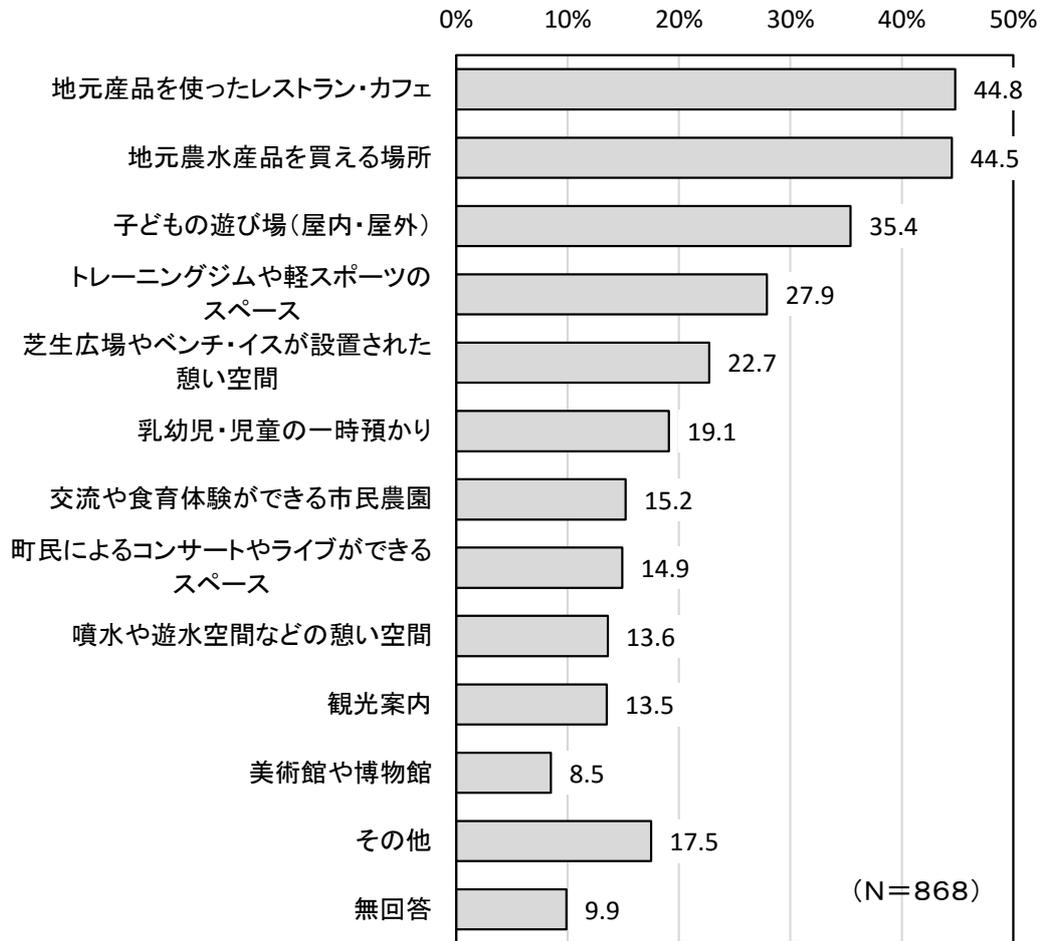


図2-19 今後、別海地区市街地の機能として必要だと思うもの

性別でみると、男性では「地元農水産品を買える場所」が45.8%と最も多く。女性では「地元産品を使ったレストラン・カフェ」が最も多くなっている。また、男性は女性より「トレーニングジムや軽スポーツのスペース」「芝生広場やベンチ・イスが設置された憩い空間」の割合が多く、女性は男性より「子どもの遊び場（屋内・屋外）」「乳幼児・児童の一時預かり」の割合が多くなっている。

年代別でみると、20代・30代で「子どもの遊び場（屋内・屋外）」、40代・50代では「地元産品を使ったレストラン・カフェ」、60代以上では「地元農水産品を買える場所」が最も多くなっている。

		調査数	憩い空間	噴水や遊水空間などの	芝生広場やベンチ・イスが設置された憩い空間	内・屋外）	子どもの遊び場（屋	ベラスによるコンサート	町民によるできるサート	地元産品を使ったレストラン・カフェ	乳幼児・児童の一時預	場所農水産品を買える	交流や食育体験ができる市民農園	美術館や博物館	スポーツのスペースや軽	観光案内	その他	無回答
		(上段：実数) (下段：割合)																
全体		868 100.0	118 13.6	197 22.7	307 35.4	129 14.9	389 44.8	166 19.1	386 44.5	132 15.2	74 8.5	242 27.9	117 13.5	152 17.5	86 9.9			
性別	男性	404 100.0	56 13.9	99 24.5	136 33.7	72 17.8	172 42.6	68 16.8	185 45.8	55 13.6	32 7.9	127 31.4	46 11.4	63 15.6	41 10.1			
	女性	454 100.0	59 13.0	94 20.7	169 37.2	56 12.3	212 46.7	97 5.1	197 43.4	75 16.5	41 9.0	112 24.7	69 15.2	87 19.2	44 9.7			
年代別	10代	7 100.0	1 14.3	1 14.3	4 57.1	2 28.6	4 57.1	1 14.3	2 28.6	1 14.3	2 28.6	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0			
	20代	64 100.0	14 21.9	13 20.3	31 48.4	9 14.1	21 32.8	17 26.6	11 17.2	11 17.2	4 6.3	29 45.3	7 10.9	7 10.9	2 3.1			
	30代	137 100.0	30 21.9	31 22.6	87 63.5	11 8.0	74 54.0	44 32.1	56 40.9	22 16.1	11 8.0	49 35.8	26 19.0	31 22.6	5 3.6			
	40代	126 100.0	12 9.5	20 15.9	57 45.2	23 18.3	65 51.6	33 26.2	46 36.5	14 11.1	13 10.3	38 30.2	17 13.5	27 21.4	8 6.3			
	50代	163 100.0	24 14.7	39 23.9	41 25.2	30 18.4	88 54.0	25 15.3	82 50.3	14 8.6	11 6.7	53 32.5	20 12.3	30 18.4	13 8.0			
	60代	195 100.0	18 9.2	47 24.1	54 27.7	30 15.4	78 40.0	27 13.8	95 48.7	45 23.1	14 7.2	46 23.6	30 15.4	31 15.9	21 10.8			
	70歳以上	170 100.0	19 11.2	44 25.9	32 18.8	24 14.1	58 34.1	18 10.6	92 54.1	25 14.7	19 11.2	26 15.3	17 10.0	26 15.3	35 20.6			

表2-6 今後、別海地区市街地の機能として必要だと思うもの（性別・年代別）

4) 一次産業のまちとして、今後の必要な取り組み

4-4 一次産業のまちとして、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

一次産業のまちとして、今後の必要な取り組みを尋ねたところ、「特産品の開発」が41.2%と最も多く、以下、「環境の保護」34.9%、「地場産品を使った給食」34.0%、「町内家庭での地場産品の消費」31.6%、「一次産業の職業体験」27.6%などとなっている。

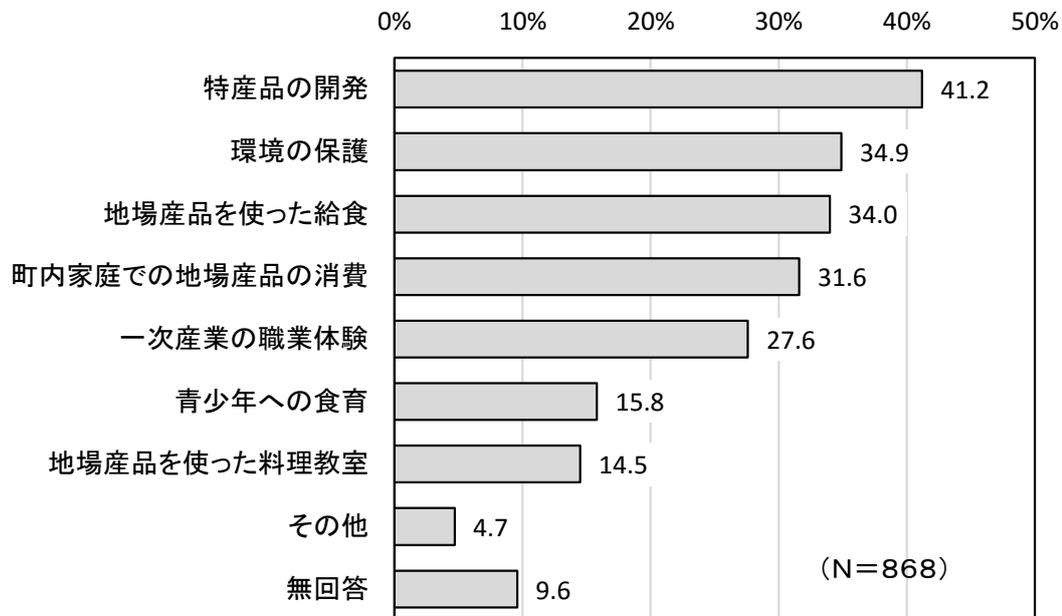


図2-20 一次産業のまちとして、今後の必要な取り組み

性別で見ると、男性では「特産品の開発」が45.5%、女性では「地元産品を使った給食」が37.9%と最も多くなっている。

年代別で見ると、40代を除く年代で「特産品の開発」、40代では「地場産品を使った給食」が最も多くなっている。

居住歴別にみると、生まれてから、別海町にずっと住んでいる人では「地場産品を使った給食」及び「特産品の開発」がともに38.2%と最も多い。別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある人・道内の他の市町村から転入してきた人では「特産品の開発」、道外の市町村から転入してきた人では「環境の保護」が35.4%と最も多くなっている。

		調査数	地場産品を使った給食	環境の保護	青少年への食育	教室・地場産品を使った料理	一次産業の職業体験	特産品の開発	町内家庭での地場産品の消費	その他	無回答
		(上段：実数) (下段：割合)									
全体		868 100.0	295 34.0	303 34.9	137 15.8	126 14.5	240 27.6	358 41.2	274 31.6	41 4.7	83 9.6
性別	男性	404 100.0	121 30.0	143 35.4	58 14.4	46 11.4	108 26.7	184 45.5	125 30.9	25 6.2	34 8.4
	女性	454 100.0	172 37.9	158 34.8	78 17.2	76 16.7	130 28.6	169 37.2	144 31.7	15 3.3	48 10.6
年代別	10代	7 100.0	3 42.9	1 14.3	1 14.3	1 14.3	3 42.9	4 57.1	1 14.3	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	18 28.1	25 39.1	9 14.1	4 6.3	26 40.6	32 50.0	17 26.6	3 4.7	2 3.1
	30代	137 100.0	48 35.0	45 32.8	33 24.1	18 13.1	52 38.0	52 38.0	45 32.8	11 8.0	8 5.8
	40代	126 100.0	48 38.1	44 34.9	19 15.1	12 9.5	44 34.9	40 31.7	33 26.2	8 6.3	9 7.1
	50代	163 100.0	58 35.6	59 36.2	24 14.7	26 16.0	37 22.7	74 45.4	54 33.1	5 3.1	12 7.4
	60代	195 100.0	61 31.3	72 36.9	36 18.5	38 19.5	43 22.1	84 43.1	65 33.3	7 3.6	17 8.7
	70歳以上	170 100.0	55 32.4	55 32.4	15 8.8	26 15.3	34 20.0	69 40.6	58 34.1	7 4.1	34 20.0
居住歴	生まれてから、 別海町にずっと住んでいる	238 100.0	91 38.2	71 29.8	39 16.4	35 14.7	61 25.6	91 38.2	84 35.3	7 2.9	28 11.8
	別海町出身だが、 別海町以外での居住経験がある	212 100.0	71 33.5	78 36.8	34 16.0	32 15.1	68 32.1	97 45.8	67 31.6	12 5.7	15 7.1
	道内の他の市町村から 転入してきた	281 100.0	93 33.1	106 37.7	43 15.3	40 14.2	73 26.0	123 43.8	81 28.8	15 5.3	25 8.9
	道外の市町村から転入してきた	127 100.0	38 29.9	45 35.4	21 16.5	18 14.2	37 29.1	42 33.1	39 30.7	6 4.7	14 11.0

表2-7 一次産業のまちとして、今後の必要な取り組み（性別・年代別・居住歴）

(5) 災害に備える 減災のまちの実現について

1) 災害発生時、最も不安に思うこと

5-1 災害が発生した場合に、もっとも不安に思っていることは何ですか。(〇は3つまで)

災害発生時、最も不安に思うことについて尋ねたところ、「電気、水道の確保」が77.6%と最も多く7割以上を占めている。以下、「交通網の確保」44.5%、「医療体制の確保」44.4%、「災害に関する情報の確保」37.0%、「自宅の食料確保」35.7%、「電話などの通信手段の確保」19.2%となっている。

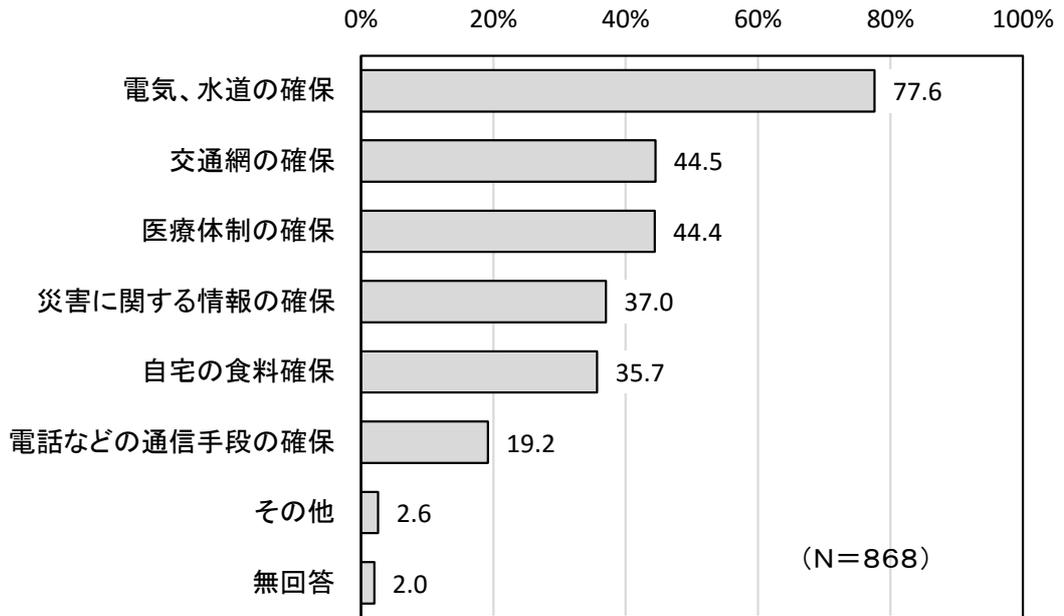


図2-21 災害発生時、最も不安に思うこと

性別で見ると、男女間の差はみられない。

年代別で見ると、いずれの年代も「電気、水道の確保」が最も多くなっている。

また、30代では「自宅の食料確保」が、70歳以上では「電話などの通信手段の確保」が他の年代に比べて多い。

		調査数	自宅の食料確保	の災害に関する情報	交通網の確保	電気、水道の確保	医療体制の確保	段電話などの通信手段	その他	無回答
		(上段：実数)								
		(下段：割合)								
全体		868	310	321	386	674	385	167	23	17
		100.0	35.7	37.0	44.5	77.6	44.4	19.2	2.6	2.0
性別	男性	404	134	135	189	308	191	73	11	7
		100.0	33.2	33.4	46.8	76.2	47.3	18.1	2.7	1.7
	女性	454	172	184	192	357	190	92	12	10
		100.0	37.9	40.5	42.3	78.6	41.9	5.1	2.6	2.2
年代別	10代	7	4	1	3	4	3	1	0	0
		100.0	57.1	14.3	42.9	57.1	42.9	14.3	0.0	0.0
	20代	64	29	24	32	40	20	13	7	0
		100.0	45.3	37.5	50.0	62.5	31.3	20.3	10.9	0.0
	30代	137	70	48	62	106	65	19	3	0
		100.0	51.1	35.0	45.3	77.4	47.4	13.9	2.2	0.0
	40代	126	48	45	59	92	51	24	6	0
	100.0	38.1	35.7	46.8	73.0	40.5	19.0	4.8	0.0	
	50代	163	57	59	73	139	71	33	1	1
		100.0	35.0	36.2	44.8	85.3	43.6	20.2	0.6	0.6
	60代	195	56	80	86	158	87	30	4	5
		100.0	28.7	41.0	44.1	81.0	44.6	15.4	2.1	2.6
	70歳以上	170	44	61	70	129	84	46	2	11
		100.0	25.9	35.9	41.2	75.9	49.4	27.1	1.2	6.5

表2-8 災害発生時、最も不安に思うこと（性別・年代別）

2) 地域で防災・減災に取り組むために必要なこと

5-2 地域で防災・減災に取り組むために必要なことは何ですか。(〇はいくつでも)

地域で防災・減災に取り組むために必要なことについて尋ねたところ、「近隣住民や町内会による自主的な助け合い」が71.3%と最も多く7割以上を占めている。以下、「自衛隊や消防等の救助機関との連携」58.8%、「行政による財政的な支援」32.9%、「避難訓練や防災講座等の実施」29.4%、「近隣自治体との連携」27.4%、などとなっている。

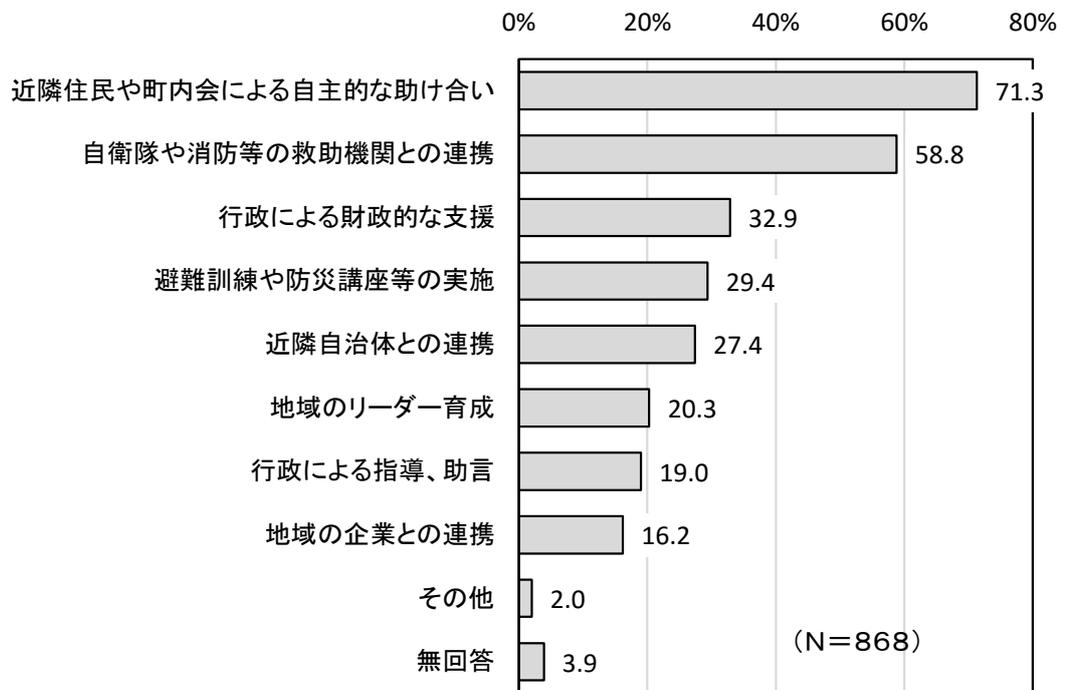


図2-22 地域で防災・減災に取り組むために必要なこと

性別で見ると、男女ともに「近隣住民や町内会による自主的な助け合い」が最も多く、女性は男性より11.6ポイント多くなっている。

年代別で見ると、いずれの年代も「近隣住民や町内会による自主的な助け合い」が最も多く6割を超えている。また、20代では「行政による財政的な支援」が、30代・70歳以上では「近隣自治体との連携」が他の年代に比べて多くなっている。また70歳以上では「地域のリーダーの育成」も他の年代に比べて多い。

		調査数	近隣住民や町内会による自主的な助け合い	地域のリーダー育成	自衛隊や消防等の救助	地域の企業との連携	近隣自治体との連携	避難訓練や防災講座等の実施	行政による指導、助言	行政による財政的な支援	その他	無回答
		(上段：実数) (下段：割合)										
全体		868 100.0	619 71.3	176 20.3	510 58.8	141 16.2	238 27.4	255 29.4	165 19.0	286 32.9	17 2.0	34 3.9
性別	男性	404 100.0	263 65.1	77 19.1	241 59.7	75 18.6	103 25.5	117 29.0	75 18.6	142 35.1	10 2.5	17 4.2
	女性	454 100.0	348 76.7	98 21.6	262 57.7	64 14.1	134 29.5	134 29.5	87 19.2	140 30.8	7 1.5	17 3.7
年代別	10代	7 100.0	4 57.1	1 14.3	4 57.1	2 28.6	1 14.3	3 42.9	1 14.3	3 42.9	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	39 60.9	4 6.3	33 51.6	12 18.8	16 25.0	14 21.9	11 17.2	26 40.6	2 3.1	3 4.7
	30代	137 100.0	98 71.5	25 18.2	85 62.0	22 16.1	45 32.8	41 29.9	18 13.1	41 29.9	1 0.7	1 0.7
	40代	126 100.0	79 62.7	14 11.1	72 57.1	23 18.3	29 23.0	33 26.2	23 18.3	42 33.3	3 2.4	5 4.0
	50代	163 100.0	106 65.0	29 17.8	106 65.0	25 15.3	40 24.5	52 31.9	27 16.6	51 31.3	3 1.8	7 4.3
	60代	195 100.0	154 79.0	47 24.1	106 54.4	30 15.4	52 26.7	67 34.4	43 22.1	68 34.9	4 2.1	4 2.1
	70歳以上	170 100.0	135 79.4	54 31.8	100 58.8	25 14.7	52 30.6	42 24.7	40 23.5	53 31.2	4 2.4	14 8.2

表2-9 地域で防災・減災に取り組むために必要なこと（性別・年代別）

3) 災害に際して、町内に不足している施設・設備

5-3 災害に際して、町内に不足している施設・設備は何だと思いますか。(〇は3つまで)

災害に際して、町内に不足している施設・設備について尋ねたところ、「備蓄物資や支援物資」が39.1%と最も多く。以下、「町内への物資の供給拠点」34.4%、「地域の避難施設」28.6%、「地域の備蓄倉庫」28.3%などとなっている。

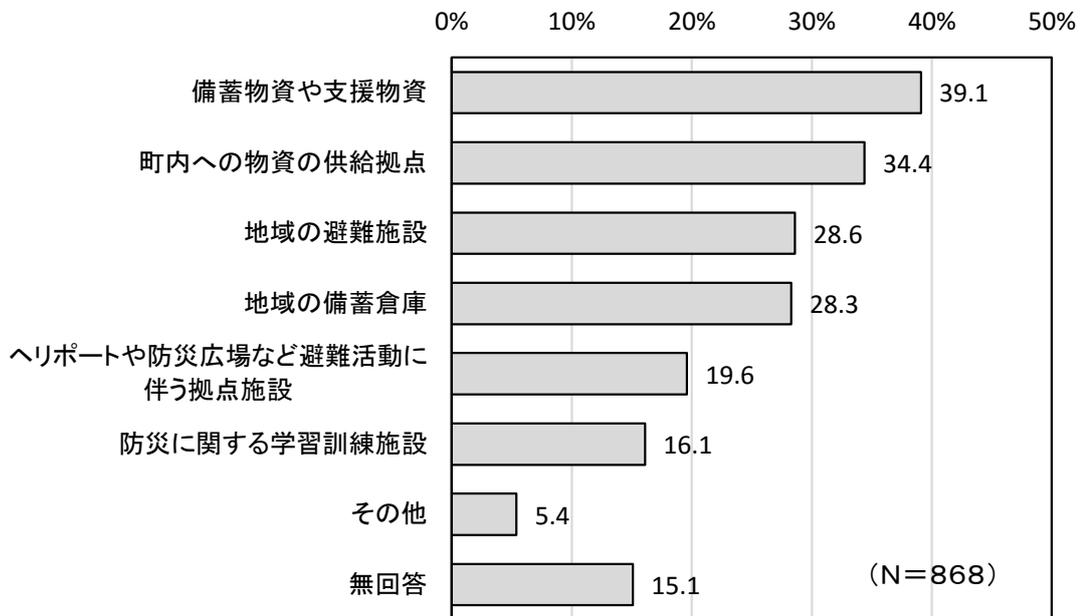


図2-23 災害に際して、町内に不足している施設・設備

性別で見ると、男女ともに「備蓄物資や支援物資」が最も多くなっている。また男性は女性より「ヘリポートや防災広場など避難活動に伴う拠点施設」が10ポイント多くなっている。

年代別で見ると、20代を除く全ての年代で「備蓄物資や支援物資」が最も多くなっている。20代では「地域の避難施設」が最も多い。また、20代では「ヘリポートや防災広場など避難活動に伴う拠点施設」、30代では「町内への物資の供給拠点」、30代及び70歳以上では「地域の備蓄倉庫」が他の年代に比べて多くなっている。

居住歴別にみると、いずれの居住歴も「備蓄物資や支援物資」が最も多くなっている。また、別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある人は「地域の備蓄倉庫」の割合が他の居住歴の人よりやや多くなっている。

		調査数 (上段：実数) (下段：割合)	備蓄物資や支援物資	地域の避難施設	地域の備蓄倉庫	町内への物資の供給拠点	ヘリポートや防災広場など避難活動に伴う拠点施設	防災に関する学習訓練施設	その他	無回答
全体		868 100.0	339 39.1	248 28.6	246 28.3	299 34.4	170 19.6	140 16.1	47 5.4	131 15.1
性別	男性	404 100.0	165 40.8	107 26.5	115 28.5	146 36.1	101 25.0	70 17.3	16 4.0	49 12.1
	女性	454 100.0	169 37.2	140 30.8	130 28.6	148 32.6	68 15.0	67 14.8	31 6.8	80 17.6
年代別	10代	7 100.0	5 71.4	2 28.6	2 28.6	2 28.6	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	19 29.7	20 31.3	13 20.3	18 28.1	17 26.6	5 7.8	9 14.1	6 9.4
	30代	137 100.0	59 43.1	41 29.9	46 33.6	55 40.1	19 13.9	21 15.3	10 7.3	13 9.5
	40代	126 100.0	45 35.7	28 22.2	28 22.2	39 31.0	29 23.0	22 17.5	7 5.6	19 15.1
	50代	163 100.0	65 39.9	46 28.2	42 25.8	54 33.1	26 16.0	19 11.7	9 5.5	28 17.2
	60代	195 100.0	75 38.5	55 28.2	55 28.2	67 34.4	39 20.0	37 19.0	9 4.6	29 14.9
	70歳以上	170 100.0	66 38.8	56 32.9	58 34.1	61 35.9	36 21.2	35 20.6	3 1.8	36 21.2
居住歴	生まれてから、別海町にずっと住んでいる	238 100.0	98 41.2	63 26.5	62 26.1	84 35.3	59 24.8	45 18.9	7 2.9	37 15.5
	別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある	212 100.0	90 42.5	64 30.2	69 32.5	76 35.8	36 17.0	27 12.7	13 6.1	25 11.8
	道内の他の市町村から転入してきた	281 100.0	107 38.1	86 30.6	75 26.7	101 35.9	46 16.4	49 17.4	14 5.0	43 15.3
	道外の市町村から転入してきた	127 100.0	42 33.1	33 26.0	35 27.6	32 25.2	24 18.9	19 15.0	12 9.4	25 19.7

表2-10 災害に際して、町内に不足している施設・設備（性別・年代別・居住歴）

4) 避難所で困ったこと、困ること

5-4 避難所で困ったこと、困ることは、何だと思えますか。(〇は3つまで)

避難所で困ったこと、困ることは、何だと思えるか尋ねたところ、「お風呂やトイレ」が62.7%と最も多い。以下、「水や食料の供給」60.7%、「十分なプライバシーが確保されないこと」40.8%、「医療的支援」37.4%、「家族などとの連絡手段」23.3%などとなっている。

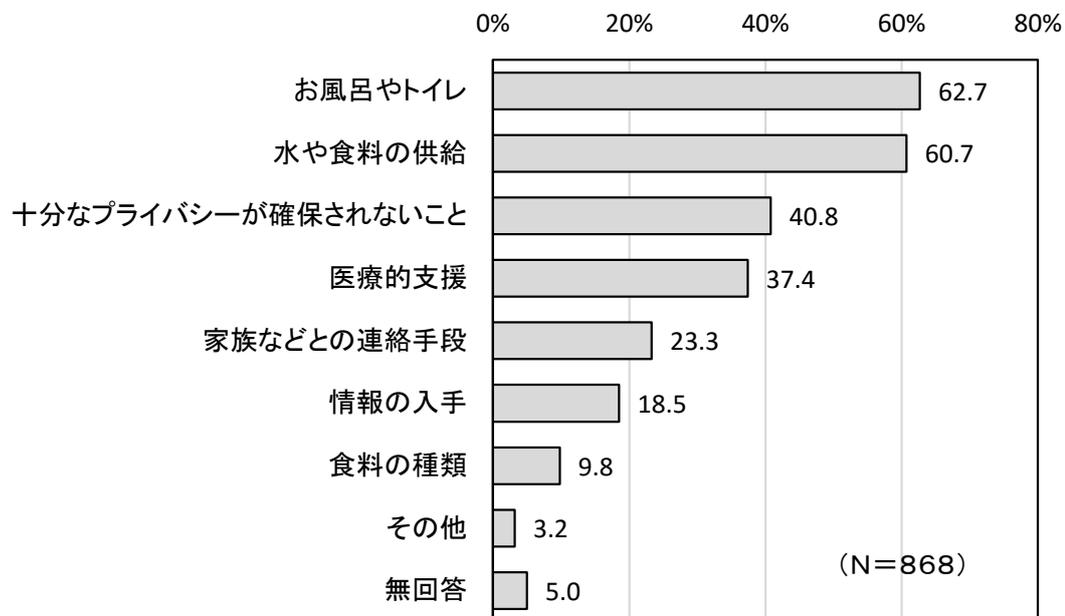


図2-24 避難所で困ったこと、困ること

性別で見ると、男性では「水や食料の供給」が60.9%と最も多く、女性は「お風呂やトイレ」が67.0%と最も多くなっている。また女性は男性より「十分なプライバシーが確保されないこと」が43.8%と約6ポイント多くなっている。

年代別で見ると、20代及び70歳以上では「水や食料の供給」、30代～60代では「お風呂やトイレ」が最も多くなっている。また、30代・40代では「十分なプライバシーが確保されないこと」が半数以上、60代以上では「医療的支援」が4割以上と他の年代より多くなっている。

居住歴別にみると、生まれてから、別海町にずっと住んでいる人は「水や食料の供給」が最も多く6割以上となっている。それ以外の居住歴の人は「お風呂やトイレ」が最も多く、また、「十分なプライバシーが確保されないこと」の割合が、生まれてから、別海町にずっと住んでいる人よりやや多くなっている。

		調査数 (上段：実数) (下段：割合)	水や食料の供給	食料の種類	家族などとの連絡手段	情報の入手	十分なプライバシーが確保されないこと	医療的支援	お風呂やトイレ	その他	無回答
全体		868 100.0	527 60.7	85 9.8	202 23.3	161 18.5	354 40.8	325 37.4	544 62.7	28 3.2	43 5.0
性別	男性	404 100.0	246 60.9	34 8.4	87 21.5	86 21.3	152 37.6	152 37.6	234 57.9	7 1.7	26 6.4
	女性	454 100.0	275 60.6	49 10.8	113 24.9	74 16.3	199 43.8	169 5.1	304 67.0	20 4.4	17 3.7
年代別	10代	7 100.0	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 57.1	2 28.6	7 100.0	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	33 51.6	6 9.4	17 26.6	14 21.9	24 37.5	20 31.3	31 48.4	4 6.3	2 3.1
	30代	137 100.0	86 62.8	13 9.5	32 23.4	16 11.7	73 53.3	43 31.4	92 67.2	7 5.1	5 3.6
	40代	126 100.0	65 51.6	16 12.7	31 24.6	22 17.5	67 53.2	33 26.2	90 71.4	5 4.0	3 2.4
	50代	163 100.0	109 66.9	15 9.2	34 20.9	32 19.6	73 44.8	60 36.8	110 67.5	1 0.6	6 3.7
	60代	195 100.0	109 55.9	20 10.3	37 19.0	38 19.5	76 39.0	85 43.6	122 62.6	6 3.1	9 4.6
	70歳以上	170 100.0	113 66.5	15 8.8	49 28.8	37 21.8	35 20.6	78 45.9	89 52.4	5 2.9	18 10.6
居住歴	生まれてから、別海町にずっと住んでいる	238 100.0	152 63.9	22 9.2	60 25.2	57 23.9	80 33.6	94 39.5	142 59.7	7 2.9	14 5.9
	別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある	212 100.0	126 59.4	15 7.1	54 25.5	34 16.0	97 45.8	67 31.6	132 62.3	7 3.3	10 4.7
	道内の他の市町村から転入してきた	281 100.0	173 61.6	36 12.8	56 19.9	40 14.2	128 45.6	119 42.3	191 68.0	6 2.1	11 3.9
	道外の市町村から転入してきた	127 100.0	70 55.1	11 8.7	31 24.4	26 20.5	47 37.0	41 32.3	74 58.3	7 5.5	7 5.5

表2-11 避難所で困ったこと、困ること（性別・年代別・居住歴）

(6) 自衛隊の地域貢献等について

1) 自衛隊の印象

6-1 自衛隊の印象についてお聞かせください。(〇は1つまで)

自衛隊の印象について尋ねたところ、「どちらかといえば良い印象を持っている」が40.8%と最も多く、「良い印象を持っている」24.5%を合わせた『良い印象を持っている』は65.3%と6割以上となっている。

一方、「悪い印象を持っている」3.0%と「どちらかといえば悪い印象を持っている」9.6%を合わせた『悪い印象を持っている』は12.6%と1割ほどである。

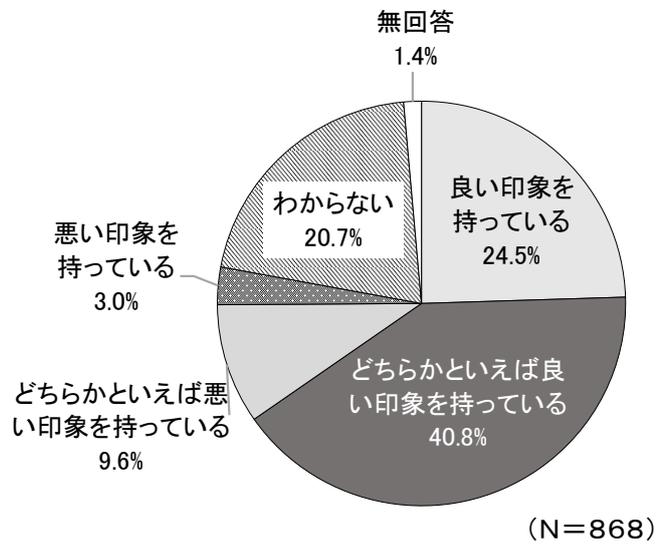


図2-25 自衛隊の印象

性別でみると、『良い印象を持っている』人は男性が72.2%、女性が59.2%と、男性が13ポイント上回っている。

年代別でみると、年代が高くなるにつれて『良い印象を持っている』人の割合が多くなる傾向がみられる。

別海町居住年数別でみると、20年以上居住している人は『良い印象を持っている』割合が約7割と他の居住年数に比べて多くなっている。

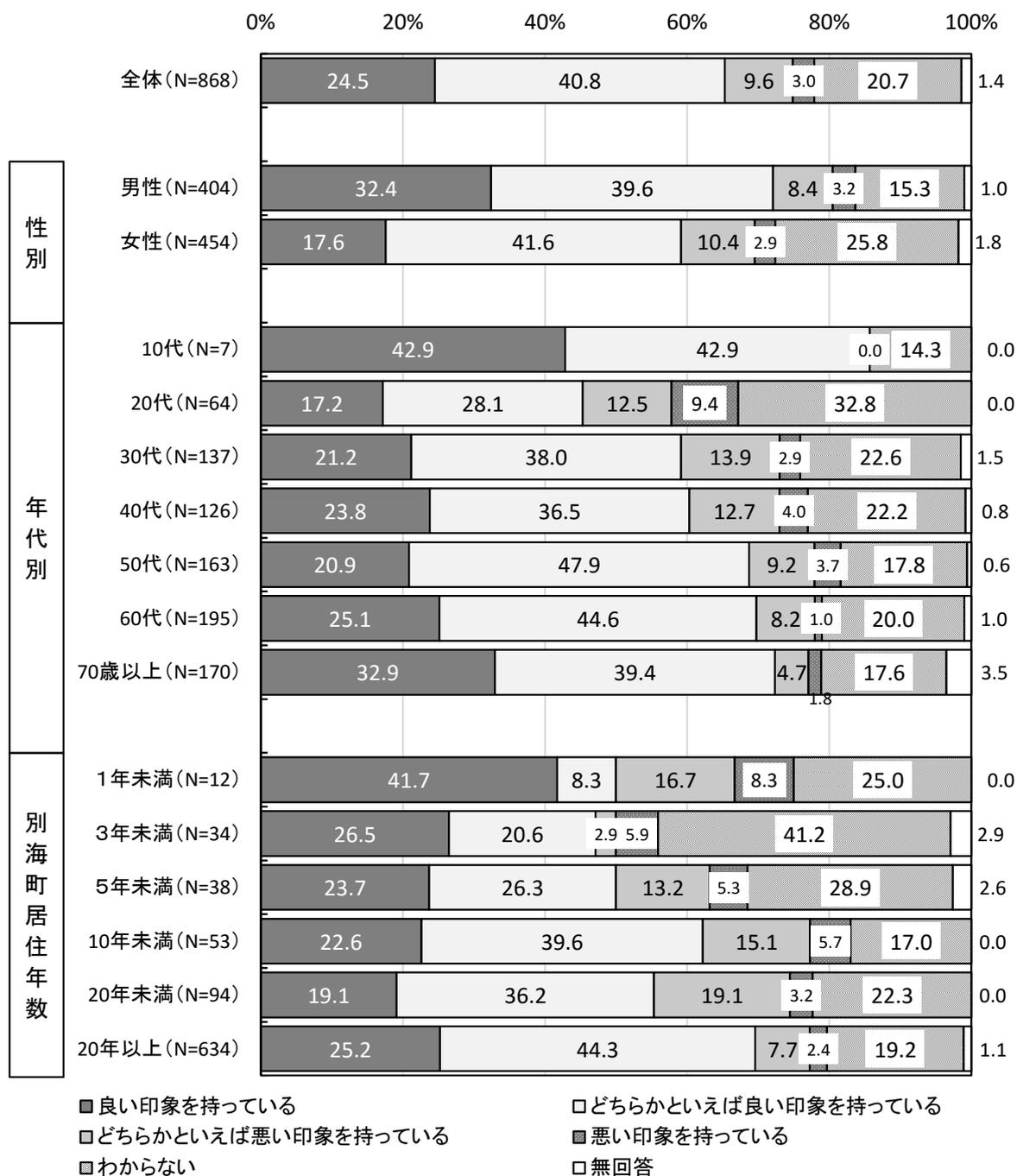


図2-26 自衛隊の印象（性別・年代別・別海町居住年数）

2) 米海兵隊の印象

6-2 米海兵隊の印象についてお聞かせください。(〇は1つまで)

米海兵隊の印象について尋ねたところ、「わからない」が35.7%と最も多く。「どちらかといえば良い印象を持っている」19.1%と「良い印象を持っている」7.5%を合わせた『良い印象を持っている』は26.6%となっている。

一方、「悪い印象を持っている」13.9%と「どちらかといえば悪い印象を持っている」22.5%を合わせた『悪い印象を持っている』は36.4%と『良い印象を持っている』を約10ポイント上回っている。

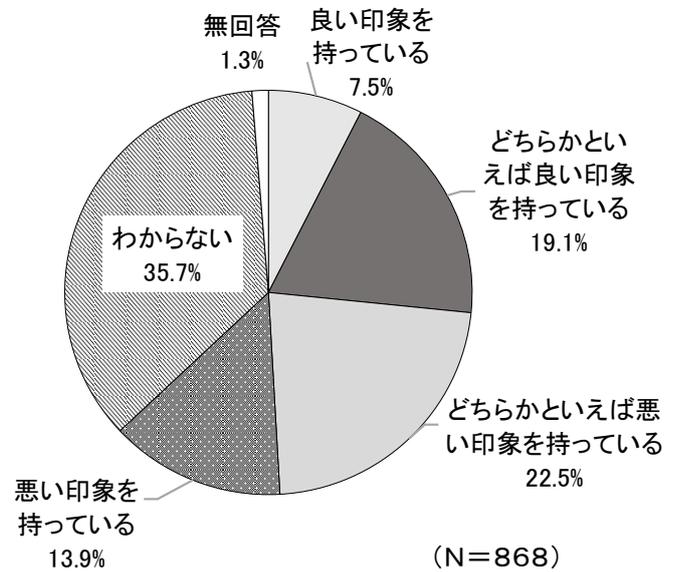


図2-27 米海兵隊の印象

性別で見ると、男女ともに「わからない」が最も多くなっており、女性の方が男性より 10.1 ポイント上回っている。また、『良い印象を持っている』人は男性が 38.6%、女性が 15.9%と、男性が 22.7 ポイント上回っている。

一方、『悪い印象を持っている』人は男性が 30.0%、女性が 42.1%と女性の方が 12.1 ポイント多くなっている。

年代別で見ると、30代～50代で『悪い印象を持っている』人が4割以上となっている。

別海町居住年数別で見ると、長く居住するにしたがって、「わからない」と回答した人は少なくなる傾向がみられる。

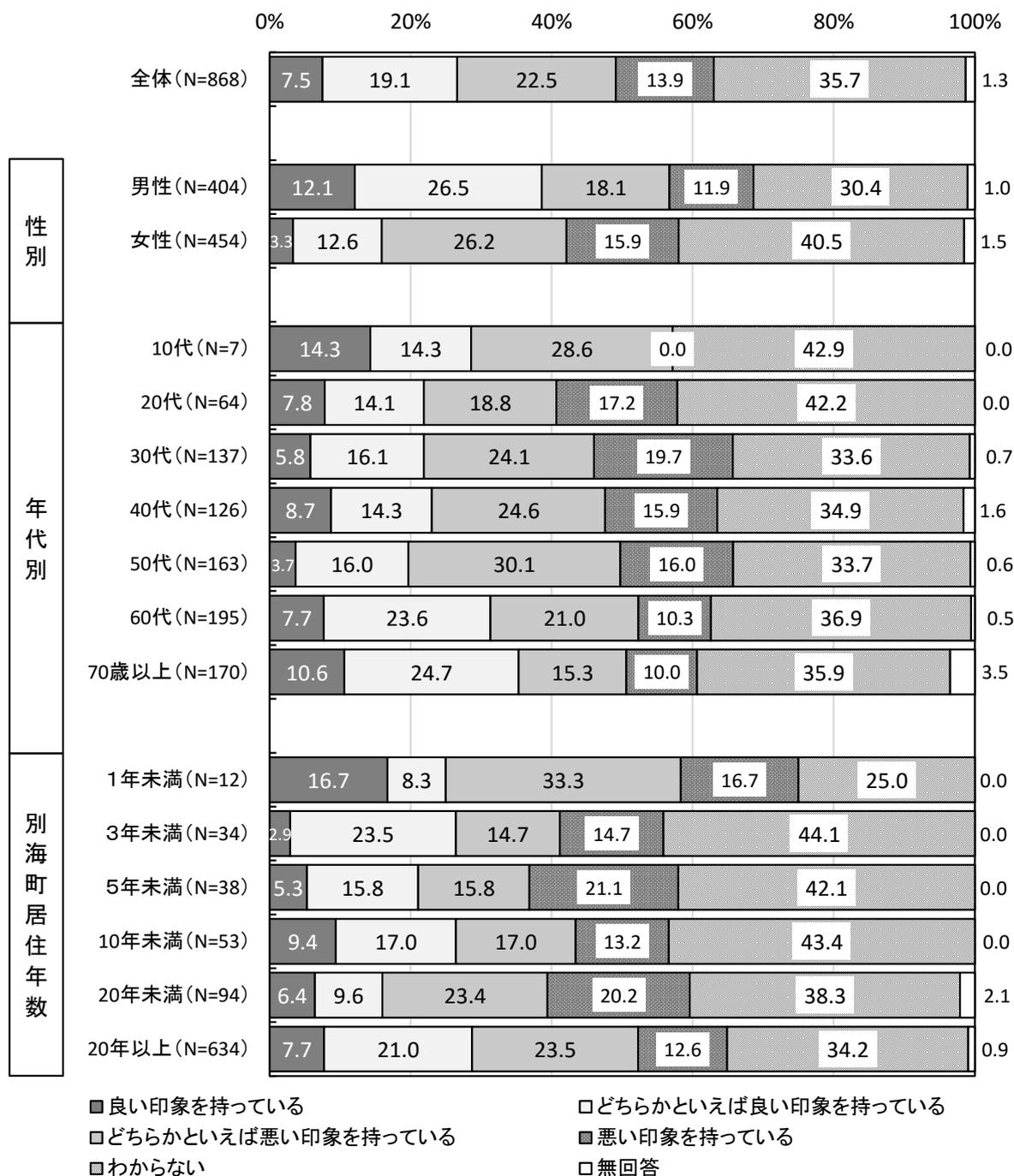


図 2 - 2 8 米海兵隊の印象 (性別・年代別・別海町居住年数)

3) 自衛隊等に期待することについて

6-3 自衛隊等に期待することについて、お聞かせください。

【交流活動について】(〇はいくつでも)

交流活動について自衛隊等に期待することについて尋ねたところ、「地域内での奉仕活動」が49.9%と最も多く。以下、「地域イベントへの協力」37.2%、「演奏会などの文化交流」27.2%、「自衛隊活動に関するイベント開催」27.0%、「専門分野を生かした講師派遣」24.3%となっている。

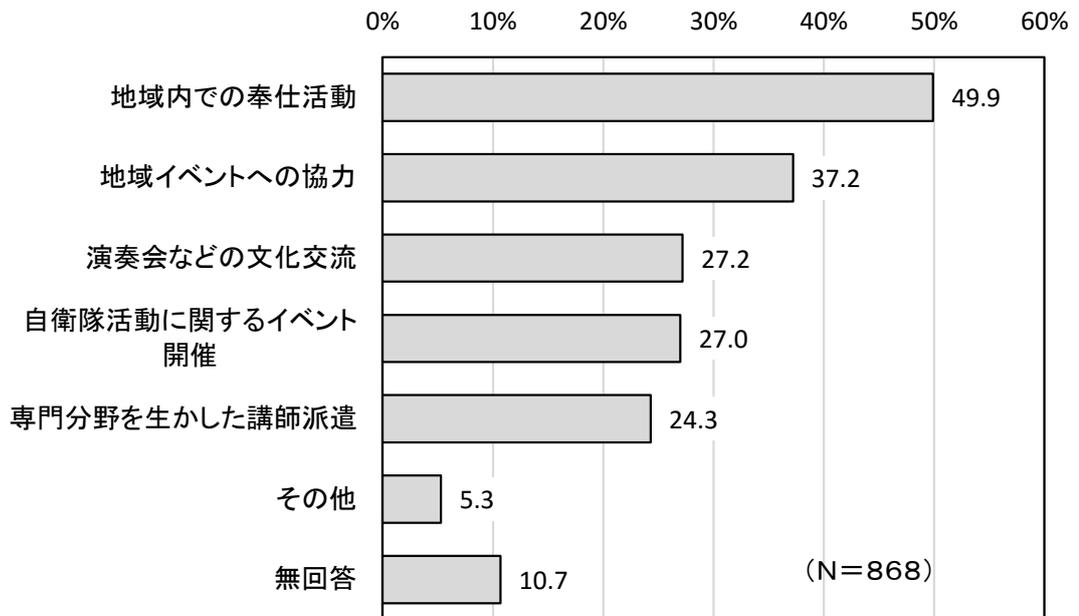


図2-29 自衛隊等に期待することについて【交流活動について】

性別で見ると、男女ともに「地域内での奉仕活動」が最も多くなっている。また、「自衛隊活動に関するイベント開催」は男性が33.9%、女性が20.9%と、男性が13ポイント上回っている。

年代別で見ると、いずれの年代も「地域内での奉仕活動」が最も多くなっている。30代・40代では「専門分野を生かした講師派遣」、70歳以上では「演奏会などの文化交流」が他の年代と比べて多くなっている。

		調査数 (上段：実数) (下段：割合)	演奏会などの文化交流	専門分野を生かした講師派遣	地域内での奉仕活動	自衛隊活動に関するイベント開催	地域イベントへの協力	その他	無回答
全体		868 100.0	236 27.2	211 24.3	433 49.9	234 27.0	323 37.2	46 5.3	93 10.7
性別	男性	404 100.0	109 27.0	112 27.7	194 48.0	137 33.9	157 38.9	21 5.2	39 9.7
	女性	454 100.0	124 27.3	99 21.8	234 51.5	95 20.9	161 35.5	25 5.5	53 11.7
年代別	10代	7 100.0	4 57.1	0 0.0	1 14.3	5 71.4	3 42.9	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	15 23.4	15 23.4	23 35.9	13 20.3	19 29.7	5 7.8	8 12.5
	30代	137 100.0	26 19.0	44 32.1	67 48.9	42 30.7	57 41.6	6 4.4	12 8.8
	40代	126 100.0	32 25.4	39 31.0	54 42.9	24 19.0	44 34.9	8 6.3	10 7.9
	50代	163 100.0	37 22.7	41 25.2	86 52.8	43 26.4	60 36.8	8 4.9	18 11.0
	60代	195 100.0	51 26.2	45 23.1	98 50.3	54 27.7	75 38.5	13 6.7	21 10.8
	70歳以上	170 100.0	69 40.6	25 14.7	100 58.8	51 30.0	63 37.1	6 3.5	23 13.5

表2-12 自衛隊等に期待することについて【交流活動について】(性別・年代別)

6-3 自衛隊等に期待することについて、お聞かせください。

【災害支援について】（〇はいくつでも）

災害支援について自衛隊等に期待することについて尋ねたところ、「被災者の救助・搬送」が80.5%と8割以上と最も多く。以下、「支援物資の輸送」75.8%、「災害復旧活動」72.8%、「避難所での炊き出し」43.2%、「防災訓練等の連携」26.6%、「災害支援活動の講演会」8.8%となっている。

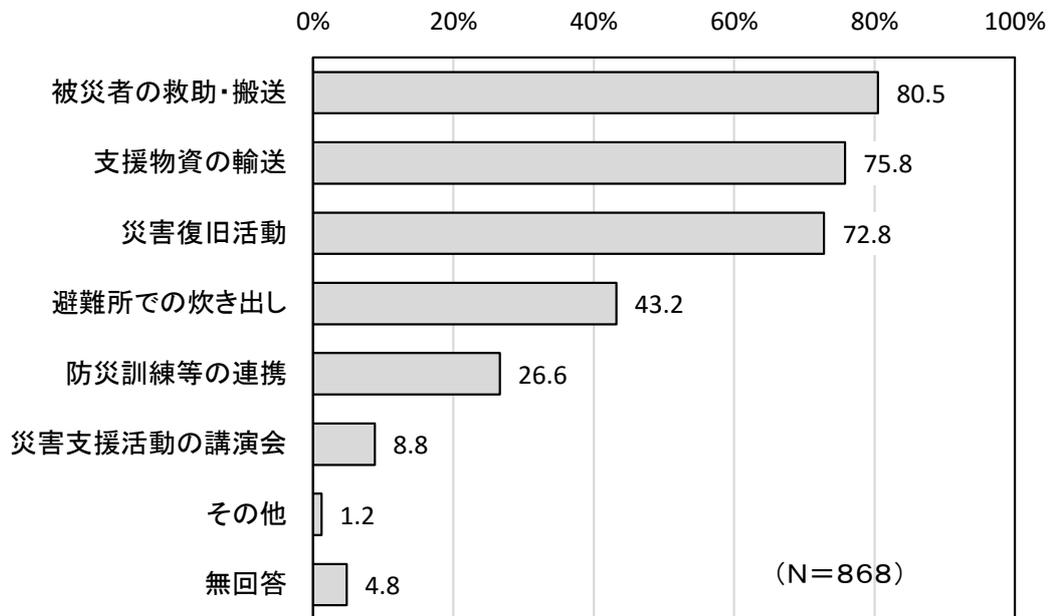


図2-30 自衛隊等に期待することについて【災害支援について】

性別で見ると、男女間で差はみられない。

年代別でも大きな差はみられない。

		調査数	支援物資の輸送	避難所での炊き出し	被災者の救助・搬送	防災訓練等の連携	災害復旧活動	災害支援活動の講演会	その他	無回答
		(上段：実数)								
		(下段：割合)								
全体		868 100.0	658 75.8	375 43.2	699 80.5	231 26.6	632 72.8	76 8.8	10 1.2	42 4.8
性別	男性	404 100.0	308 76.2	182 45.0	317 78.5	112 27.7	294 72.8	37 9.2	6 1.5	21 5.2
	女性	454 100.0	341 75.1	188 41.4	375 82.6	119 26.2	331 72.9	38 8.4	4 0.9	21 4.6
年齢別	10代	7 100.0	6 85.7	3 42.9	6 85.7	1 14.3	4 57.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	43 67.2	28 43.8	50 78.1	16 25.0	39 60.9	4 6.3	2 3.1	2 3.1
	30代	137 100.0	110 80.3	68 49.6	117 85.4	39 28.5	97 70.8	14 10.2	2 1.5	3 2.2
	40代	126 100.0	92 73.0	54 42.9	100 79.4	33 26.2	92 73.0	13 10.3	2 1.6	5 4.0
	50代	163 100.0	126 77.3	64 39.3	135 82.8	42 25.8	126 77.3	8 4.9	1 0.6	8 4.9
	60代	195 100.0	149 76.4	71 36.4	161 82.6	53 27.2	153 78.5	18 9.2	1 0.5	5 2.6
	70歳以上	170 100.0	126 74.1	84 49.4	126 74.1	46 27.1	116 68.2	18 10.6	2 1.2	19 11.2

表 2 - 1 3 自衛隊等に期待することについて【災害支援について】(性別・年代別)

(7) より多くの人が住むまちを目指して

1) 現在住んでいる住宅の選んだ視点

7-1 現在住んでいる住宅は、どのような視点で選びましたか。(〇は1つまで)

現在住んでいる住宅の選んだ視点について尋ねたところ、「職場に近いから（自宅が職場である酪農家などを含む）」が25.2%と最も多く、以下、「生まれた時からずっと住んでいる」20.0%、「静かな環境だったから」14.1%、「購入価格、または家賃が安かった」8.5%、「公共交通や幹線道路へのアクセスが良かったから」1.7%となっている。

その他の意見としては「結婚したため」「親の土地」「社宅」などが多かった。

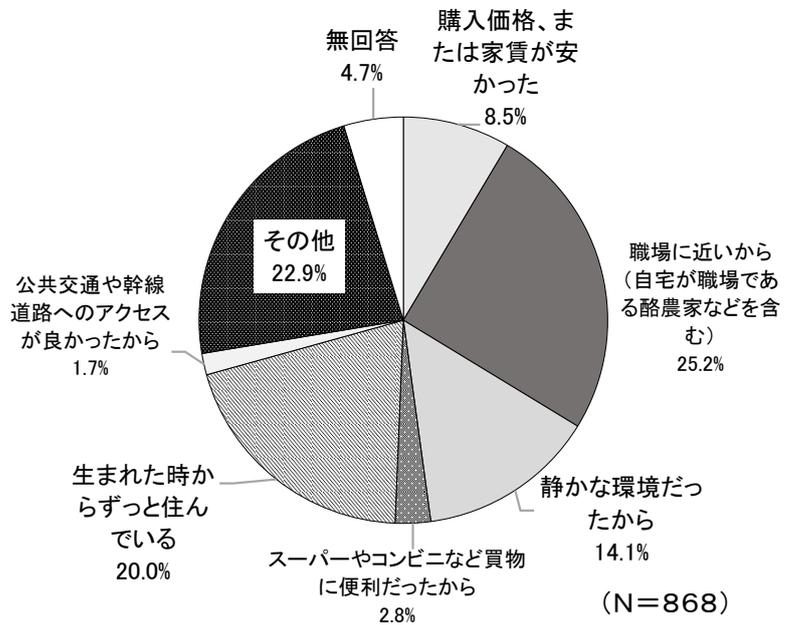


図2-31 現在住んでいる住宅の選んだ視点

性別で見ると、男女ともに「職場に近いから（自宅が職場である酪農家などを含む）」が最も多くなっている。また男性は「生まれた時から住んでいる」が23.8%と女性の16.5%を7.3ポイント上回っている。

年代別で見ると、20代・30代では「職場に近いから（自宅が職場である酪農家などを含む）」が他の年代よりやや多くなっている。70歳以上では「生まれた時からずっと住んでいる」が21.8%と最も多い。

居住歴別で見ると、生まれてから、別海町にずっと住んでいる人は、「生まれた時からずっと住んでいる」の割合が4割を超えている。

別海町居住年数別で見ると、20年以上居住している人は「生まれた時からずっと住んでいる」という割合が多い。

居住形態で見ると、一戸建て持ち家は「生まれた時からずっと住んでいる」の割合が多く、社宅・寮及び民間の賃貸住宅では「職場に近いから（自宅が職場である酪農家などを含む）」割合が多くなっている。

		調査数	購入価格、または家賃が安かった	酪農家などを含む	職場に近いから	静かな環境だった	だっか買物に便利	スパーやコンビニ	生まれた時から	良か交通や幹線が	その他	無回答
		(上段：実数) (下段：割合)										
全体		868 100.0	74 8.5	219 25.2	122 14.1	24 2.8	174 20.0	15 1.7	199 22.9			41 4.7
性別	男性	404 100.0	28 6.9	111 27.5	66 16.3	13 3.2	96 23.8	6 1.5	66 16.3			18 4.5
	女性	454 100.0	46 10.1	105 23.1	54 11.9	11 2.4	75 16.5	9 2.0	133 29.3			21 4.6
年代別	10代	7 100.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	1 14.3	2 28.6	0 0.0	3 42.9			0 0.0
	20代	64 100.0	8 12.5	22 34.4	2 3.1	2 3.1	16 25.0	1 1.6	12 18.8			1 1.6
	30代	137 100.0	15 10.9	49 35.8	14 10.2	6 4.4	27 19.7	2 1.5	24 17.5			0 0.0
	40代	126 100.0	10 7.9	30 23.8	19 15.1	1 0.8	22 17.5	2 1.6	39 31.0			3 2.4
	50代	163 100.0	13 8.0	37 22.7	23 14.1	2 1.2	29 17.8	1 0.6	51 31.3			7 4.3
	60代	195 100.0	19 9.7	48 24.6	28 14.4	5 2.6	39 20.0	2 1.0	39 20.0			15 7.7
	70歳以上	170 100.0	9 5.3	32 18.8	34 20.0	7 4.1	37 21.8	7 4.1	30 17.6			14 8.2
居住歴	生まれてから、別海町にずっと住んでいる	238 100.0	18 7.6	32 13.4	33 13.9	5 2.1	109 45.8	5 2.1	27 11.3			9 3.8
	別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある	212 100.0	21 9.9	51 24.1	25 11.8	3 1.4	58 27.4	3 1.4	42 19.8			9 4.2
	道内の他の市町村から転入してきた	281 100.0	28 10.0	93 33.1	43 15.3	11 3.9	2 0.7	3 1.1	84 29.9			17 6.0
	道外の市町村から転入してきた	127 100.0	6 4.7	40 31.5	17 13.4	5 3.9	3 2.4	4 3.1	46 36.2			6 4.7
別海町居住年数	1年未満	12 100.0	0 0.0	5 41.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 58.3			0 0.0
	3年未満	34 100.0	3 8.8	19 55.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 26.5			3 8.8
	5年未満	38 100.0	2 5.3	16 42.1	5 13.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	15 39.5			0 0.0
	10年未満	53 100.0	3 5.7	23 43.4	3 5.7	3 5.7	0 0.0	1 1.9	16 30.2			4 7.5
	20年未満	94 100.0	10 10.6	20 21.3	17 18.1	5 5.3	9 9.6	1 1.1	29 30.9			3 3.2
	20年以上	634 100.0	56 8.8	136 21.5	97 15.3	16 2.5	165 26.0	13 2.1	122 19.2			29 4.6
居住形態	一戸建持ち家	630 100.0	41 6.5	132 21.0	112 17.8	18 2.9	159 25.2	11 1.7	131 20.8			26 4.1
	一戸建借家	33 100.0	8 24.2	6 18.2	1 3.0	1 3.0	1 3.0	1 3.0	13 39.4			2 6.1
	社宅・寮	81 100.0	5 6.2	46 56.8	1 1.2	0 0.0	2 2.5	0 0.0	21 25.9			6 7.4
	民間の賃貸住宅（アパート等）	39 100.0	5 12.8	18 46.2	3 7.7	3 7.7	0 0.0	0 0.0	10 25.6			0 0.0
	公営住宅	45 100.0	14 31.1	11 24.4	2 4.4	0 0.0	3 6.7	3 6.7	8 17.8			4 8.9
	その他	24 100.0	0 0.0	3 12.5	0 0.0	2 8.3	3 12.5	0 0.0	13 54.2			3 12.5

表2-14 現在住んでいる住宅の選んだ視点（性別・年代別）

2) 住宅の周辺環境として不足していると感じるもの

7-2 住宅の周辺環境として、不足していると感じるものは何ですか。(〇は3つまで)

住宅の周辺環境として不足していると感じるものについて尋ねたところ、「公共交通機関」が35.9%と最も多く、以下、「スーパーやコンビニ」30.4%、「飲食店・スナック」19.7%、「公園や公民館、スポーツ施設などの公共施設」18.7%、「地域的なつながり」17.4%、「レジャーや娯楽（パチンコなど）施設」12.2%となっている。

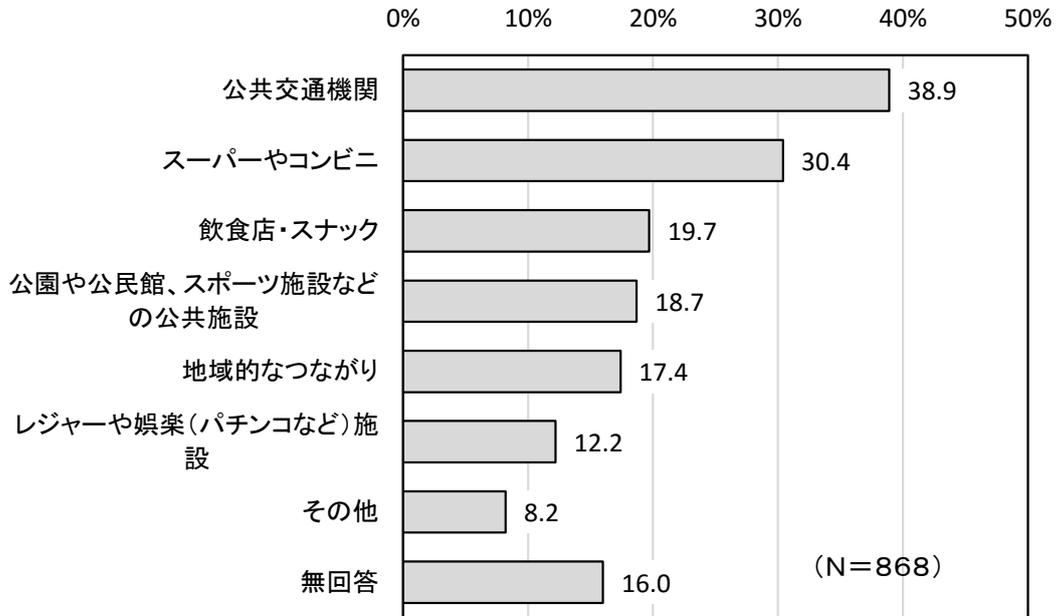


図2-32 住宅の周辺環境として不足していると感じるもの

性別で見ると、男女ともに「公共交通機関」が最も多くなっている。

年代別で見ると、20代～40代では「スーパーやコンビニ」が最も多く、50代以上では「公共交通機関」が最も多くなっている。また20代～50代では「飲食店・スナック」が他の年代よりやや多く、60代以上では「地域的なつながり」が他の年代より多くなっている。

居住歴別で見ると、生まれてから、別海町にずっと住んでいる人は、「地域的なつながり」が他の居住歴よりやや多くなっている。

		調査数 (上段：実数) (下段：割合)	公共交通機関	公園や公民館、 施設などの公共施設	スーパーやコンビニ	レジャーや娯楽 (パチンコなど)施設	飲食店・スナック	地域的なつながり	その他	無回答
全体		868 100.0	338 38.9	162 18.7	264 30.4	106 12.2	171 19.7	151 17.4	71 8.2	139 16.0
性別	男性	404 100.0	150 37.1	77 19.1	119 29.5	61 15.1	85 21.0	85 21.0	25 6.2	58 14.4
	女性	454 100.0	184 40.5	84 18.5	144 31.7	43 9.5	84 18.5	64 14.1	46 10.1	79 17.4
年代別	10代	7 100.0	5 71.4	0 0.0	1 14.3	2 28.6	5 71.4	1 14.3	0 0.0	0 0.0
	20代	64 100.0	18 28.1	21 32.8	27 42.2	15 23.4	21 32.8	7 10.9	5 7.8	6 9.4
	30代	137 100.0	42 30.7	41 29.9	50 36.5	31 22.6	42 30.7	11 8.0	14 10.2	13 9.5
	40代	126 100.0	40 31.7	20 15.9	41 32.5	19 15.1	29 23.0	14 11.1	15 11.9	16 12.7
	50代	163 100.0	80 49.1	22 13.5	49 30.1	14 8.6	35 21.5	23 14.1	16 9.8	25 15.3
	60代	195 100.0	78 40.0	29 14.9	45 23.1	16 8.2	18 9.2	52 26.7	15 7.7	35 17.9
	70歳以上	170 100.0	73 42.9	27 15.9	51 30.0	9 5.3	21 12.4	43 25.3	6 3.5	41 24.1
居住歴	生まれてから、 別海町にずっと住んでいる	238 100.0	81 34.0	37 15.5	69 29.0	22 9.2	44 18.5	48 20.2	9 3.8	53 22.3
	別海町出身だが、 別海町以外での居住経験がある	212 100.0	89 42.0	42 19.8	68 32.1	33 15.6	39 18.4	38 17.9	26 12.3	30 14.2
	道内の他の市町村から 転入してきた	281 100.0	109 38.8	61 21.7	88 31.3	37 13.2	57 20.3	50 17.8	22 7.8	38 13.5
	道外の市町村から転入してきた	127 100.0	57 44.9	21 16.5	35 27.6	12 9.4	28 22.0	10 7.9	14 11.0	17 13.4

表2-15 住宅の周辺環境として不足していると感じるもの（性別・年代別・居住歴）

3) 今後引っ越すとしたら、住みたい自治体

7-3 今後引っ越すとしたら、どの自治体に住んでみたいですか。(〇は1つだけ)

今後引っ越すとしたら、住みたい自治体について尋ねたところ、「中標津町」が42.1%と最も多く、以下、「別海町内の別な地域」6.1%、「標津町」1.0%、「根室市」0.5%、「羅臼町」0.1%となっている。その他、道内外の自治体としては「札幌市」78件、「釧路市」31件、「帯広市」14件などである。

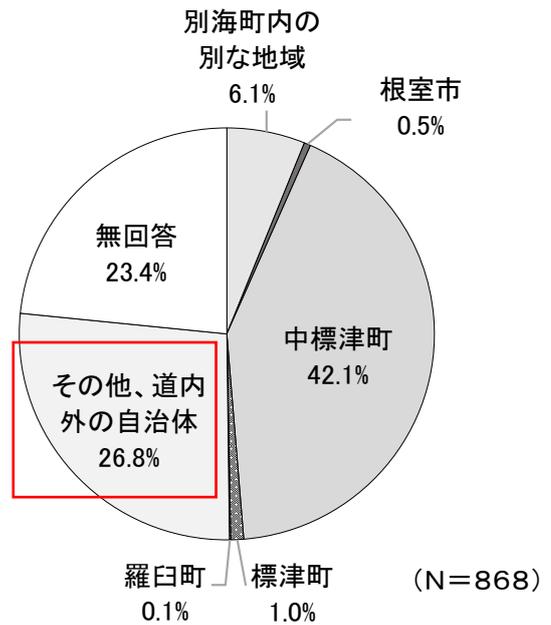


図2-33 今後引っ越すとしたら住みたい自治体

	件数	割合
札幌市	78	35.8
釧路市	31	14.2
帯広市	14	6.4
その他道内	41	18.8
その他道外	28	12.8
海外	2	0.9
その他	24	11.0
合計	218	100.0

※回答は複数回答である。

表2-16 その他、道内外の自治体内容内訳

性別でみると、男女間で差はみられない。

年代別でも大きな差はみられない。

		調査数	別海町内の別な地域	根室市	中標津町	標津町	羅臼町	体その他、道内外の自治	無回答
		(上段：実数)							
		(下段：割合)							
全体		868	53	4	365	9	1	233	203
		100.0	6.1	0.5	42.1	1.0	0.1	26.8	23.4
性別	男性	404	24	2	164	5	0	111	98
		100.0	5.9	0.5	40.6	1.2	0.0	27.5	24.3
性別	女性	454	28	2	194	4	1	121	104
		100.0	6.2	0.4	42.7	0.9	0.2	26.7	22.9
年代別	10代	7	0	0	4	0	0	3	0
		100.0	0.0	0.0	57.1	0.0	0.0	42.9	0.0
	20代	64	2	1	34	2	0	20	5
		100.0	3.1	1.6	53.1	3.1	0.0	31.3	7.8
	30代	137	4	0	71	3	0	41	18
		100.0	2.9	0.0	51.8	2.2	0.0	29.9	13.1
	40代	126	9	2	42	1	0	51	21
		100.0	7.1	1.6	33.3	0.8	0.0	40.5	16.7
年代別	50代	163	14	0	63	0	0	56	30
		100.0	8.6	0.0	38.7	0.0	0.0	34.4	18.4
年代別	60代	195	6	0	95	2	0	38	54
		100.0	3.1	0.0	48.7	1.0	0.0	19.5	27.7
年代別	70歳以上	170	18	1	54	1	1	23	72
		100.0	10.6	0.6	31.8	0.6	0.6	13.5	42.4
居住歴	生まれてから、別海町にずっと住んでいる	238	16	2	101	1	0	43	75
		100.0	6.7	0.8	42.4	0.4	0.0	18.1	31.5
	別海町出身だが、別海町以外での居住経験がある	212	16	0	90	3	0	66	37
		100.0	7.5	0.0	42.5	1.4	0.0	31.1	17.5
居住歴	道内の他の市町村から転入してきた	281	11	1	124	3	1	85	56
		100.0	3.9	0.4	44.1	1.1	0.4	30.2	19.9
居住歴	道外の市町村から転入してきた	127	10	1	45	1	0	36	34
		100.0	7.9	0.8	35.4	0.8	0.0	28.3	26.8
別海町居住年数	1年未満	12	0	0	4	0	0	6	2
		100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	50.0	16.7
	3年未満	34	0	1	13	0	0	18	2
		100.0	0.0	2.9	38.2	0.0	0.0	52.9	5.9
	5年未満	38	3	0	19	0	0	10	6
		100.0	7.9	0.0	50.0	0.0	0.0	26.3	15.8
	10年未満	53	2	1	27	3	0	14	6
	100.0	3.8	1.9	50.9	5.7	0.0	26.4	11.3	
別海町居住年数	20年未満	94	6	0	33	1	0	41	13
		100.0	6.4	0.0	35.1	1.1	0.0	43.6	13.8
別海町居住年数	20年以上	634	42	2	268	5	1	144	172
		100.0	6.6	0.3	42.3	0.8	0.2	22.7	27.1

表2-17 今後引っ越すとしたら、住みたい自治体
(性別・年代別・居住歴・別海町居住年数)

(8) まちのにぎわいを目指して

1) 別海地区の商店街に行く頻度

8-1 別海地区の商店街には、週または月に何回くらい行きますか。(〇は1つだけ)

別海町商店街に行く頻度について尋ねたところ、「1週間に2~3回程度」が27.0%と最も多く、以下、「ほとんど行かない」22.8%、「1週間に1回程度」17.7%、「月に1回程度」12.6%、「ほぼ毎日」11.3%、「2週間に1回程度」7.7%となっている。『1週間に1回以上』行く人は、半数以上を占めている。

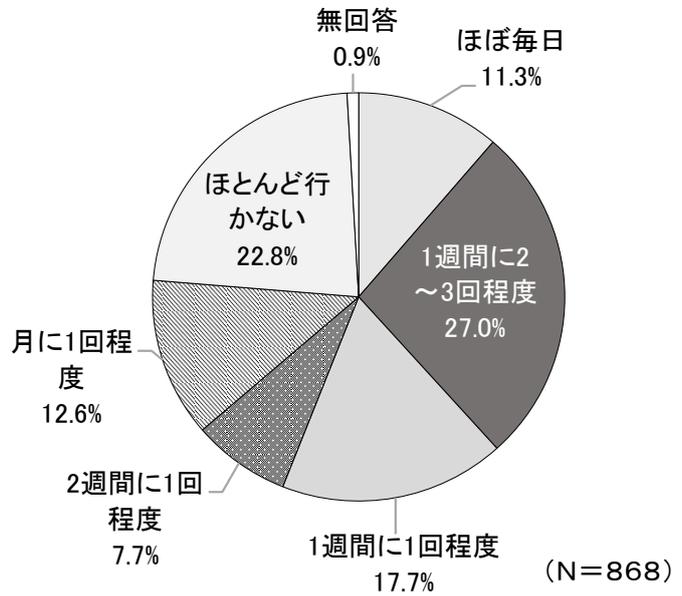


図2-34 別海地区の商店街に行く頻度

性別でみると、男女間で差はみられない。

年代別でみると、20代～40代では、年齢が高くなるにつれ、「ほぼ毎日」の割合が高くなる傾向がみられる。

居住歴別でみると、道外の市町村から転入してきた人以外は、「ほぼ毎日」に行く人がやや多い。別海町居住年数別でみると、3年未満～20年未満では居住年数が長くなるにつれて『1週間に2回以上』行く人が多くなる傾向にある。

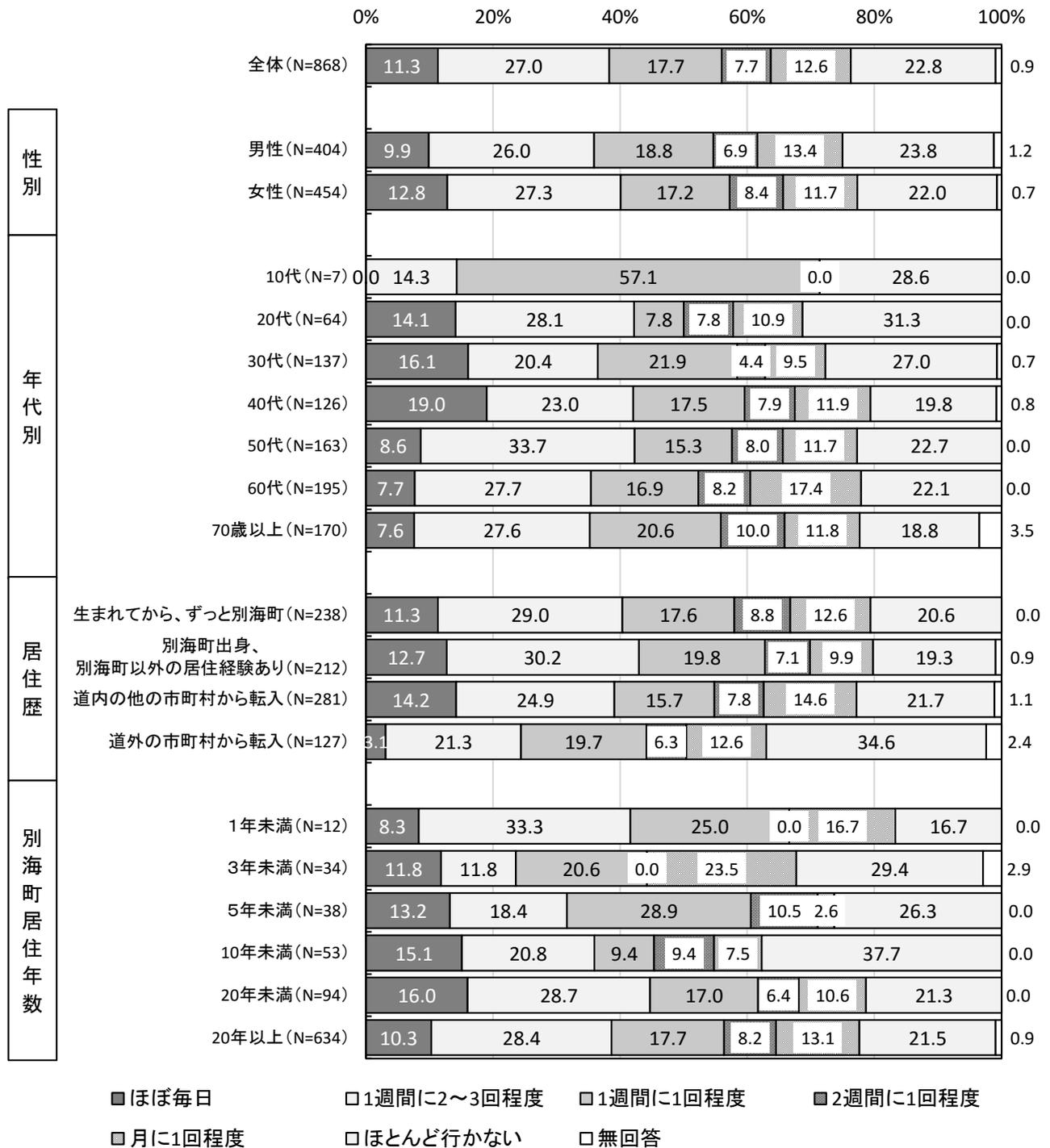


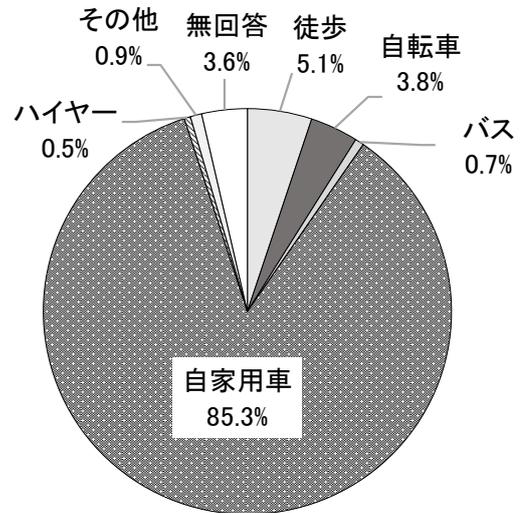
図 2 - 3 5 別海地区の商店街に行く頻度（性別・年代別・居住歴・別海町居住年数）

2) 別海地区の商店街への主な交通手段

8-2 別海地区の商店街を利用する際の主な交通手段は何ですか。(〇は1つだけ)

別海地区の商店街への主な交通手段について尋ねたところ、「自家用車」が85.3%と最も多く8割以上を占める。

以下、「徒歩」5.1%、「自転車」3.8%、「バス」0.7%、「ハイヤー」0.5%となっている。



(N=860)

図2-36 別海地区の商店街への主な交通手段

性別で見ると、男女間で差はみられない。

年代別でも、差はみられない。

		調査数	徒歩	自転車	バス	自家用車	ハイヤー	その他	無回答
		(上段:実数)							
		(下段:割合)							
全体		860	44	33	6	734	4	8	31
		100.0	5.1	3.8	0.7	85.3	0.5	0.9	3.6
性別	男性	399	19	16	2	344	1	4	13
		100.0	4.8	4.0	0.5	86.2	0.3	1.0	3.3
	女性	451	25	17	4	381	3	4	17
		100.0	5.5	3.8	0.9	84.5	0.7	0.9	3.8
年齢別	10代	7	1	1	0	5	0	0	0
		100.0	14.3	14.3	0.0	71.4	0.0	0.0	0.0
	20代	64	3	2	0	58	0	0	1
		100.0	4.7	3.1	0.0	90.6	0.0	0.0	1.6
	30代	136	5	1	0	129	0	0	1
		100.0	3.7	0.7	0.0	94.9	0.0	0.0	0.7
	40代	125	4	11	0	106	1	0	3
		100.0	3.2	8.8	0.0	84.8	0.8	0.0	2.4
50代	163	5	3	1	144	0	2	8	
	100.0	3.1	1.8	0.6	88.3	0.0	1.2	4.9	
60代	195	14	9	1	163	0	0	8	
	100.0	7.2	4.6	0.5	83.6	0.0	0.0	4.1	
70歳以上	164	12	6	4	126	3	5	8	
	100.0	7.3	3.7	2.4	76.8	1.8	3.0	4.9	

図2-18 別海町商店街に行く頻度 (性別・年代別・居住歴・別海町居住年数)

3) 別海地区の商店街へ行く理由

8-3 別海地区の商店街に行く理由として多い目的は何ですか。(〇は3つまで)

別海地区の商店街へ行く理由について尋ねたところ、「買い物（食料品）」が76.2%と最も多く、以下、「金融機関」31.9%、「買い物（食料品以外）」31.0%、「飲食・飲酒」15.6%などとなっている。

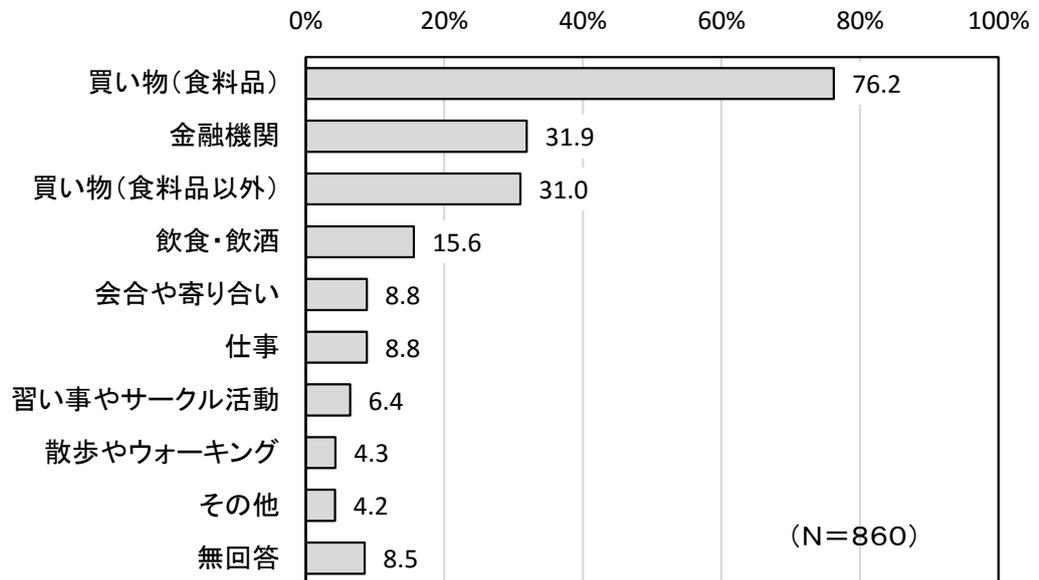


図2-37 別海地区の商店街へ行く理由

性別でみると、男女とも「買い物（食料品）」が最も多い。また、「金融機関」が女性が36.8%男性が26.3%と、女性の方が10.5ポイント上回っている。

年代別でみると、すべての年代で「買い物（食料品）」が最も多くなっている。また、20代では「金融機関」が39.1%と他の年代よりやや多くなっている。

		調査数	買い物(食料品)	外(買い物(食料品以外))	飲食・飲酒	金融機関	活動(習い事やサークル)	会合や寄り合い	散歩やウォーキング	仕事	その他	無回答
		(上段:実数)	(下段:割合)	(下段:割合)	(下段:割合)	(下段:割合)	(下段:割合)	(下段:割合)	(下段:割合)	(下段:割合)	(下段:割合)	(下段:割合)
全体		860	76.2	31.0	15.6	31.9	6.4	8.8	4.3	8.8	4.2	7.3
性別	男性	399	71.2	31.1	18.0	26.3	3.3	12.0	4.5	10.3	4.0	8.3
	女性	451	80.5	31.3	13.5	36.8	9.1	6.2	3.5	7.5	4.4	8.9
年代別	10代	7	85.7	14.3	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	64	73.4	39.1	28.1	39.1	0.0	3.1	1.6	15.6	6.3	3.1
	30代	136	84.6	36.0	31.6	24.3	6.6	6.6	2.2	12.5	4.4	3.7
	40代	125	78.4	24.0	20.0	30.4	3.2	4.0	1.6	12.8	2.4	5.6
	50代	163	73.0	24.5	11.7	35.6	6.7	11.0	2.5	9.8	6.1	9.2
	60代	195	73.8	34.4	8.7	35.9	6.2	10.3	4.6	7.2	2.6	10.3
	70歳以上	164	75.0	32.9	5.5	29.9	11.6	13.4	11.0	1.8	4.9	12.8

図2-19 別海地区の商店街へ行く理由（性別・年代別）

4) 今後、別海地区の商店街に求める業種

8-4 今後、別海地区の商店街に求める業種は何ですか。(〇はいくつでも)

今後、別海地区の商店街に求める業種について尋ねたところ、「町内の特産品が買える土産店」が40.8%と最も多く。以下、「書店」32.8%、「生鮮食品店」24.1%、「靴屋」23.7%、「雑貨や小物店」20.2%、「家具・インテリアの店」16.9%、「携帯電話販売店」16.6%などとなっている。

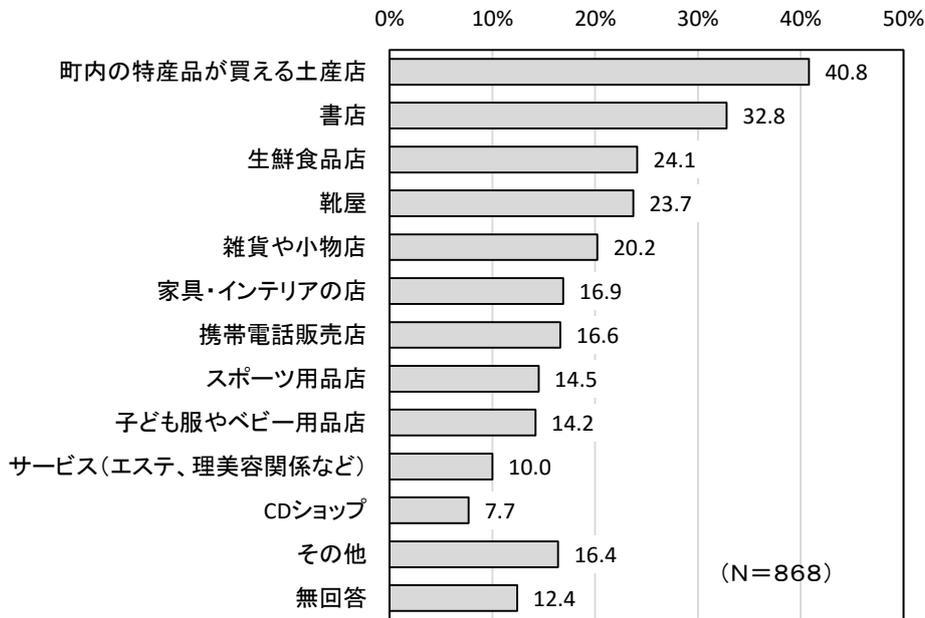


図2-38 今後、別海地区の商店街に求める業種

性別でみると、男女とも「町内の特産品が買える土産店」が最も多い。また、「靴屋」が女性で28.0%、男性が18.6%と、女性の方が9.4ポイント上回っている。

年代別でみると、20代~40代で「書店」が最も多くなっている。また、50代以上では「町内の特産品が買える土産店」が最も多い。

		調査数 (上段:実数) (下段:割合)	生鮮食品店	携帯電話販売店	子ども服やベビー用品店	書店	雑貨や小物店	町内の特産品が買える土産店	CDショップ	家具・インテリアの店	サービス(エステ、理美容関係など)	靴屋	スポーツ用品店	その他	無回答	
全体		868 100.0	209 24.1	144 16.6	123 14.2	285 32.8	175 20.2	354 40.8	67 7.7	147 16.9	87 10.0	206 23.7	126 14.5	142 16.4	108 12.4	
性別	男性	404 100.0	105 26.0	64 15.8	48 11.9	128 31.7	70 17.3	172 42.6	36 8.9	71 17.6	36 8.9	75 18.6	70 17.3	54 13.4	54 13.4	
	女性	454 100.0	98 21.6	78 17.2	75 16.5	156 34.4	103 22.7	178 39.2	30 6.6	76 16.7	50 11.0	127 28.0	53 11.7	85 18.7	54 11.9	
年代別	10代	7 100.0	1 14.3	4 57.1	1 14.3	5 71.4	4 57.1	2 28.6	3 42.9	1 14.3	0 0.0	3 42.9	1 14.3	1 14.3	0 0.0	
	20代	64 100.0	12 18.8	13 20.3	17 26.6	24 37.5	16 25.0	18 28.1	11 17.2	14 21.9	13 20.3	8 12.5	10 15.6	12 18.8	6 9.4	
	30代	137 100.0	19 13.9	29 21.2	45 32.8	62 45.3	43 31.4	42 30.7	11 8.0	29 21.2	22 16.1	32 23.4	29 21.2	26 19.0	10 7.3	
	40代	126 100.0	24 19.0	24 19.0	17 13.5	46 36.5	20 15.9	44 34.9	14 11.1	18 14.3	14 11.1	14 24.6	31 17.5	22 18.3	23 11.1	14 11.1
	50代	163 100.0	27 16.6	33 20.2	11 6.7	58 35.6	30 18.4	75 46.0	10 6.1	29 17.8	17 10.4	42 25.8	30 18.4	32 19.6	16 9.8	16 9.8
	60代	195 100.0	62 31.8	21 10.8	22 11.3	50 25.6	34 17.4	88 45.1	10 5.1	37 19.0	13 6.7	53 27.2	21 10.8	26 13.3	27 13.8	27 13.8
	70歳以上	170 100.0	62 36.5	20 11.8	9 5.3	39 22.9	27 15.9	83 48.8	8 4.7	18 10.6	8 4.7	36 21.2	13 7.6	22 12.9	34 20.0	34 20.0

図2-20 別海町商店街に行く頻度 (性別・年代別)

2-2 矢白別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会について

■矢白別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会設置要綱

(設置)

第1条 矢白別演習場周辺まちづくり構想（以下「まちづくり構想」という。）の策定に係り、広く町民の意見を反映させるため、矢白別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会（以下「住民懇話会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 住民懇話会は、まちづくり構想の策定について、町長の求めに応じて、意見を述べるとともに、必要な助言等を行う。

(組織)

第3条 住民懇話会は、15名以内の委員で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者の中から町長が委嘱する。

- (1) 地域福祉の向上に資する者
- (2) 地域防災力の向上に資する者
- (3) 生活文化の増進に資する者
- (4) 産業及び経済活動の振興に資する者
- (5) 住民の自治活動に見識を有する者
- (6) その他町長が必要と認める者

3 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(費用弁償)

第4条 委員の費用弁償は、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（昭和43年別海村条例第43号）に定めるところによる。

(座長及び副座長)

第5条 住民懇話会に座長及び副座長各1名を置き、第3条第2項第1号から第5号までに該当する委員の互選によりこれを定める。

2 座長は、住民懇話会を代表し、会務を総理する。

3 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 住民懇話会の会議は、町長が招集する。

2 会議の議長は、座長が務める。

(庶務)

第7条 住民懇話会の庶務は、総合政策課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、住民懇話会の運営に関し必要な事項は、座長が住民懇話会に諮って定める。

附 則

この訓令は、平成27年11月16日から施行し、平成30年3月31日限り、その効力を失う。

■矢白別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会委員名簿

番号		氏 名	所属団体
1	委 員	片野 康彦	別海町社会福祉協議会
2	座 長	山口 長伸	別海連合町内会
3	委 員	菅野 晴康	別海連合町内会
4	委 員	山崎 宏	社会教育委員（公民館運営審議会）
5	委 員	民部 彰良	中央公民館各分館活動推進委員会
6	委 員	青坂 信司	別海町学校給食センター運営委員会
7	委 員	浦山 宏一	道東あさひ農業協同組合
8	副座長	橋本 淳一	別海町商工会
9	委 員	山口 寿	中小企業同友会南しれとこ支部別海地区会
10	委 員	高橋 智美	別海町自治推進委員会
11	委 員	片岡 卓也	アンケート回答者からの抽出
12	委 員	藤沢 奈穂美	アンケート回答者からの抽出
13	委 員	横山 実	アンケート回答者からの抽出
14	委 員	高野 朱美	アンケート回答者からの抽出
15	委 員	林 美代子	アンケート回答者からの抽出

■矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会の開催状況

平成27年度第1回矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会の開催状況

日 時 平成27年12月21日(月)午後1時30分から4時
場 所 役場庁舎1階 103・104号会議室
出席者数 委員10名(アンケート回答者からの抽出委員を含まず)
事務局6名、委託事業者2名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 委任状交付
- 3 挨拶 副町長 佐藤 次春
- 4 オリエンテーション
- 5 座長及び副座長選出
- 6 議 事

議案第1号 矢臼別演習場周辺まちづくり構想について(経過報告)

- (1) まちづくり構想の概要について
- (2) まちづくり構想策定の背景と目的について
- (3) まちづくり構想(基本構想)アンケート調査について

議案第2号 こうありたい別海町の将来像(意見交換)

- 7 そ の 他
- 8 閉 会

議案第2号 こうありたい別海町の将来像(意見交換)

10年後20年後を見据えた別海町の将来像について、各委員から意見をいただく。

(意見等)

①それぞれの立場から思う将来像

○将来像

- ・子どもが誇れるまち
- ・様々な世代が住むまち
- ・帰って来られるまち

○経済

- ・中心市街地を活性化したい
- ・雇用の場、ビジネスチャンスがあると良い
- ・ビジネスのバックアップ体制も整備したい
- ・物産館 人の集まる場所、休める場所、PR拠点としての機能もあると良い
- ・戸数を減らさないようにしたい
→ 経済・教育・生産力につながる
- ・別海町中心地の周辺に点在する準中心地とネットワークを
- ・国道沿線に道の駅を整備し、物産・雇用機能をつくる
- ・若いお母さんの雇用支援制度があると良い

○交流

- ・多世代交流型の施設が良い

給食を食べながらお母さん世代と中学生の交流を図るなど

- ・各地区の公民館のあり方の検討（ネットワーク？シンボル？）

○防災

- ・町内会、近隣との助け合いの推進
- ・災害時に体制を組めるような組織づくり
- ・自主防災、近所づきあいの充実
- ・町内会館などの地域の拠点を整備
- ・災害時に対応できる施設の充実
- ・給水のループ化し断水時にも対応できるようにしたい
- ・助け合える環境づくり（子ども、高齢者、障害者・・・）

○環境

- ・景観など全体的なまちづくり
- ・自然と調和した景観づくり（西別川など）
- ・山、川、海などの環境資源を大切にしたい

○PR

- ・他の自治体と異なるPRをしたい
自然や施設などだけでなく、人などをPR

②町民として思う将来像

○将来像

- ・子ども達が長く暮らせるまち
- ・帰ってきて暮らせるまち
- ・「仕事 × 人 × まち」

○経済

- ・基幹産業をしっかりと
- ・協力、連携しながらバックアップできる体制が良い
- ・市街地に人を呼び込みたい
- ・良い施設や良い人材をつなぐ制度がほしい
- ・町有地を分譲し、人材を引き込む
- ・補助金の有効活用

○教育・子育て

- ・女性の力を発揮できる職場環境
仕事 ↔ 子育て
- ・お母さんとしての仕事（子育て）に集中できるバックアップがほしい
- ・根室管内に特別支援学校がないので、別海に受け入れ先をつくりたい
- ・職業・学校教育の中で起業家育成をしてはどうか
- ・屋内の遊び場がほしい

○交流

- ・連携する場所・拠点が必要

○PR

- ・自然などを別海の顔となるように活用したい

平成27年度第2回矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会の開催状況

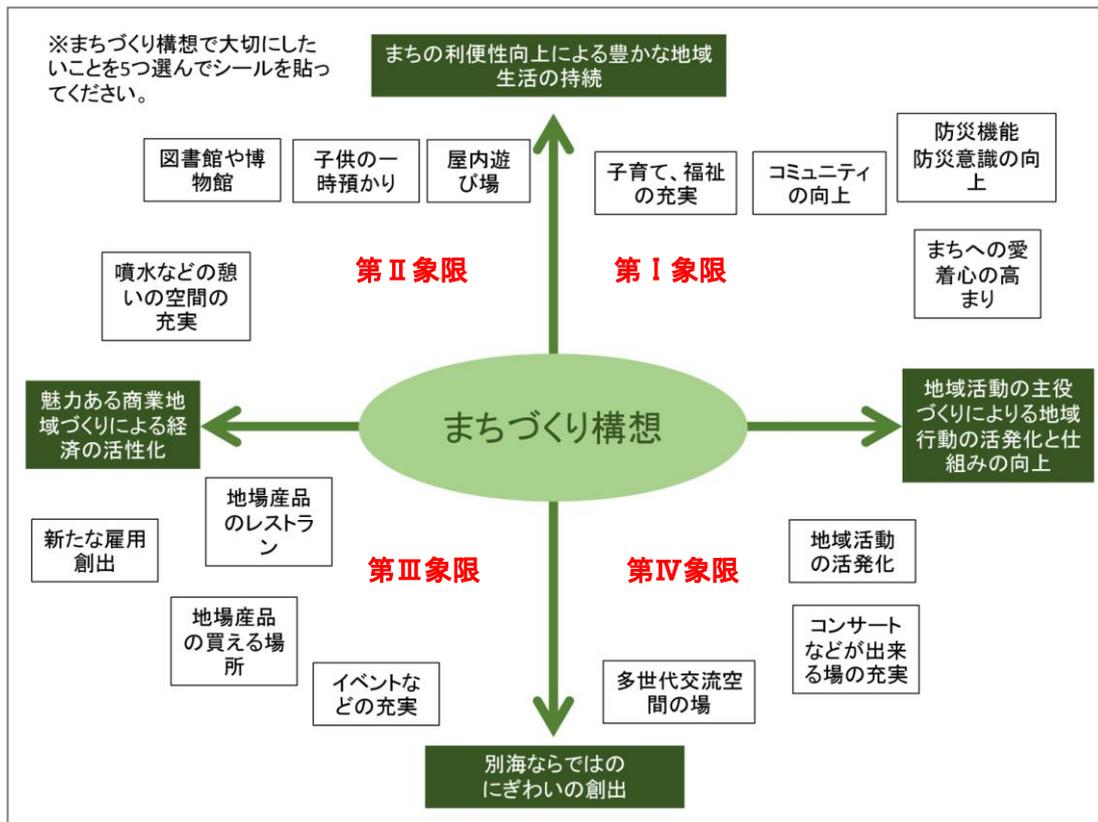
日 時 平成28年1月28日（木）午後1時から3時
 場 所 役場庁舎1階 103・104号会議室
 出席者数 委員13名
 事務局6名、委託事業者2名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 前回の振り返り
- 3 議 事
 - 議案第1号 矢臼別演習場周辺まちづくり構想（基本構想）アンケート調査結果について
 - 議案第2号 まちづくり構想で大切にしたいこと（ワークショップ）
- 4 閉 会

議案第2号 まちづくり構想で大切にしたいこと

※以下の図を用い、2テーブルで分かれてワークショップ形式により意見聴取を行う。



<A テーブル>

第Ⅰ象限

○コミュニティの向上、防災機能・防災意識の向上

- ・地域のひと同士はつながっているようでつながっていない。別海地区は高齢化も進んでいて若い人が町内会活動に参加していない。
- ・お酒を飲んだりイベントを一緒にする、町内会がどんな役割を果たしているのかなど情報発信も必要。
- ・一人暮らしの高齢者を地域で支え、暮らし続けられる地域にするためにコミュニティの向上が必要。
- ・中春別？では新規就農者も多く、イベントなどの取組みも活発。カリスマ的な人材もいて若手に任せてもらっているので町内会活動は心配がない。
- ・コミュニティ向上は全てのことがらに関わってくるので重要である。

○まちへの愛着心の高まり

- ・まちへの愛着心が高まれば町外へ出てもふるさと納税などで外から別海を応援する状況もうまれるのでは。
- ※コミュニティの向上と防災機能、防災意識の向上は特に密接な関係があり、一つのくくりとして再投票する。

第Ⅱ象限

○子どもの一時預かり、屋内遊び場、子育て・福祉の充実

- ・まちなかで親が買い物している間、子ども達が遊んだりする場がないので中標津の東武で買い物してしまう。
- ・お母さんと子どもの場はあるが、子ども（乳幼児）と高齢者が一緒になる場がない。高齢者が子どもの様子を見守り、面倒をみるような子どもからお年寄りまでが集える場が必要ではないか。
- ・子育て、一時預かり、高齢者サロンが一体になる必要があるのではないか。
- ・屋外の遊び場はあるが、雨が降ったときなどにも遊べる屋内での遊び場、交流の場が必要ではないか。
- ※子どもの一時預かり、屋内遊び場、子育て・福祉の充実の3つの項目は一体で考える必要があり、一つのくくりとして再投票する。

第Ⅲ象限

○新たな雇用の創出、地場産品のレストラン、地場産品の買える場所

- ・別海は酪農、漁業が基幹産業だが、酪農は離農も進んでいる。離農してもまちを離れないように別の雇用の場が必要。
- ・地域産業（一次産業）と第三次産業を活発にし、外に仕事に出ないようにするべき。
- ・加工や流通、販売などの工夫や、地場産品をつかったレストランなども必要。
- ・基幹産業を活かした次なる雇用、特に若い人が魅力を感じる仕事の場の創出が必要。
- ・まちが元気なうちに考え取り組むことが必要。
- ・出生率が高い地域であることを活かし、新しい雇用の場づくりを。
- ・別海でとれたものを別海で売る場がなく、地場産品を扱う店もない。

※新たな雇用の創出、地場産品のレストラン、地場産品の買える場所については表裏一体なので、一つのくくりとして再投票する。

第Ⅳ象限

○多世代交流空間の場、地域活動の活発化

- ・町内会も高齢化が進み。人材が不足している。JA や役場 OB が役員を担っている状況。
- ・町内会で何をしているのかわからない若い世代が多い。
- ・昔は町内会で葬儀を出していたが、町内で手伝う状況も少なくなり、中標津で葬儀するケースも増えている。
- ・学校の運動会では親やおじいちゃんが参加するプログラムもなくなっており、世代間交流が希薄になる事が心配。
- ・町内会の活動もマンネリ化している状況もあり、若い世代を呼び込めない。世代間ギャップを感じ、イベントへの参加も少なくなってきている。
- ・ふるさとの大切さを子どもたちに如何に気づかせるか、学校教育の場面での取組みも必要ではないか。縦のつながりがなくなってきている。

○コンサートなどが出来る場の充実

- ・まちづくり構想の議論と中央公民館の建替えに関する議論とそれぞれに整理する必要がある、中央公民館の機能充実を図るためにはホール機能は必要である。
- ※多世代交流を促すには地域活動が活発になる必要があるし、地域活動を活発にするためには多世代交流を促す事が必要であるため、一つのくくりとして再投票する。

その他

- ・別海は住む場所が少ない。中標津に住んで別海で仕事をする人もいるし、別海に住んで中標津で仕事をする人もいる。別海に住んで別海で仕事出来るようになるのがよい。
- ・住んでもらう人を増やすための取組みをしていくべき。
- ・子供の一時預かり、屋内遊び場、子育て・福祉の充実と多世代交流の場づくりは、地場産品の買える場所などの商業機能とあわせて一体で考える必要があるのではないか。



<B テーブル>

第Ⅰ象限

○コミュニティの向上

- ・つながりをつくる、コーディネートする役割が必要である。
- ・単発のイベント等は開催されているが、コミュニティを継続させるためにはつながりが必要である。
- ・世代別のコミュニティは現在もある。
- ・子ども、大人、高齢者など多世代間でのつながりが必要である。
- ・他の地域から別海へ移ってきた人とのつながりが必要である。
- ・サークルや団体での活動はされているが、横のつながりはあまりない。
- ・様々な才能、能力を持つ人の情報交換がしたい。
- ・情報交換できれば、空き家問題の解決などもできるのではないかな。
- ・見守りなどは町内会単位で対応してはどうか。
- ・中心部は高齢者が多く、郊外は子どもが多いなど地域によって状況が異なる。
- ・退職した人で中標津に引っ越し人もいる。

第Ⅱ象限

○図書館や博物館

- ・郷土資料館は来てもらえれば満足できると思う。
- ・古い農機具なども展示されている。
- ・駐車場との動線があまり良くない。
- ・歴史を引きついで、将来へつなげて行かなければならない。
- ・歴史を語れる人が少なくなっている。

○子どもの一次預かり

- ・昔ながらの子育てのかたちが良い。
- ・田舎らしくおせっかいにした方が良いのではないかな。

○噴水などの憩いの空間の充実

- ・今でも十分充実している。

第Ⅲ象限

○地場産品の買える場所

- ・別海といえば〇〇をつくりたい。
- ・自衛官として赴任し一定期間居住する人や住民などから要望がある。
- ・中心市街地に買える場所がない。
- ・1カ所にまとまっていると良い。
- ・別海に訪れた人を連れていける場所がほしい。
- ・乳製品や肉製品、海産物などオリジナルの商品はある。
- ・漁協が年数回行う直売市は好評である。
- ・町が広いため、中心市街地に何かないと人が集まらない。

○新たな雇用の創出

- ・商工会の会員数は約 10 年間減少していない。
- ・今後は維持できるかもしれないが、発展するためには新しい企業を入れる必要がある。
- ・加工業や農業には外国人労働者が多い。
- ・若い人の新規事業への支援制度（場所や資金など）を充実させたい。

第IV象限

○地域活動の活発化

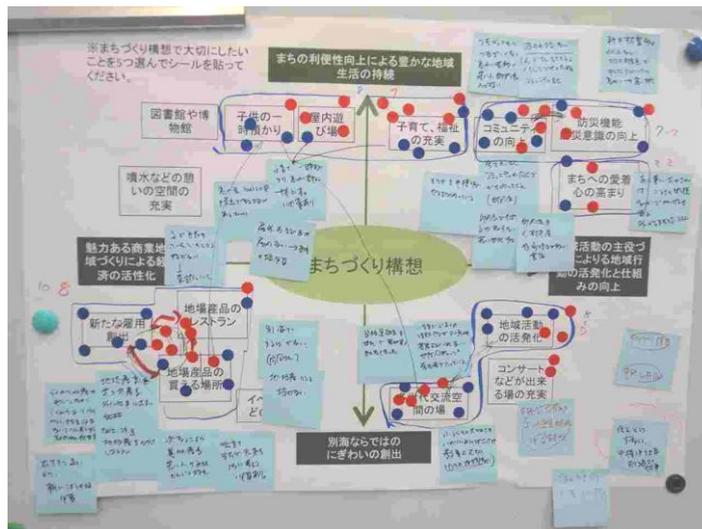
- ・お年寄りが活躍できる場があると良い。
- ・若い人を対象に漬物教室や料理教室などはどうか。
- ・野付の漁協の女性部は、出張料理教室を開催している。

○多世代間交流の場

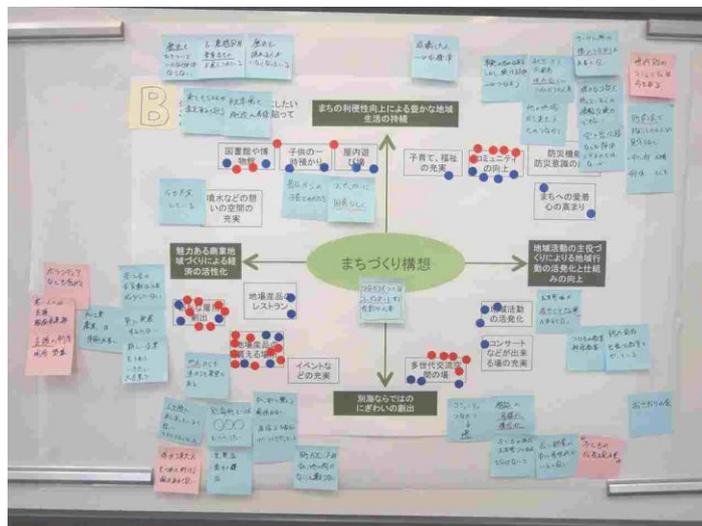
- ・コミュニティやつながりのための場があると良い。
- ・場の機能は、多様化や複合化した方が良い。
- ・子どもやお年寄りなど対象により場所を分けずに、広い空間の中に多世代がいると良い。
- ・中西別では「子供の成長を見る会」を開催している。

【ワークシート】

<A テーブル>



<B テーブル>



平成27年度第3回矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会の開催状況

日 時 平成28年2月4日（木）午前10時から正午
場 所 役場庁舎1階 103・104号会議室
出席者数 委員12名
事務局5名、委託事業者2名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 前回の振り返り
- 3 議 事
議案第1号 矢臼別演習場周辺まちづくり構想（基本構想）素案について
議案第2号 まちづくり構想を考えよう（ワークショップ）
- 4 閉 会

議案第2号 まちづくり構想を考えよう

※まちづくり構想（基本構想）の「基本方針を具現化する手立てのイメージ」について、
2テーブルに分かれてワークショップ形式により意見徴収を行う。

<Aテーブル>

○集い、つながる交流機能の充実

- ・お茶が飲めて子供が集まれる小さくてもいい集いの場
- ・お散歩老人がみんな元気に集まれる場
- ・明るいオープンな雰囲気のリビー空間で、ギャラリーや子供のあそび場などが点在
- ・公民館のサークル活動の場でセンター的な機能に
- ・仕切りのない内、外一体の空間
- ・どうやっていろんな人が交流できるようにするか（空間の工夫と仕組みの工夫が必要）
- ・人と人のつながりをつくるコーディネーター、マネージャーが必要。（中間支援のような）
- ・観光客とまち、地域の活動と活動もつなぐ必要あり。

○災害時の食料供給備蓄機能の整備

- ・給食センターは本当に必要なのか。本来は各学校（各地域）に給食センターがある方が災害時の拠点にもなるのでは。

○子育て、高齢者を支える環境整備

- ・子供の一時預かり、放課後に気軽に立ち寄れる場所につくるべき。それをお年寄りが見守り、昔遊びを教えるような関係が生まれるようにしたい。
- ・公民館の福祉牛乳は吹雪の日でも配布し、そこがコミュニティの場（安否確認）になっている。もっと明るい場所で開かれたサロンのようになっていけば良い。
- ・子育てを終えたお母さんが仕事に復帰できるような、あるいは仕事に就けるような環境整備をするべき。
- ・父子家庭、母子家庭が多く、保育所が少ないので、そういう世帯への支援も必要ではないか。

- ・図書機能も併設されていると時間消費、対流がうまれる。

○地域を支える商業空間の充実

- ・地域の高齢者がつくった農作物が販売できる場も必要。コミュニティビジネス、高齢者の生きがいづくりという視点も必要。
- ・牛乳が飲める場がない。農水産物のアンテナショップを

○雇用環境の改善と場の創造

- ・雇用の場が役場、農業共済、JA、JP、だけでいいのか。

○利便性向上を図る交流拠点の充実

- ・みんなが仲良く活動できる場が必要ではないか。
- ・公民館にしかない機能（今までのニーズを受け止める）をしっかりと継承する必要がある。500人規模のホールでいい←→やはりシルベット（中標津）のような大きな規模のものも必要ではないか。
- ・調理室や会議室が必要。100人～200人規模と500人規模など専用のホールが必要ではないか。
- ・マルチメディア館やぷらとなどの既存施設の会議室などと住み分け、分担しながら余計なものをつくらず、連携、合築なども検討する必要あり。既存施設と新設の施設つながっていた方が良い。
- ・図書機能の一部を街中に移し、空いたところに郷土資料館を移し、そこに道の駅をつくっては？道の駅には物産館など。

○支え合う関係をつくる複合機能の整備

○その他

- ・①③⑥⑦は一体で考える必要あり。④⑤も深く関係、連動しているのでは。③⑤も同様に。
- ・子供、高齢者の施設は利用しやすい便利な場所に。
- ・マネジメント、コーディネートする仕組みづくりと人材育成を。
- ・既存施設との住み分け、機能分担、連携、一体化、連続化を考えるべき。
- ・複合化の際に図書機能の街中移転（一部でも）が必要では。
- ・高齢者のために広い駐車場が確保できるようにしたい。
- ・②や⑦は学校の体育館などでも代用できないか。

<B テーブル>

○集い、つながる交流機能の充実

○災害時の食料供給備蓄機能の整備

- ・食料の備蓄は、長期間保存できるものでないといけない。
- ・長期間にわたる避難生活にも対応できる施設が良い。
- ・災害時には、電気、水道の対応も重要ではないか。

- ・十勝沖地震の際、水不足の問題が発生したので、水槽の設置やろ過装置の導入が必要ではないか。ろ過装置は自衛隊が持っている。
- ・経済産業省の発電機の補助の活用はできないか。

○子育て、高齢者を支える環境整備

○地域を支える商業空間の充実

- ・中央公民館とは別に道の駅機能を持った施設が、中心部にあると良い。
- ・まずは地元の特産品を町民が把握することが必要であると思う。町民から観光客へと広げることができる。
- ・町民が本州の親戚等にもものを贈る際に使えるようなお店が欲しい。
- ・スポーツ合宿などの来街者に別海の良さを実感してもらえそうな機能が欲しい。
- ・販売しているものを地元ならではの料理や伝統的な料理として食べられると良い。
- ・道の駅に商業施設やホールを併設し、複合化すると様々な人が立ち寄れる。
- ・手作りの小物を売れるチャレンジショップが欲しい。
- ・道の駅おだいとうは、狭く立ち寄りにくい。街中にあると良い。

○雇用環境の改善と場の創造

- ・定住して生活できるような雇用を創出する必要がある。
- ・農業、漁業従事者は減少傾向にあるので、今後は第2次産業や第3次産業を盛り上げなくてはならないと思う。
- ・仕事はあるが、人手が足りないという仕事もある。
- ・別海高校卒業生がUターンして起業する場合、ふるさと納税から起業支度金などの形で還元できると良い。
- ・農協青年部では、イベント等でオリジナル商品の販売をしている。チャレンジショップなどがあれば活用したい。

○利便性向上を図る交流拠点の充実

○支え合う関係をつくる複合機能の整備

- ・分散した機能を集約したい。現在は点だが、線や面にすることで複合化することができるのではないか。
- ・中央公民館とマルチメディア館の間を面的に整備してはどうか。現在も若い世代がカフェの出店などを行っている。
- ・ランニングコストを考えると、この機会に集約するのはどうか。
- ・20～30代の女性のアイデアを活用してはどうか。
- ・ホールは、コンサートや演奏会を開催するには、300席以上の規模が必要である。
- ・マルチメディア館のホールは、150席程度しかない。講演会等では使いやすいのではないか。
- ・のど自慢大会を呼べるような1000席程度あれば、中標津で開催される大きなイベントもできる。



2-3 平成27年度矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民大会の開催状況

日 時 平成28年2月13日（土）午後1時から3時30分
 場 所 別海町中央公民館 大集会室
 参加者 一般町民36名
 町長、事務局6名、委託事業者5名

【次第】

- 1 開 会
- 2 まちづくり構想について（事業説明）
- 3 講 演 「つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり」
- 4 ワークショップ及び意見交換
- 5 閉 会



【ワークショップ及び意見交換の結果】

1 全体投票

受付後、矢臼別演習場周辺まちづくり構想の「基本方針を具現化する手立てのイメージ」の7項目の中で、これからの別海町にとって重要なこと、大切にしたいことにシール投票を行った。投票は、一人5票ずつで1項目に複数投票可とした。

その結果を以下に示す。

基本方針を具現化する手立てのイメージ	合計	順位
集い、つながる交流機能の充実	27	4
災害時の食料供給備蓄機能の整備	7	7
子育て、高齢者を支える環境整備	38	1
地域を支える商業空間の充実	36	2
利便性向上を図る交流拠点の充実	22	5
雇用環境の改善と場の創造	30	3
支えあう関係をつくる複合機能の整備	18	6



2. 意見交換

全体投票でなぜその項目に投票したのか、理由や背景等を把握するため、5～10名のグループごとに意見交換を行った。

下線部は、項目ごとのまとめを示す。

<A テーブル>

○集い、つながる交流機能の充実

- ・宿泊施設が足りていない。冬は客が減るが、夏は特に足りない。
- ・空き家を活用し宿泊してもらおう。
- ・民泊などもできるのではないか。ホテルだと季節の課題がある。
- ・シフト制にしみんなで協力する。
- ・当別町のアイスバーのようなカフェを行い、交流をしたい。また、同時に冬季の観光客誘致にもなるのではないか。
- ・語学力が必要になる。語学を教えると宿泊料が安くなるなどはどうか。
- ・長期的なイベントをやりたい。観光客も増えるのではないか。

○災害時の食料供給備蓄機能の整備

- ・絶対的に必要であるが、災害の意識が低い。
- ・お米やパンなどの給食の主食は中標津から買っている。そのような部分から変える必要がある。
- ・町内の食材を普段からもっと活用していくべきである。

○子育て、高齢者を支える環境整備

- ・高齢者は住みづらいと残らない。
- ・単身高齢者の方が集える場が大切である。集まることで高齢者の見守りも兼ねることができる。
- ・子育てしやすいと住みやすくなる。そのためには遊戯スペースが必要である。
- ・子どもと高齢者が交流することで、学びや認知症の予防につながるのではないか。

○地域を支える商業空間の充実

- ・高齢者にもビジネスチャンスをつくりシルバー人材の活用を図る。
- ・まちづくりには経済の活性化が大切である。
- ・本州から来た自衛隊員とのつながりを強化したい。お土産を買ってもらおう。
- ・浜の料理や農家の料理などがあるが、地元の人知らない。
- ・買うことができ、さらに料理の方法も教えてもらえる仕組みづくり。
- ・農家のおじいちゃん、おばあちゃんがつくる野菜は、市場に出ていないので、売ることによって農業もアピールできるのではないか。
- ・商業施設に温泉を付けてはどうか。温泉は出ている。元銭湯など。

○雇用環境の改善と場の創造

- ・自衛隊は55歳で定年になるので、その後の雇用を促す。シルバー人材の活用。
- ・人材不足である。コーディネーターや行政の支援が必要である。
- ・外国人の受け入れを視野に入れる。

○利便性向上を図る交流拠点の充実

- ・必要である。ある程度的人数（1000人程度）が入れるホールがほしい。音響設備も大切である。

- ・大規模な会議室もあると良い。
- ・自衛隊の音楽会は設備が整っていないとできない。

○支えあう関係をつくる複合機能の整備

- ・本当は複合施設が欲しいが、お金がかかることなので、行政との調整が必要である。
- ・ホールと商業施設を分け、商業は街中の道の駅にあると良い。
- ・施設は複合化する必要はないのではないか。

○その他

- ・街中は歩道も狭く、観光バスが通れない。
- ・牛の糞尿の臭いの問題は少なくなっているが、まだある。

<B テーブル>

○集い、つながる交流機能の充実

○災害時の食料供給備蓄機能の整備

○子育て、高齢者を支える環境整備

- ・少子高齢化は確実に進んで行く。
- ・老人の一人暮らしがだんだんと多くなり、集落の大部分が高齢化してきた。子どもの数も少なくなり、学校も統合され他の地域へ移った。先が暗くなりがちである。
- ・働く女性の活躍が必要である。
- ・役割を持って地域に暮らすことが大切である。
- ・サポート体制の充実を図りたい。(ハードとソフトの両方で)
- ・高齢者にも子どもを見守る役割が与えられると生き生きするのではないか。
- ・子育て世代への支援の充実が必要である。
- ・子どもと高齢者の交流の場の提供が必要である。
- ・だんだんと少子高齢化は進むので、商業につながるため、子育ての充実をする。
- ・夏は野菜作りや花を育てている高齢者が多いが、秋冬は閉じこもりがちである。
- ・高齢者と子どもを分ける環境より、交流できる環境が必要である。
- ・働く女性の活躍を促すためにも必要ではないか。
- ・子ども子育て支援の委員として活動している立場もあり、地域で子どもを育てるという大切なサポートの旗振り役をしている。
- ・水産、農業の商品がなかなか近くで買えない。別海町は広いのではと思う。一括して買える場所があると良い。
- ・場所を準備するばかりでなく、サポートするスタッフの充実を図ることが大切である。

○地域を支える商業空間の充実

- ・買回り品が買えるところが少ない。遠い。
- ・お客さんを連れて行けるおすすめの場所が少ない。
- ・外から来町した方を連れて行く場所が市街地には少ない。ないかもしれない。
- ・別海中央地区には特産品を買う場所がない。

- ・酪農と漁業を一緒にアピールしてはどうか。一カ所で販売できる場所があると良い。
- ・地元食材と地元の人が調理して提供すると良いのではないかな。
- ・お母さんが地元食材を使ったオリジナルレシピを提供すると良い。
- ・地元の特産品を購入できる場の提供が必要である。
- ・市街地にも観光客が寄るシステムづくり。
- ・お土産や贈り物（地元産品）を一カ所で買える場所があると便利であると思う。
- ・酪農と漁業の町であるが、一カ所でアピールできる場所があると良い。
- ・決まった場所に人を集めることで、活気も出てくるのではないかな。12月にある農協の魚介類の販売には大勢集まる。
- ・他県に行くことがあるが、食べ物は別海が一番であると思う。ブランド化や広告力をつけ、生産者が自信をもって送り出せる製品作りにお金をかけていく。
- ・学校給食で別海産のものを使うことで、商業振興を図る。
- ・地元食材に対する需要は、高齢者施設などの町内である。
- ・食料品を宣伝するポータルサイトをつくった方が良いと提案したことがある。
- ・（「雇用環境の改善と場の創造」につながる）

○雇用環境の改善と場の創造

- ・雇用者の確保が大事である。
- ・高校を卒業したら町を出ていく若者が多い。
- ・地方の学校に進学しても戻って来られる場所があれば、若い人の人口を増やすことができる。

○利便性向上を図る交流拠点の充実

- ・広い駐車場が確保でき、地域の人が相談できる部門や簡易的な図書館、お金が取れる（利益発生）事業計画（コンサート、講演）がこなせるものが良い。
- ・（「支えあう関係をつくる複合機能の整備」と同じことではないかな）

○支えあう関係をつくる複合機能の整備

- ・現在は機能が分散しているので、集約化により賑わいを創出する。
- ・年間を通して町民が集まりやすい施設であると利便性が良くなる。
- ・図書館と物産館の機能を一緒にすると良いのではないかな。
- ・（「利便性向上を図る交流拠点の充実」と同じことではないかな）

○その他

- ・ノウハウを持っているので、男性もまちづくりへ参画した方が良い。
- ・まちのコンパクト化が必要。西春別はどうか。

<C テーブル>

○集い、つながる交流機能の充実

- ・子育て世代の利用者と高齢者の交流が生まれるような仕掛け、空間作りが大切。
- ・子育て、高齢者を支える環境整備と分けて考える必要なく、一体で取り組みを進めるべき。

○災害時の食料供給備蓄機能の整備

- ・平常時は給食センターとして、有事、災害時は配食のサービスができる施設として利用できるなど、機能の複合化が必要である。

○子育て、高齢者を支える環境整備

- ・子供と高齢者がコミュニケーションを取りにくい環境になっている。
- ・別海は公共施設が充実している一方で、利用できない人（そこまで行けない人）の交流を促すためにどうすべきか、考える必要あり。交流の仕組みを検討する必要がある。
- ・核家族化が進み、車社会となり、街に人の気配がない。高齢者が子供と触れ合うことで認知症を予防する支え合う関係の構築ができればいい。
- ・中標津の夢の森のような、雨天時も遊べる施設があり、そこで高齢者の居場所があるといい。
- ・福祉牛乳を取りに来る場で交流が生まれている。同様のコミュニティや交流を他にも生んでいきたい。

○地域を支える商業空間の充実

- ・商業を観光へつなげる。通過型から滞在型への転換を！
- ・高齢化が進み、一次産業の規模が縮小してきている。店舗もスーパー化してきており。地元の産品をメインとしながら、他地域から人を呼び込むような店舗づくりが必要ではないか。→観光客の呼び込みにも繋げていかなければならない。
- ・尾岱沼の海産物、酪農からなるチーズなどの乳製品を目玉に、通過型から滞在型への転換が必要。

○雇用環境の改善と場の創造

- ・新施設の維持管理運営での雇用創出を。
- ・生涯学習センターなどの複合施設ができれば、そこを維持管理する雇用が生まれる。また店舗や食堂などでの雇用も考えられる。

○利便性向上を図る交流拠点の充実

- ・今の公民館機能の更新を図り、室内環境、音響の設備充実を図る。
- ・中央公民館機能を更新すること（大型のコンサートなどは根室、中標津でいいのでは）
- ・室内環境、音響施設をよくすること。
- ・それぞれの地区の公民館との役割、機能分担を考えること。

○支えあう関係をつくる複合機能の整備

- ・小さい活動の積み重なりができる場作りを。
- ・サークル的な活動のイメージで。給食室で料理教室、焼き物教室、ダンス教室など
- ・様々な人が様々な活動し、交流する小さいブースがある。
- ・施設の複合機能化が必要ではないか。
- ・地域全体で子供や高齢者を見守ることが大切。

○その他

- ・公共施設の空きが増えている。リノベーションが必要。
- ・人付き合いが苦手な高齢者も多いが、子供を介するとスムーズに交流できることも。

<D テーブル>

○集い、つながる交流機能の充実

- ・「子育て、高齢者を支える環境整備」の発展形で外の人も巻き込むイメージが良い。
- ・建物の他に外の広場が必要である。
- ・木育広場。
- ・集まった人が起業（「雇用環境の改善と場の創造」につながる）
- ・（「子育て、高齢者を支える環境整備」と同じではないか）

○災害時の食料供給備蓄機能の整備

- ・海、山の近くに居住する人は取り組んでいるが、中心部の人には危機感が薄い。
- ・町内外の人、郡部から通って来る子どもや観光客のための防災センターがあると良い。
- ・備蓄について、米等は消費期限があるため、定期的な使い道も合わせて考える。
- ・なにを備蓄するか、しっかりと検討し、定期的な更新をする必要がある。
- ・自衛隊や町内各部署で対策がバラバラなので、トータルで連携させる必要がある。

○子育て、高齢者を支える環境整備

- ・内部の人中心のイメージ
- ・まちの維持のために子どもは大事である。子育てがしやすいまちになるとよい。
- ・高齢者の豊かな知識を活用する。子どもと触れ合うことでお年寄りも元気になる。
- ・高齢者の知恵を伝承していく必要がある。
- ・外部からの目を大事にする。
- ・核家族が多くなっても、地域の子どもはみんなで育てることが大事。
- ・自分一人で育てるのは無理なので、みんなで育てることが大事である。
- ・いろんな人が子どもに関わることで子どもに良い教育になると思う。
- ・郷土を地元の人知らない。郷土を知る力を育みたい。
- ・別海にはいろいろな豊富な歴史がある。
- ・（「雇用環境の改善と場の創造」、「支えあう関係をつくる複合機能の整備」につながる）

○地域を支える商業空間の充実

- ・地元の食材（魚）を買う場所がない。
- ・お魚、チーズなど別海のもものがまとまって買える場所がほしい。
- ・外からお客さんが来ても、別海の食材を出してあげることができない。お土産が買えない。
- ・まちの人が地元の良いものが当たり前になってしまっていて、発信していない。
- ・（「支えあう関係をつくる複合機能の整備」につながる）

○雇用環境の改善と場の創造

- ・外から来た人が生活できる環境が必要である。
- ・文化的な側面もあるのではないか。
- ・チャレンジオフィスなど支援する場を整備したい。
- ・将来は ITC 系の仕事が増える。小さく始められる場が必要である。

- ・新たな雇用を生む搾乳の IT 化をしたい。
- ・（「支えあう関係をつくる複合機能の整備」につながる）

○利便性向上を図る交流拠点の充実

- ・別海町には音楽が好きな人が多い。中標津交響楽団の半分は別海町の人占めている。
- ・400～500 席程度の音響の良いホールが良い。
- ・本物のホールが良い。外の人からここで演奏したいと思われるようなもの良い。
- ・子どもころから良い音を聞かせて、イメージ力を育む必要がある。
- ・採算が合わないと運営できない。人口規模から考えると、同じものはいらぬのではな
いか。
- ・予算のこともあるが、町民ファンドで募っても良いのではな
いか。
- ・多目的な利用などを検討し、稼働率を上げる。
- ・（「雇用環境の改善と場の創造」、「支えあう関係をつくる複合機能の整備」につながる）

○支えあう関係をつくる複合機能の整備

- ・複合的は中途半端になる可能性があり、危険である。
- ・結果的に複合化することが大事である。

<E テーブル>

○集い、つながる交流機能の充実

- ・空き家、空き部屋を活用できると良い。
- ・せつかくあるスペースなので、交流のためなどに活用したい。
- ・アパートが足りない反面、空き家もある。

○災害時の食料供給備蓄機能の整備

○子育て、高齢者を支える環境整備

- ・「行ったら誰かがいる」という場があると良い。
- ・生き生きと楽しく生活できるまちが良い。
- ・地域内や家庭内でコミュニケーションが取れるようになると良い。
- ・お年寄りのやさしさの中で子どもが育つと良いのではな
いか。
- ・家のつながりだけでなく、社会から影響を受けて育つと良い。
- ・笑顔で暮らせることが大事。子どももお年寄りもお互いに学べる
ことがあると思う。
- ・高齢者と子どもが交流できる機会がない。
- ・保育所のお散歩コースにお年寄りの施設を組み込めな
いか。
- ・トイレ休憩に活用してはどうか。
- ・車を手放し移動手段がない方も気軽に参加できるようになると
良い。各地域で集まりが
あると良い。
- ・核家族が問題になる中、シェアハウスなどが注目されている。
- ・個を大事にしつつ集える価値がある。
- ・週 2 回の福祉牛乳を受け取る際に、コミュニケーションが生まれる。
- ・子どもを遊ばせられるコーナーがあると良い。

- ・ふれあいの家の交流スペースのようなものが良い。

○地域を支える商業空間の充実

- ・観光客がホタテなどの水産物を買える場所があると良い。
- ・別海産のものが売っていない。
- ・地域で消費することで食育にもつながるのではないかな。
- ・地域で買える魚や野菜が少ない。売っていれば観光客に知ってもらえる。
- ・病院の前で朝市や軽トラ市をやるとう良いのではないかな。
- ・移動手段がない方も安心して暮らせるように、移動販売や配達、オンデマンドバスがあると良い。

○雇用環境の改善と場の創造

○利便性向上を図る交流拠点の充実

- ・中央公民館はサークル活動や展示等の観覧、福祉牛乳の受け取りで利用している。
- ・現在の中央公民館の駐車場は狭い。1台1台のスペースも狭い。
- ・各地域の拠点には町内会館がある。
- ・人が集まりやすい場所がよいのではないかな。
- ・避難所としても活用できるとよい。

○支えあう関係をつくる複合機能の整備



3. テーブル投票及び集計結果

事業説明、情報提供、他の町民の意見を聞き、これからの別海町にとって重要なこと、大切にしたいことの再認識の結果を把握するため、シール投票を再度行った。投票は、一人5票ずつで1項目に複数投票可とした。

その結果を以下に示す。

基本方針を具現化する手立てのイメージ	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ	合計
集い、つながる交流機能の充実	2	1	6	0	5	14
災害時の食料供給備蓄機能の整備	3	4	7	0	1	15
子育て、高齢者を支える環境整備	8	10	12	5	9	44
地域を支える商業空間の充実	7	17	2	3	4	33
雇用環境の改善と場の創造	2	6	2	3	3	16
利便性向上を図る交流拠点の充実	6	0	10	4	6	26
支えあう関係をつくる複合機能の整備	2	7	1	5	2	17

※Dグループは「集い、つながる交流機能の充実」と「子育て、高齢者を支える環境整備」をまとめ投票を行った。

基本方針を具現化する手立てのイメージ	順位	
	1回目	2回目
集い、つながる交流機能の充実	4	7
災害時の食料供給備蓄機能の整備	7	6
子育て、高齢者を支える環境整備	1	1
地域を支える商業空間の充実	2	2
雇用環境の改善と場の創造	5	5
利便性向上を図る交流拠点の充実	3	3
支えあう関係をつくる複合機能の整備	6	4

【ワークシート】
 <A テーブル>



<B テーブル>



<C テーブル>



<D テーブル>



<E テーブル>



2-4 矢臼別演習場周辺まちづくり構想(基本構想原案)に係る町民意見の公募について

防衛施設の存在によって生じる地域づくりの制約などに対し、計画的な対策を講じることで安心安全なまちづくりが進める「矢臼別演習場周辺まちづくり構想(基本構想)」の策定については、別海町の中心的市街地である別海地区のまちづくりにおける基本的な指針となること。また、公共施設等の整備に係る基本的な視点が含まれることから、広く町民等に意見を伺うことを目的にパブリックコメント(町民意見の公募)を実施しました。

■意見の公募期間

平成28年2月12日(金)から3月14日(月)までのおよそ1か月間

■原案資料の閲覧場所

- (1) 別海町役場ホームページ
- (2) 別海町役場1階 町民ロビー、別海町役場総合政策課
- (3) 西春別・尾岱沼支所、上春別・上風連連絡事務所
- (4) 別海町中央・西・東公民館、別海町図書館、別海町町民体育館

■意見提出対象者

- (1) 町内に住所を有する方
- (2) 町内に事務所又は事業所を有する個人又は法人
- (3) 町内の事務所又は事業所に勤務する方
- (4) 町内の学校に在学する方
- (5) 前各号に掲げるもののほか、パブリックコメント制度に係る事案に利害関係を有する方

■意見募集結果

上記の期間意見を募集した結果、1団体2個人の方から14件のご意見・ご提案をいただきました。提出された意見及び町からの回答は、次のとおりです。

■提出された意見とそれに対する町からの回答

No.	提出された意見	町の考え方
1	<p>新館の設置場所等について</p> <p>活性化・発展のためには、人が多く集まり賑やかな場所が必要です。</p> <p>新会館建設場所の意義は非常に大きく、このため市街地（①公民館病院跡 or②ぷらと広場）での建設が必要不可欠と考えます。</p> <p>説明① 公民館・病院跡</p> <p>多くは、狭い駐車スペースも取れない、病院・公民館跡はとにかく無理だ・・・が定説</p> <p>→確かに狭いが元保健センター用地活用、現保健センター駐車場用地活用と建築工夫で不可能ではないのでは？。駐車場は病院・特養・保健センターと一部共用する。</p> <p>医療・保健・特養・老健施設に寄った帰りに、新会館の催しを観て、天気良いので公園で弁当・・・金融機関に寄り、帰りに買物に・・・等もありかな。</p> <p>説明② ぷらと広場</p> <p>ここもまず駐車場スペースが取れない、狭い話しから始まる。私有地は買い上げ、メディア館と連結し円滑な利活用をする。イベントの中心場所として大勢の人が集まり、買物・飲食の経済的にも大きく寄与するのではないかと考えます。</p> <p>①②に共通</p> <p>勿論別海町民・町外の人でも年齢に関係なく人が集まる。サークル、スポーツ、高齢者・子供達等交流、そこから人が繋がり、自然に広がっていくものではないか・・・。</p> <p>人（仲間）が集まって、お茶飲み、弁当、コーヒータ임、買物、語らいで次につながり、商工経済にも好影響をもたらすでしょう。</p> <p>これから百年、人口減は否めないが、前記のとおり、まず新会館建設から活性化が始まるのではないかと思います。</p> <p>この事が叶ったなら複合的施設を視野に検討していければと思います。</p>	<p>中央公民館の建て替えを軸とした(仮称)生涯学習センターの建設場所や施設規模については、平成28年度に実施するまちづくり構想(基本計画)の策定において、いただいたご意見を含め検討を進めます。</p>

<p>2</p>	<p>新会館の規模などについて</p> <p>勿論大きい事はいいことだ！ではなく、身の丈にあったものにすべきです。よく言われる千席規模を！から話しが始まり、駐車場何百台、・・・それには用地が広く必要になるのは当然ですね。</p> <p>大ホールは5百席内、必要な室を確保はいうまでもありませんが、維持管理費を十分に念頭におく必要性があります。市街地形成が別海町と中標津町では、散在と一極集中とで大きく違うことに鑑み、規模を考えなければなりません。</p> <p>各室の充実はいうまでもありませんが、それらに付随して多目的活用可能なロビー、また喫茶コーナーなどもあれば、自由に休憩歓談できたりして利用し易いと思います。</p> <p>また合わせてマルチメディア館活用も視野に入れるのも必要です。</p>	<p>(仮称)生涯学習センターのホール規模や各室の機能については、平成28年度に実施するまちづくり構想(基本計画)の策定において、いただいたご意見を含め検討を進めます。</p> <p>なお、既存施設の活用については、施設毎に設置された目的が異なるため、施設間の連携や重複する機能を整理するなどの仕組みづくりが重要であると考えています。</p>
<p>3</p>	<p>地元産品の「地産地消」が普段から出来る場所づくりについて</p> <p>第一次産業の町として、町の特産品(飲食含めて)かなり充実してきているが、町民が普段気軽に立ち寄り利用出来る形態ではない。</p> <p>(例として)</p> <p>本州へお中元・歳暮を送りたいが・・・乳製品は酪農工場・他店で注文するか、海産物は尾岱沼・本別海・他店で探すか？ 送り状を書くのも大変だなあ・・・なんて考えながら・・・。</p> <p>そうしているうちに、新聞チラシを見つけて、品数もあるし安い、送料無料、送り状もあるし・・・じゃ中標津へ行って一気に終わらせるか・・・。</p> <p>このことは、別海町の素晴らしい産品を取り扱う所が整備されれば、より地産地消が普段から進むと思いますし、訪れたお客さんを案内出来るなど、より効果的ではないかと思います。</p>	<p>町内の特産品等に係る集約的な販売体制については、生産者や小売店事業者等を交え、協議を重ねる必要があると考えています。</p> <p>いただいたご意見・ご提案を参考に、今後のまちづくり構想の検討を含め、町政を進める上でも参考とさせていただきます。</p>

<p>4</p>	<p>図書館/郷土資料館について</p> <p>多くの人が集まる新会館建設に伴い、図書館/郷土資料館機能の一部を担うことも一つの手法かと思えます。</p> <p>ただ用地確保・予算問題で現実的には難しい面があるが、施設のPRも兼ねてそのスペース確保も視野に入れてみてもいいのではないだろうか。</p>	<p>既存の図書館や郷土資料館については、既に別海地区内にあり、それぞれに関連する法律や設置された目的が異なる状況にあります。</p> <p>いただいたご意見については、平成28年度に実施するまちづくり構想(基本計画)において、検討したいと思います。</p>
<p>5</p>	<p>自衛隊員と町民の交流・協力について</p> <p>すでに行事として定着したものが多くありますが、1つ中止していただきたい事があります。</p> <p>武器・弾薬を展示し、子どもたちにさわらせていると参加した人から聞きました。</p> <p>これらの物は、戦いの場で人を殺傷するためのものであり、子どもたちに触れさせてほしくありません。(手りゅう弾など)</p>	<p>まちづくり構想(基本構想原案)16から18頁「3-2 自衛隊員と町民の交流・協力」は、既に実施されたイベント等内容を記載した部分となっています。</p> <p>なお、別海駐屯地の係るイベント等での装備品展示の内、手りゅう弾などの火器・弾薬の展示及び接触機会は設けられていないことを確認しています。</p>
<p>6</p>	<p>公園遊具など補修事業について</p> <p>公園遊具が突然使えなくなった時があり、私たちは調査し、工期を速めてほしいと要望したことがあります。今後同様の事があるときなど、公園入口に「閉鎖の理由・工期」などを利用者に知らせる工夫をしてほしいです。</p>	<p>児童遊園地遊具等の撤去や新設の工事に係る周知については、町内会回覧板及び町広報紙、工事看板を用い、引き続き周知を実施します。</p> <p>なお、拙速な工期は、事故等につながる恐れがあるため、工事内容から見て、十分な期間を設定した上で工事を依頼しています。</p>

<p>7</p>	<p>防災計画について</p> <p>各施設の収容人数などの一覧はできていますが、避難者のための防災備品が整っているか(寝食に不可欠なもの)不安です。住民の安心のため、備品の情報も加えて欲しいです。</p>	<p>まちづくり構想(基本構想原案)25から26頁「3-2 別海町防災計画」は、別海町防災計画、べつかいの防災(別海町防災避難所マップ)等を参考に記載しています。</p> <p>いただいたご提案については、町内全戸に配布しているべつかいの防災(別海町防災避難所マップ)改定の際の参考といたします。</p>
<p>8</p>	<p>住民アンケートについて</p> <p>2,500人抽出で回答868人(34.7%)は、住民の声を聴くという点では少なすぎるのではないのでしょうか。大事なまちづくりの内容であり、全有権者に実施してほしいです。</p>	<p>まちづくり構想住民アンケート調査は、回答を統計的に処理することで、全体的な意見傾向を把握することを目的に実施しました。</p> <p>今回のアンケート調査では、統計的な視点から見て、必要な回答者数を約400名と設定し、18歳以上の町民12,816名の内、2,500名の方を抽出しました</p> <p>その結果、868名の方から回答が得られたことで、一定程度の意見傾向を把握できたものと考えています。</p> <p>なお、意見聴取の機会としては、本パブリックコメントを含め、まちづくり住民大会など全ての町民や関係者等が参加可能な住民参加機会を複数設定したところです。</p>

<p>9</p>	<p>構想対象エリアの課題について (拡大する住宅域の位置づけ・市街地のコンパクト化)</p> <p>子育てを終えた高齢者が広い自宅に住み続けているケースは多いと思います。</p> <p>また亡くなられた後空き家になっている家もあります。自立した生活が困難になり家を手放したい高齢者がいる反面、安価な家を求めている世代もいるのではないかと思います。コーディネートする機関があればうまく運ぶのではないのでしょうか。</p>	<p>町内での住み替えや転入・転出に際しての住宅の確保については、様々な状況の方がいると考えます。</p> <p>町が所有する不動産以外の情報の把握と発信等については、新規開業・事業拡大を含め、民間事業者の取り組みを支援していきたいと考えています。</p>
<p>10</p>	<p>消費購買力の域外流出、中小小売業等の衰退と商業の活性化について</p> <p>市街に大型店ができ便利になりました。でも地元の店を応援したいと思っています。しかし、入店してもあいさつの声も無いなど、営業努力が足りない店もあると思います。商店街活性化にはお店の努力は欠かせません。</p>	<p>小売店における接客態度は、商品の品揃えや価格などと同様に大切な要素であると考えています。</p>
<p>11</p>	<p>空き店舗や未利用地の有効活用 来街者の増加、回遊性や滞留時間の向上</p> <p>交流館ぷらとについては、「バス停」であり、様々な人が利用され、観光途中に立寄る場としての役割も果たしていると感じています。</p> <p>しかし、観光パンフが並べてあるだけで、殺風景でなんのサービスもない場です。</p> <p>キヨスクも閉店してさみしい限りです。地元の物が買えたり、観光案内所が中にあるれば活性化につながると思います。</p> <p>また、プラト前の広場では、時々花屋さんが来てにぎわっています。住民による軽トラ朝市や、青空市場など開催できたら、地元の野菜を買える機会が増え一石二鳥です。道の駅に準ずる場とし</p>	<p>別海町交流館(愛称 ぷらと)施設内では、既に別海町観光案内所が設置され、観光案内の他、宿泊施設の案内を実施しています。</p> <p>また、ぷらと前広場の活用に係るご提案については、今後の参考とさせていただきます。</p>

	<p>での機能がほしいです。(店舗に別海産鮭が少なすぎます!!)</p>	
12	<p>基本方針を具現化する手だて (仮称)生涯学習センターに対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FM ラジオ局を作り、地域の情報を発信する。 ・ 子育て中の母、女性、高齢者、子どもが無料で利用できるスペースが新しい施設にほしい。牛乳を取りに集まる人々がちょっと休憩し、お茶が飲めるようなコーナー、子どものおもちゃや絵本がそばにあって使用できるコーナーなど。 ・ 多世代間の交流のためのソフト面の充実 コーディネーターがいて、町内の団体や個人が「自分にできる応援」を登録制で受け付け、必要な個人や団体とつなげる。(子育て・通院・買い物など) 	<p>(仮称)生涯学習センターにおける機能については、平成28年度に実施するまちづくり構想(基本計画)の策定において、いただいたご意見を含め検討を進めます。</p>
13	<p>その他まちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町立保育園の定員増を! ・ 町立別海病院の小児科・産婦人科の維持を! <p>◎子育てを現実的に応援してほしい。道内2位の出生率を応援するためにも。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワンデイサービスという近隣住民との交流の場を月1回「すずらん」という事業所が実施し定着していると聞いています。そのような交流の場が町内にもっと増えれば、近所の高齢者に声をかけ歩いて集まることもできます。 各町内会の会館利用や個人宅を借りてもいいのでは。近くに住む高齢者の見守りや子ども世帯の支援にもつながります。 	<p>子どもを生み育てられる環境づくりは、出生率や定住に係る重要な要素のひとつであると考えています。</p> <p>いただいたご意見・ご提案については、町政を進める上で参考とさせていただきます。</p> <p>また、自主的な町民等の活動については協働のまちづくりの観点から引き続き、支援したいと考えています。</p>

<p>14</p>	<p>別海町の自衛隊は、住民又は酪農を営む方々へ騒音等の影響はあるものの、地域の活性化、経済的効果、災害時における救済対応への安心感等地域に果たしている役割は重要な存在であると考えます。又米国兵との合同演習もアジア情勢が緊迫化している状況にあっては、一定の理解は必要かと思えます。</p> <p>町づくりにあって人口減少は大きな障害であり別海町の町政執行方針で人口減少、少子高齢化、後継者不足による離農の増加等町人口は1万人を切る2060年まで減少傾向が続くとされた。今後は人口減少に歯止めをかけると同時に誘客の強化が求められているのではないかと。道東道が釧路まで整備され、又釧路から根室管内間の高規格道路の開通、北方領土の返還は厳しい状況下ではあるが、可能性にかけるとしたら長期的な展望に立った対応が必要になると思われる。</p> <p>①居住者が町外に転出する理由</p> <p>②生活圏や医療等の町外流出(大型スーパー、1市4町に大きな病院 別海町に誘致)</p> <p>③誘客への施設の可能性はないか</p> <p>④外圧に影響されない農産物生産の確立(雇用を含めた栽培等)</p> <p>⑤鮮魚市場の開設の可能性(例えば和商市場のような)</p> <p>⑥郊楽苑を核とした宿泊施設の充実</p>	<p>矢臼別演習場における騒音や振動は、酪農家の方をはじめ、地域住民や産業振興等にも多大な影響を与えています。</p> <p>まちづくり構想は、防衛施設が存在する本町の状況を踏まえ、自衛隊員等を含む地域住民の文化的な交流や地域における防災活動に資するまちづくりを想定したものです。</p> <p>いただいたご意見・ご提案については、今後のまちづくり構想の検討を含め、町政を進める上でも参考とさせていただきます。</p>
-----------	--	---

※提出されました意見については、原文を尊重し掲載しております。

3 矢臼別演習場周辺まちづくり構想策定に係る庁内組織

■矢臼別演習場周辺まちづくり構想検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 矢臼別演習場周辺まちづくり構想（以下「まちづくり構想」という。）の策定に関して必要な事項を審議するため、矢臼別演習場周辺まちづくり構想検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討委員会は次の事項を所掌する。

- (1) まちづくり構想に係る諸般の計画案を審議すること。
- (2) まちづくり構想に係る町民参加機会に関すること。
- (3) その他まちづくり構想に必要と思われる事項に関すること。

(組織)

第3条 検討委員会は、副町長、教育長、部長職及び次長職で組織する。

(任期)

第4条 委員の任期は、まちづくり構想が策定されるまでの期間とする。

(会議)

第5条 検討委員会の会議は、必要に応じ副町長が主宰し、副町長に事故あるときは教育長がその職務を代理する。

(関係者の出席)

第6条 検討委員会は、必要があると認めるとき構成員以外の職員及び学識経験者等の出席を求めることができる。

(庶務)

第7条 検討委員会の庶務は、総合政策課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、会議に諮り定める。

附 則

この訓令は、平成27年5月27日から施行し、平成30年3月31日限り、その効力を失う。

■矢白別演習場周辺まちづくり構想検討委員会委員名簿

部 署 名	職 名	氏 名
	副町長	佐藤 次春
	教育長	真籠 毅
総務部	部長	竹中 仁
	次長	佐藤 告
福祉部	部長	河嶋 田鶴枝
	次長	荒木 英二
産業振興部	部長	佐藤 則夫
建設水道部	部長	宮越 正人
	次長	金田 秀幸
	会計管理者	田保 圭乙
農業委員会事務局	事務局長	山崎 茂
議会事務局	事務局長	登藤 和哉
監査委員会事務局	事務局長	佐藤 敏
別海町立病院	事務長	佐藤 一彦
教育委員会	部長	中谷 隆弘
	次長	上杉 光博
	次長	下地 哲
別海消防署	署長	滝吉 良治
	副署長	河嶋 正好

※平成28年3月1日現在

■矢白別演習場周辺まちづくり構想検討委員会の開催状況

第1回矢白別演習場周辺まちづくり構想検討委員会

日 時 平成27年7月9日（月）午後3時から4時15分

場 所 役場庁舎1階 101・102号会議室

出席者数 委員15名、事務局5名

【会議次第】

1 開 会

2 議案第1号 矢白別演習場周辺まちづくり構想について（全体把握）

- 3 議案第2号 矢臼別演習場周辺まちづくり構想策定に関する委託業務について
- 4 その他
- 5 閉 会

第2回矢臼別演習場周辺まちづくり構想検討委員会

日 時 平成27年11月11日(木) 午後3時から4時10分
場 所 役場庁舎1階 101・102号会議室
出席者数 委員18名、事務局5名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 副町長挨拶
- 3 議 事
報告第1号 第1回検討委員会開催以降の経過について
議案第1号 町民参加の進め方について
(1)矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会の設置について
(2)住民アンケートの実施について
(3)住民大会(説明会)の開催について
(4)パブリックコメントの実施について
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

第3回矢臼別演習場周辺まちづくり構想検討委員会

日 時 平成28年1月13日(木) 午前9時30分から4時10分
場 所 役場庁舎1階 101・102号会議室
出席者数 委員17名、事務局5名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 副町長挨拶
- 3 議 事
報告第1号 第1回まちづくり構想住民懇話会の実施について
報告第2号 まちづくり構想(基本構想)住民アンケート調査結果について
議案第1号 まちづくり住民大会の開催について
議案第2号 まちづくり構想関係機関懇話会の設置について
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

第4回矢臼別演習場周辺まちづくり構想検討委員会

日 時 平成28年2月8日(月) 午後3時から4時45分
場 所 役場庁舎1階 101・102号会議室
出席者数 委員16名、事務局5名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 副町長挨拶
- 3 議 事
報告第1号 まちづくり構想(基本構想)住民アンケート調査結果について
報告第2号 第2回及び第3回まちづくり構想住民懇話会の実施について
議案第1号 矢臼別演習場周辺まちづくり構想(基本構想)(素案)について
議案第2号 今後の取り組みについて
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

第5回矢臼別演習場周辺まちづくり構想検討委員会

日 時 平成28年3月17日(木) 午後4時から5時15分
場 所 役場庁舎1階 101・102号会議室
出席者数 委員16名、事務局4名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 副町長挨拶
- 3 議 事
報告第1号 まちづくり構想住民大会の開催結果について
報告第2号 まちづくり構想(基本構想原案)パブリックコメントの実施結果につ
いて
報告第3号 まちづくり構想防災関係機関の会議の実施について
議案第1号 まちづくり構想(基本構想案)について
- 4 その他
- 5 閉 会

4 矢臼別演習場周辺まちづくり構想策定に係る関連した会議

矢臼別演習場周辺まちづくり構想防災関係機関の会議

日 時 平成28年3月9日(水) 午前10時45分から11時15分

場 所 役場庁舎1階 101・102号会議室

出席者数 20名 ただし、以下の人員を含む

オブザーバーとして、北海道防衛局企画部 周辺環境整備課 3名

事務局5名、委託事業者1名

【会議次第】

1 開 会

2 町長挨拶

3 議 事

議案第1号 矢臼別演習場周辺まちづくり構想について

4 閉 会

■平成27年度矢臼別演習場周辺まちづくり構想 防災関係機関の会議出席者名簿

所 属	職 名	氏 名
別海町	町長	水沼 猛
釧路開発建設部根室道路事務所	所長	佐藤 修也
陸上自衛隊第27普通科連隊	中隊長	大濱 竜也
根室振興局地域政策部地域政策課	主査	齊数 琢也
中標津地域保健室	次長	藤岡 正勝
中標津警察署警備課	警備係長	辻 功
根室北部消防事務組合 別海消防署	署長	滝吉 良治
根室北部消防事務組合 別海消防団	団長	丹羽 謙司
一般社団法人北海道医師会 (根室市外三郡医師会)	町立別海病院 事務長	佐藤 一彦
別海町総務部	部長	竹中 仁
別海町総務部防災交通課	課長	宮本 栄一

【オブザーバー】

所 属	職 名	氏 名
北海道防衛局 企画部 周辺環境整備課	課長補佐	安田 良章
	係長	町田 政義
	係員	杉山 亮介

矢白別演習場周辺まちづくり構想
(基本構想資料編)

発行日 平成 28 年 3 月 22 日

発行者 北海道野付郡別海町常盤町 280 番地
別海町

印刷 株式会社 KITABA